男女貞潔之理想　會長　島田三郎

公娼廢止之主張　副會長　安部磯雄

（大正七年十月一日印刷）（大正七年十月一日發行）（毎月一回一日發行）

4—803

廓清

遺傳と環境號

第八卷　第九、十號

東京　廓清會本部　發行


赤ちゃんのお口を
清潔にするには、
芳香含嗽料
ライオン水歯磨の
二三滴をコップ一杯の水の落し、それ
に脱脂綿を浸して、お口の中を拭つて
あげるのが最もよろしうございます。
LION
LIQUID
DENTIFRICE
ライオン歯磨

廓清

THE PURITY

大正七年十月

第八卷 第九、十號



□□□ 遺傳と環境號發刊の辭 □□□

吾人は一昨年の秋季倍大號に於て『男女交際問題』に就き同人の主張を發表した。更に昨年の倍大號に於ては『家族制度問題』の新研究を公にした。其時吾人は、男女交際の新道德が開かれたならば、次に來るものは『戀愛と結婚』號である。我等は如何に戀愛し、如何に結婚すべきかを說かなくてはならぬ。乍併我國には家族制度といふものが、非常に根強く、枝を張つて居つて、嫁と姑の問題も、繼母子の問題も、結婚離婚の問題も、乃至教育職業、一切の問題が此の下に繫がれて、尊き人格が全く蔑如せられて居る。先づ此の絆を斷たなければならない。といふので『家族制度問題』號を發刊したが、時代の急所に觸れた此企ては、果然大なる反響を見た。

されば吾人は立返つて『戀愛と結婚』の上に新しき道德を樹て、新人の嚮ふべき方角を指示する處なくてはならぬ時期に達した。乍併茲に社會から閑却されてゐる新しき重大問題がある。それは卽ち遺傳と環境の研究である。

蓋し、環境は人生の平面であり、遺傳は其立體である。吾人の生活は卽ち遺傳と境遇を經緯として織出されたものに外ならぬ。故に人生の眞相を索るものは之を二面に分析して始めて爼上に置く可きである。而も優種學の如きは最も新しく開かれたる學問である。

卽ち吾徒社會の改善を企て男女道德を講ずる者の立場として、遺傳と環境の及ぼす影響を明かにし、進んで優境と優種を作り出さん事は、また本會の使命でなくてはならぬ(江南)



遺傳と環境に就て

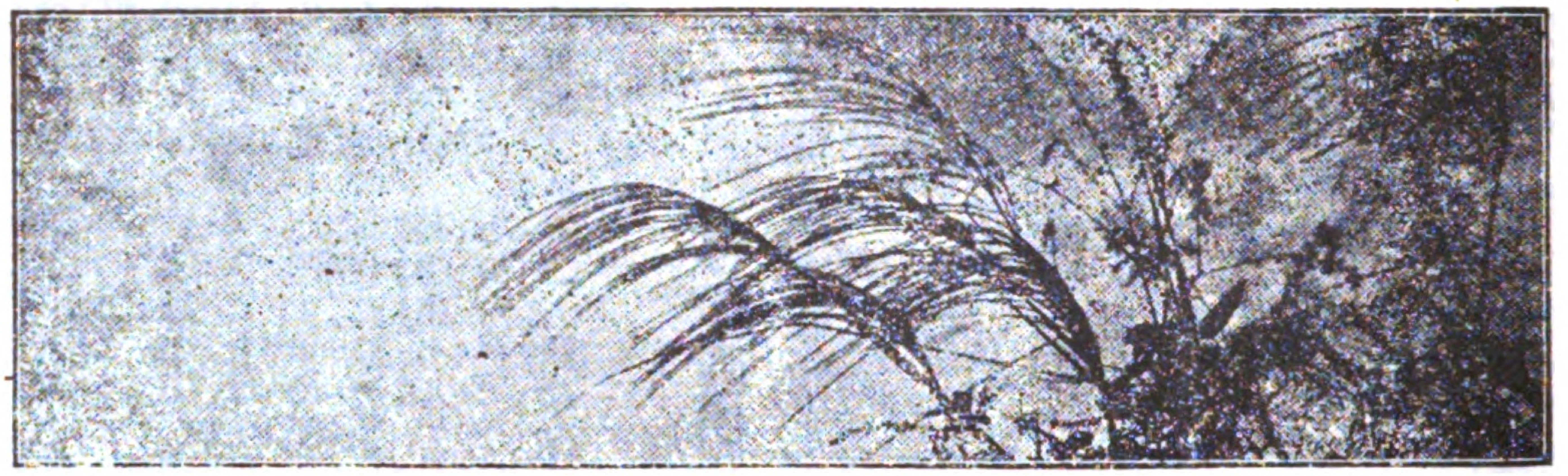
廓清會長　島田三郎

□遺傳と環境に對する古人の概念

近代の學説によつて遺傳の事が的確に證明せられ、境遇が人生を左右する事も社會學の方面から高調せらるゝが、遺傳と云ひ境遇といふ文字こそは新しけれ、又其の證明論理法こそ正確なれ、其の原理と思想とは古來より朧氣ながら認められて居る。支那の古書によれば、胎教の事が事績並に推理によつて早く認められて居る。烈女傳に文王の母太任が妊娠した時眼に惡色を見ず耳に淫聲を聞かず、夜は瞽をして詩を歌はしめ、正しき事を感ずる様にした、爲めに生れた子は聖德を備へて遂に周の先祖となつて、八百年の泰平を開く基が玆に起つたと云はれて居るのである。宋の朱熹は「小學」を編纂して此事實を引き、胎教の大切なる事を唱へた。斯くの如きは實に現在の學術の證明する處にして、遠き系統の遺傳迄には行つて居ないけれども、少くとも親が子に其性行思想を遺傳する處の一端を示してゐるのである。更に境遇の方面から云へば、生れた後の習はしによつて、其性質に著しき影響を與へる事は、『幼成天性の如く習慣自然の如し』といふ宋人の教育の格言によつて道ひ表はされてゐる。

世俗の常識普通人の眼によつても一般に信ぜられ、一切學問に關係なくして確知せらるゝ事は、親の言行が子に影響すること、子の容貌が兩親に肖ることとは萬人の見て普く知る所である。世俗の言葉を借りて言へば彼の『親の因果が子に報う』といふが如き、學問上より評すれば遺傳の原理を影の如くに示したるものとせざるを得ない。而して此の漠然たる而も俗間に普く行はれる事實と道理とが、今日正確に學語によつて遺傳と遇境の文字に顯はれ來つたのである。

□生物界に於ける學理の應用



而してそれが最も實際に有益に表はれてゐるのは、人間社會よりは寧ろ他の生物界であつて、人間に一番遠い生物は植物であるが、植物の良種を選んで之を播き之を培養すれば美麗なる花や優良なる果實を作り出す事は、一般の植物家が現在に普く實行して、其の良結果を收めてゐる處である。手近の一例を云へば、最も普通に流行するダーリヤは、以前は天竺牡丹と云つて日本の人が長く育てたものであつたが、植物家の丹精によつて其の改良の方法が巧みになり、今では其共進會を開いてダーリアの花の立派なのは殆んど牡丹に匹敵する程に美しくなつた。依つて天竺牡丹の名は殆んど無くなり、ダーリアの世となつて昔の天竺牡丹とは全く別種の如き感じを與ふる様になつた。斯の如きは遺傳の法則を應用したる顯著なる一例であつて、我々の如く植物學に智識なき者迄も、此實例を知る程になつた。米國カリフォルニア州の名高き有益植物の改良家バルバンクは、葡萄を無核のものに改造して終に無核葡萄の一種を産出し、覇王樹の疣刺を除き去りて無刺の別種を産出し、牛羊の餌として疣刺の不便なかしめたるによつて大なる利益を牧畜家に傳へたることは有名な話である。

□江南の橘は江北の枳殻となる

我等は此一事實から二つの點を捕へる事が出來る。一は良種の選擇であり一は培養の方法である。種の選擇は遺傳の應用であつて、培養の方法は境遇の適用である。此の例はあらゆる植物に行はれて野菊が家園の菊となつたのも其一例である。菊は昔支那から日本へ來たのであるが、今は日本の特種の花となつて支那固有の物を凌いでゐる。更に日本の菊が歐米に移植せられ、芳艶の大輪は往々日本の菊を瞠若たらしむるに至つた。また支那の詩には菊は野趣を代表して隱逸の人に比せられてゐるのであつて、陶淵明の詩の如きは卽ち然りであるが、日本の歌や詩は菊花の艶麗を宮廷の間に賞讃して富貴を代表する牡丹と並んで稱せられて居る。此一事も亦ダーリヤと同じく遺傳と境遇との法則を證明するに足るものであると思ふ。殊に境遇の及ぼす影響の顯著なる例は、土地を異にするによつて殆んど其性質を一變するものがある。『江南の橘は江北の枳殻となる』とは久しき支那の諺である。楊子江の南の溫暖の氣候は柑橘を生み出し、其北土の寒冷の土地は之を下落せしめて枳殻とする。これ程境遇の物を變ずる原理を表はした實例は尠い。更に生物界に這入つて此原理を事實に見るのは野獸が家畜に變じ、家畜が更に顯著の改良せられて變化するとである。家豚は野猪の變種であり家鴨は雁の變

種であり、獵場で野猪の減少する場合には家豚を放ち置けば野猪と家豚との間に野猪が蕃殖するは其原種が同一であると境遇によつて家種の子が野種に還る實例を示すものである。種の改良すべきことは牛馬が其最も明白なる例である、日本の馬が近く三四十年の間に著しく變つて來たのは外國種を入れて更に其育成法を改良した結果である、乳を利用せざる昔の牛は、其體格も小で乳汁も僅に自ら生んだ子を養ふに過ぎない程であつたが、今日は體格の肥大となりたるは勿論、乳汁も豐富で、人間の滋養分を多大に供給して其味も極めて濃美である。

□他に應用して自ら盲動するの人

例を擧ぐればあらゆる生物に應用する事が出來るが、事は茲に止めて、更に人間の他の生物に向つて此原則を應用する事を知つて、自己が此の公則以外に盲動してゐる事を歎息せざるを得ぬ。生物といふ言葉の意味は、植物も動物も包攝し、人類は其生物の一種でその最も高貴なものである。支那の聖人は萬物の靈と云ひ、基督教の通説は、人は萬物の最後に作られたもので、靈性を具へて神の御手に救はるべき特種の恩寵を蒙つて居ると教へられる。此人類が遺傳と境遇との法則を他の生物に應用して之を上進せしむるの智識を有し技能を有するに不拘、自己の改良に至つては此法則を無視し、盲人の色を辨ぜざる如く、進歩を圖らんとせざるは眞に痛歎すべきことではないか、否進歩を圖らざるが如きは尚可なり、人間以外の物質を利用するを知つて、自己其者を却つて放逸に墮落せしむる事を顧みない者の滔々として最も多く行はるに至つては、言語同斷ではない乎、我々の屢々指摘する如く、病は遺傳を防ぐ事なくして却つて是を傳播するものがある、社會の境遇を無視して其改革に一點の同情なく、自己亦其影響を受けて特に子孫に不良なる遺傳をなし、人類の退化を招かんとするが如きは歎ずべきの限りである。

□人類福祉の道を壅塞するもの

他の生物に應用する智識ある人間が、却つて自己の改良に不忠實で、惡質の遺傳を防がず、自己亦其遺傳の害を受けて、更に自己の不注意より遺傳すべき惡素を自ら吸收しつゝあるに至つては、正に宇宙進化の妨害をなすものである。人類福祉の道を壅塞するものである。我々は時々實例に就ていふた如く、歐米諸國の不良少年は、社會の缺陷から來た物質の缺乏や避く可からざる境遇から來て、多く孤兒や極貧窮なる教育の資力なき方面から出て來るのであるが、我日本は特種の病弊を有して、人爵的に身分ある人、階級高き人、富貴の人の家庭より不良少年の出づる事實を觀ても、我國の遺傳と境遇とが如何に劣惡にして、識者の深く省察せざる可からざるものなるかを證明して餘りあると思ふのである。

『廓清』の本號が、遺傳と境遇に就て、各種の專門名家の說を蒐めて刊行する所以は、此の時弊を痛切に感じて、社會の覺醒を促さんとするの微衷に外ならぬ。

生物學上より觀たる遺傳と環境

理學博士　山內繁雄

□遺傳に對する二學說

進化といふ考は、決して近世に始まつたものではない、人間思想の記錄のあるだけ古く遡つても、此考はあるが、進化といふ考を、事實の觀察實驗に徵するに至つたのは近代である。ダーウヰン氏は一番よく一般の人に進化論者として知られて居り、氏の進化の原因の說明が、尤もでない場合が多いといふ難點があつても、無論進化の事實は存して居る。尤も誰一人異存のない樣な、滿足なる進化の說明は未だ出てゐない。

生物界に存する進化といふ大事實の說明を分析すれば、如何にして新らしき種が出來たかといふ事になる。凡そ親と子とは似て居る。平易に云へば、親から親の持ッてゐる性質を『遺傳』するからである。併し親と子と全く同じものであるならば、子々孫々と代を重ねても、同じで、少しも變らぬことになる。さうすれば新しき種が出來やう筈がない。併し進化の大事實によれば、漸く變り來つたものと信ずるより外はないから、親と子とは決して同じものではなからうと考へられる。實際親と子と持つてゐる其の特質を一々精密に比較すれば、無論異つてゐる。卽ち『變異』がある。從つて此の變異は何時どうして生ずるかの疑問が起る。つまり種の起原、遺傳變異等は相互に密接の關係のある問題である。

遺傳に關する說は多數にあるが、一番古く論じた人は希臘の哲學者アリストートルであれども、變異の出る譯を明瞭に說明してない。之を證明したのは佛蘭西の動物哲學者ラマルク氏である。氏の意見は其の宣言した次の法則でよく分る。

第三則　器官の發育をするのも、又器官の機能、力も其器官を使用するによる。

第四則　一生の間に自分で得た性質は殘りて其子に遺傳す

以上の二つはラマルク氏の意見の眞髓である。スペンサー氏は熱心に之に贊同して居り、明瞭に其眞理を探つて居るが、適當の例證となるべき事實を多く擧げてない、而して之に反對する意見は發生學者ワイズマン氏の意見で、多細胞生物で段々と高等のものになると、體を組立てゝ居る細胞は相互同士で異つた役目を分擔するやうになる。自分と同じ種類を後代に貽す役目、卽ち生殖の役目をする細胞を生殖細胞と云ひ、自分の個體を滿足に生きて行けるように役を司る細胞を體細胞といふ。そこで異つた生殖細胞と生殖細胞の結合、卽ち受精した卵から個體は出來るが、生殖細胞は體を作るのに

皆使はれてしまはぬ。其中の一部分は矢張生殖細胞となつて、今新しく出來た個體の中にあり、之れが個體の生殖細胞となるのである。換言すれば生殖細胞は生殖細胞から出來るので、體細胞とは關係がない。故に境遇は體細胞に影響するけれども、生殖細胞には關係がないから、一代に得た性質は遺傳しないといふのである。

以上の二派の説は全く相反し、何れの説にも道理があるが、併し何れの説も充分に人の滿足する樣な説明をしたのはない。一生の間に得た性質が子に傳はるか何うかといふ事は、非常に重大な疑問であるが、しうかいどうの葉一枚から、完全な植物體が出來る。葉は體の一部分で生殖細胞を含まぬのに、一個體が出來るとすれば、ワイズマン氏のいふが如く、生殖細胞と體細胞とは左樣に劃然たる區別をつけ得るものでない樣に思はれる。また子が生れる時の親の年齡の多いだけ偉い子が出來るといふ事實は、一代間に得た性質機能が遺傳質となつて子に傳はるといふ理論を認めなければ説明が出來ない。

□最近メンデル氏の法則

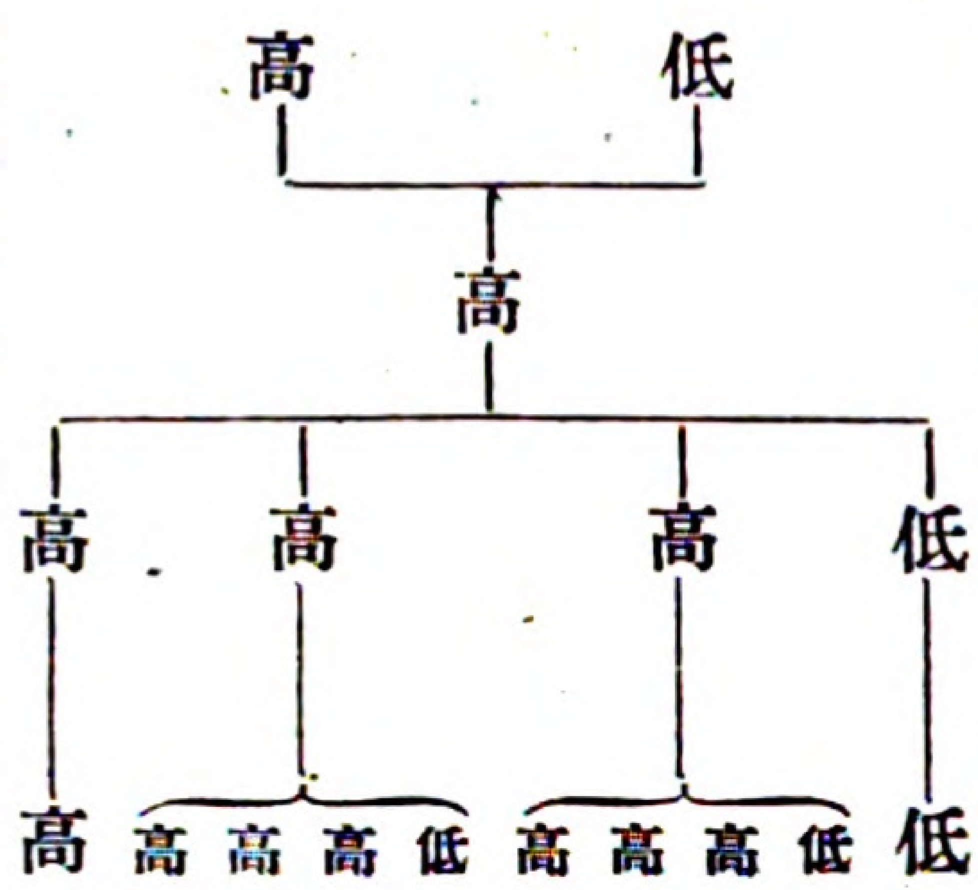
父母の性質は子に遺傳するであらうが、父母の性質が如何なる割合に傳はるか、此の原則を發見した人は、アウストリアのブルン市の僧グルエゴア●メンデル氏である。氏は一八五三年から一八六八年迄、博物學の教師をしてゐる間に、えんどう並に菊科植物で雜種を作る實驗を行ひ、幾度行ふても同一の結果を得る處から一八六五年に之を法則として發表した、之が所謂『メンデリズム』である。けれども當時學者が之を重んぜず三十五年も後になつて、始めてメンデリズムの極めて重要なる事に氣がつき、現今では非常に尊重される事となつた。

メンデル氏の實驗の簡單なる一例を擧げれば、メンデル氏は丈の高いえんどうを雌とし、低いのを雄として交配した。丈の高いといふのは六尺位、低いといふのは一尺八寸位である。そこで此雜種たる種子を蒔けば、生えた植物は何れも丈が高く出來てゐるから、此雜種では、母親の丈が高いといふ性質が遺傳して見える。之れをメンデル氏は優性と言ふて居る。但し父親の丈の低い性質は顯はれてないから、其低い性を劣性と言ふて居る。此高い雜種を自花授精さして種子を生ぜしめ、其種子を蒔いて生えたえんどうは、丈の高い事は丈の高い祖母に似、又其親たる雜種に似て居るのと、丈の低い祖父に似て居るのとある。即ち丈の低い性は、雜種の第一代目には劣性となり顯はれなかつたが、全く消え失せずに、第二代目に顯はれた。尚此の第二代目の雜種の中で、丈の低いのと、丈の高いのとの數の割合を勘定すると、一と三との割合である。更に第二代目の丈の低いえんどうを、自花授精さして行けば、低いものばかり出來る、即ち低いえんどうは、高いえんどうから出來て、其子孫は凡て低いえんどうばかりである。

第二代目の丈の高いのを自花授精さして種子を作り、之れを發生させると、それには丈の高いのもあり、又丈の低いのもある。即ち第二代目の丈の高い雜種には、二種ありて、一

は高いのばかりを生ずるもの、即ち丈の高い性質ばかりを純粋に持つものと、他の一は高いのも又低いのも生ずる不純のものとで、此二種の割合は、純のもの一に對し、不純のもの二といふ割合といふ事が分つた。

親　第一代　第二代　第三代



此結果を總括するに、高い遺傳性のものと、低い遺傳性のものとを交配させると、雜種は高い性を顯はす。併し高いといふ純粹の性のみでないから、自花授精さして、他の性質を少しも入込ましめぬけれども、第二代目には高い性のものと低い性のものとは百分比にすれば、七十五％と、二十五％の割合となる、其七十五％の中て、第三代目になると始めて分る樣に、二十五％は純て高いものばかり、五十％は不純て矢張第一代目の雜種のやうになる。故に第二代目の雜種は、總數二十五％は低い性の純粹のもの、二十五％は高い性の純粹のもの、五十％は第一代目の雜種同樣に不純粹で、高い性と低い性とを共に有つて居るが、高い性だけ優性になつて居るものである。



メンデル氏

以上メンデル氏が實驗により得た結果は、

第一、雜種には親の一方の性質のみ優性に表はれる事がある。即ち一方の親と同樣に見え、他の親の性は全く潛み隱れることがある。

第二、父母より雜種に入つた性質は、雜種の子、孫と、代を經るにつれ、定まれる數の割合に分離することである。

□我國民の環境は如何

植物及動物では、遺傳の事實の觀察、實驗によりて祖先の遺傳質が後代にあらはれる樣子を見、人間が手を下して或る特質のみを殘し、或る他の遺傳質を消去しやうとし、所謂植物及動物の品種改良を行つてゐる。之を人間の場合に應用すれば人種改良學が成立つ譯である。英國ロンドン大學の人種改良學實驗室は、ガルトン

氏が創設したので、人間の心身の特質の遺傳の實際を取り調・べて居る。

一國の風尚を廓清しやうとする企ては、文明諸國に於て著しく識者の苦心焦慮する所である。新進の勃興國なる我帝國に於ても、上爲政者より下は野にある識者に至る迄、常に此問題に就て考慮されてゐる。翻つて日常我國の國民生活の狀態を顧みるに幾多憂慮すべき事が、到底否定されない事實として表はれてゐる。

今日は歐羅巴に於ては戰雲が荒れてゐる時であるから、一層痛切に感ずる事であるが、假へば年々行はれる徵兵檢査の壯丁の體格に於ても、以前には其の健康度は、都市田園の區別あるだけで、都市は諸種の文明の惡弊の爲めに其住民の健康を損じ、從つて其子弟にして壯丁となるもの、健康度を減らして居つたが、之は各文明國に於て見る處で、敢て悲しむべきでなく、寧ろ文明に進むに從つて、一面斯かる犧牲をも拂はねばならぬと思ふて居つたが、併し田園に於ては完全なる身體の健康が保たれてゐると信じて居つたのに、近來は次第に清かるべき地方田園出身の壯丁の內に惡性の病氣に罹り、甚しく健康を損じたるものがある。然らずとするも以前の樣な健全なる多數の壯丁を見る數が段々少くなるといふ事を聞くに及んでは、我日本國を一つの城と見れば、最も大切なる本丸が弱くなつた樣な感じをして、國の將來の爲め大に憂慮すべき現象であると見ねばならぬ樣になつた。

日常新聞紙上に表はるゝ所謂三面記事なるものは、無論國家の大方針に關係の深き政事、兵事、學事、殖產、工業等の重大なる問題に直接の關係を持たぬ事柄ばかりである故に、之等は無智なる社會下層民の簡單な戲れ事と一笑し去らるゝ傾もあるが、乍併所謂下層民といふものは、其數に於て民族の大部分をなし、殊に民族の中堅とも云はるゝ中流に直接し、其影響を與ふる事の甚だ多きものである以上は、下層民の所謂値打なきものと云はるゝ人々の行爲が、動もすれば中流人士に惡影響を與へ、國民全體の特質迄影響を及ぼす事になり得る恐ろしきものであると思ふ。下流民の聲は寧ろ僞らざる赤裸々の狀態を示すものである。近くば最近に起れる米價の暴騰に基ける所謂暴動事件なるものも、聞く處をして誠ならしめば、元は富山市の敎育なき女房共の飢に叫ぶ聲が、源をなして、之れが京都大阪神戶、延いては中國四國に及び、遂に東に走つて帝都迄及んだ。正しく判斷すれば富山市の女房共の行爲は哂ふべき無智の狀態を示してゐると思ふ。何故なれば一家の主婦たるものが何故に若し米高くして得難ければ之に代用となる食料品を考へないのであるか、一ヶ年に五千三百萬石以上は到底出來得ない米に對して、或は之迄の習慣上、時には米價の調節の安全辨ともなる筈の仲買人は、私の利の爲めに米價の暴騰を來しめる事もあり、かくの如き價の定まらざる米だけに執着して居る事は、日本國民全體として賢き方法ではなからう。寧ろ進んで玉蜀黍なり麥なり芋なり其他の代用品を考へる方が賢い方法であつた。獨逸に於ては戰爭の始まる前から茲に着眼し、戰爭中は一層奮つて或は節食する、或は代用品の研究等に一家の主婦も心を配つて居つた。然るに平常斯かる遠慮に出づる事なく、偶々米價の暴騰

の爲めに忽ち暴動を起すが如きは、無智の極みであるとせねばならぬ。乍併理由なき原因に據るとはせよ、之が一般狀態其物である。佛蘭西大革命に於ても所謂無智の下流民の婦女子が壓制に對する救の叫びが原因をなして居つた。かゝる事をなすまじき筈であると識者には見えても、所謂下層民の無智なる衆愚にはそれが分らないで、常に結果としては面白からざる、而も由々敷大事に至るのである。

□アルコホルの禍害

或は三面記事に表はるゝ日に見ざる事なき刃傷沙汰にしても、斯かる暴擧に出づる筈なき理由が識者には明瞭であつても、刃傷を敢てする本人同志には十二分の理由ありと感じたものと思はねばならぬ。而も其の刃傷沙汰の原因としては何れも酒を呑んだ後の話である。醉はざる狀態に於ては敎育なき彼等も自ら多少の禮節を重んずるが、一度酒を味つては遂に之に醉ひ、精神の狂へる狀態になり、此の悲しむべき刃傷沙汰を敢てしてゐる。識者が若し之を見て下流の衆愚は無智にして尋常には考へられないと一笑に附したならば、之は大なる間違である。考ふるに刃傷沙汰に陷らしめた原因は、諸多の理由に由るであらうが、併し彼等をして醒めたる狀態にあらしむれば、自ら制して斯かる亂暴の行爲を敢てしないが、醉ふて精神を狂はす爲めに起つた事であるから詮ずるに酒を呑ますのが惡い事になると思ふ。若し下層民をして此刃傷沙汰をなさしめたくないとすれば、何故に禁酒の實を擧げしむる樣な方策を識者は採らなかつたか、年々四百萬石以上の酒を作つてゐる以上は、大要日本國產の米の全額の一割近くも酒を作つて精神を狂はしてゐる譯である。

既に露西亞に於ては、地理上餘儀なく、其寒氣を防がん爲めに或は必要上起つたかも知れぬが、常用の酒ウォッカは、一切口にせぬ事に國民全體が戒めてゐると云はれてゐる。米國に於ても既に禁酒の處置に出でたのは、戰爭始まつて間もなき事で、最近の報道によれば、酒を來年から釀造させぬ方策を政府が執ると云つてゐる。或は多少の誤報が這入つてゐるかも知れぬが、識者の意氣は斯くの如くして所謂無智の衆愚を誤なからしめんと努めてゐる。

又日常三面に表はれる諸種の犯罪等に於ても、飮酒癖と密接の關係あるのは事實明かに示す處である。既に私は前に我國田園の壯丁の健康度の減少を憂ふべきといふた。而も其原因は何れも惡性の病氣が煩をなして居つたのであるが、同時に惡性の病氣をして入込ましめた媒介者ともなるものは、やはり飮酒癖である。之を專門の醫師の診斷の調査によるも、花柳病に罹るものにして、全く飮酒癖のないのは誠に少いといふ事である。して見ると國家の干城たるべき兵の健康を減ぜしむる原因となる飮酒癖を恣にせしめて、何等有効な禁止策を未だに充分に採り得ない、所謂識者の責任は輕くないと思ふ。

更に又三面に表はるゝ記事中に離婚の問題、婦人貞操、蹂躙の問題等が出てゐる。離婚は其の可否云々に就て今茲に論ずる暇はないが、要するに相手方の一方に犧牲の心の缺乏から起る。貞操問題を起す場合も之亦諸種の原因の中で、一種の

自己の欲望を主とし、他を顧みないといふ生物固有の陶冶されない遺傳性に基くてあらう。前に擧げた飲酒癖も之を制し得ない本人に取つては、實は遺傳的に其の親より傳はつたものて、本人一人の責任とは無論云へぬ。寧ろ飲酒癖を敢てする事は、此癖を持つ本人よりは一方ては之を遺傳した親に其罪があり、他方には禁酒の方法を有効に盡す丈の處置を充分に執り得なかつた第三者たる識者に責があると見ねばならぬ様に思はれる。

□英獨の人種改良運動

凡そ物の見方には色々の方面から其事柄を觀察し、解釋がつくが、生物學の立場から我民族全般として見れば、新聞の三面記事を作る下流民なるものは寧ろ民族の多數を占めてゐるもので、其下流民の成績の如何は、以て民族の成績に大影響を來すのであると思はれる。少數の上流中流に於ける識者は、充分に之を盡して寧ろ大多數の所謂下流民の生活狀態をして、悔なからしむる樣に、或は進んては極めて整頓せる狀態迄引上げる樣にせねばなるまいと思ふ。實際多數の群衆は生物の本能ともいふべき生活と生殖の慾望が、日常の行動の根底をなしてゐる。元より遠く未開の狀態から今日迄進化して來つてある以上は、社會の複雜なる制度習慣も出來、禮讓も具はり、品のよきものとはなつてゐるが、而も尚原始人時代の生活と生殖の本能慾のみ專らにして居つた時の習慣性は遺傳として殘つて居り、而して動もすれば赤裸々に此本能慾を出す樣になり易い。若し所謂下流民の衆愚をして斯かる本能慾を赤裸々に出させまいとすれば、茲に賢き識者の周到なる諸種の劃策がいるであらう。

今回の戰爭勃發前に各國共其民族の優勢ならんことを欲して各政治に經濟に、軍事に敎育に、殖産に工業に孜々として努めて其民族の膨脹を圖つて居つた。其間に世界列強の内て最も賢かりし民族は他とは出色の處置を間斷なく勵行して居つた。其賢き民族の一つは英吉利で、英吉利は英吉利人として優良なる人の多からんことは世界に雄飛する所以であると自覺して、英吉利國民の種を優良にしやうとの處置を執つて居つた。卽ち人種改良の計劃であつた。獨逸に於ては既に普通の話に出る樣に、伯林は世界中で最も娼婦の多い土地であると云はれてゐる。之は諸種の惡性の病氣の這入る事を意味したので、從つて獨逸人は國民の衛生狀態をよく改良する事が何よりも第一の急務であると考へた。衛生とは單に下水汚物の掃除道路の淸潔を意味するのではない。人の血の中に流れてゐる惡性の病毒を獨逸國民の中から一掃しやうといふ大計劃であつたのである。深く考へれば國民の衛生狀態の改良といふ名の下に行はれた此の大規模の計劃は、第一に獨逸民族より惡性の病毒を驅逐し、進んでは其結果を殘すアルコホール性を嗜む遺傳的の性質をも取り除くやうといふ根底ある處置を試みて居つたのであつた。

所が酒を非難するに對して辯解的に曰ふには獨逸では學者も政治家も實業家も軍人も乃至技術家も之に加へて婦人も多量にビールを飲んで居る、而も獨逸には軍事敎育殖産工業美術すべて皆世界の首位を占むる程に整頓してゐるてはないか

といふ。併し獨逸に於て飲料として居るビールは、人口的に嚴格なる試驗の檢査を經たる所では世界の酒類中最も滋養分を含む事多く、最も酒精分を含む事少く、所謂酒の害といふ有害分を含んでゐる事が、最も少いものであつた。此意味に於ては獨逸は一面禁酒國と見ても差支ない。我民族のみならず一般人間としては、飲酒癖は生物の本能として生活生殖慾と伴ふて存したものとも見られる。併し我が民族をして眞に健全なるものとならしむるには、第一は我が民族の種から優良なるものとしてかゝらねばならぬ。

□我國の環境を改善せよ

過去二千五百有餘年の歴史を見れば、我國は確に偉大なる人物を出して居る、偶々偉大なる人物は生物としてやはり元氣盛んなる人であり、從つて生活生殖の慾望としても或は衆愚よりも強かつたかも知れぬ、玆に於て偉人の事績にまづはつて戀物語或は酒豪といふ樣な面白からぬ異名を受けたものが多かつたが、併し之れは戀と酒とが本人を偉からしめた譯ではなく、偶々偉かつたに伴つた迄である。それは兎も角も我が民族は之等の偉人物からよい遺傳性を幾分かづゝ凡ての人が受けてゐる事は疑はない。社會の狀態は、常に若き第二の國民を作る鑄型と比較すべき狀態にある。子供を寺の前に於けば習はぬ經を讀み、葬送の儀式を眞似て遊ぶ。實に少年生立の間に之を作る鑄型ともなるものは境遇である。學校教育は社會教育の美なる一小部分である。學校教育を受ける間も同時に社會教育を受けてゐる。而して學校教育を受けてから後の一生は、凡て社會教育によつて人となるのである。中には學校教育を受け得ない衆愚がある。之等は有の儘の社會狀態によつて教育されるのであるが。而も社會狀態なるものは日常三面記事に出るが如き狀態であれば、其子供は生立つてどうなるか想像に難からぬであらう。尤も中には狹斜い巷に生れて、其成長の間周圍の境遇を厭ひ、却つて極端に反抗心を起してかゝる惡性に染まざるのみならず、之が改良をなさんとの決心を起したのもないではないが、之は極めて少數である。多數から云へば環境卽ち社會狀態は一種の鑄型となり、或は染色の色壺となつて、丁度さういふ社會狀態、習慣を好む人となつて果つる。之は由々敷大事である。

今日は識者は學制の改革に苦慮してゐる。私は考ふるに無論考慮すべき問題である。けれ共之に加へて全般民族を作る鑄型とも見るべき社會狀態の改良、たとへば禁酒、惡性の病毒驅除、賣淫制をして第二の國民に喰入らしめざる有效なる所置、母の教育等が、又決して他の問題の爲めにあとに殘し難い焦眉の急なる問題と考へられる。

□母の教育と統覺の培養

國民の優良なるべき爲めには、社會狀態の鑄型が良くなければならぬが、遡つて考ふれば、人の始まりは懷妊の時からである。更に今一歩遡つて考ふれば、懷妊以前に人の運命は定まつてゐる。懷妊は父の肉體の一部分と母の肉體の一部分なる生殖細胞の結合によつて、玆に懷妊といふ出發點が定まるのである。父母共に完全なる健康狀態にあれば、惡性の

病毒を有せず、飲酒癖を専らにせず、清き生活を送つてゐる人であるならば懷妊の始まりから、實に望ましき出發をしたるものと思はれる。而して胎内九ヶ月の間、次第に發育する子供の要求は、大體としては動物的であつて單に身體の營養の點、身體の發育の點だけを母に要求する。從つて母は胎内の子供に己が身體を犠牲として其要求に應じてゐる。假に母が無智であつても胎内の子供は遠慮なく母から必要の營養分を取つて發育を遂げる。元より懷妊中の母の精神並に身體の狀態は、或は身持動作等が影響する事があるけれども、要するに身體の發育に關する要求である。之れ迄胎教と云つて非常に尊重されて居たが、遺傳の上から見れば胎内に於ける間は遺傳には更に關係なく、既に懷妊の時に定つたる遺傳を發育させるだけである。其發育も全く身體の發育である。然るに一旦出發後は人間の智慧の入口である五官が次第に其働をなして來るが故に、見聞きする事が働をなす樣になつた以後は時々刻々段々多くを知らんと要求する、母が若し知識あれば子供の要求に對して必要な刺戟を與へて智能を上さするが若し母が無智であれば、全く放任の狀態で不親切な發育を遂げ、從つた子供の五官の發育は捨て放しの發育になる。

更に加へて幼稚園に入り小學校に入る頃から、人をして鋭からしむるか或は鈍からしむるかといふ統覺が芽を出し、之が充分な刺戟を與へらるれば大に發育して延びるが、然らざれば誠に遺憾なる狀態で、統覺の發育が不充分な事に終る事になる。而して統覺の發育は其完成期が凡て十九歲以上二十二三歲で止まると云はれてゐる。若し其間に學校教育を受けしめても、充分に統覺を延ばし得ないか、或は社會の境遇の感化が統覺をして惡しざまに發育せしむるかすれば、結果としては甚だ面白からざる狀態にならしむる。若し社會狀態に常に存する狀態として見るべき、たとへば下層民の表はす三面記事の如き、斯かる環境に生立ち、斯かる環境の刺戟のみによつて統覺を發育せしむれば、其先は到底悔るも之を强制せしむる等は殆んど不可能の事と云はねばならぬ。どうしても國民全體の共同の注意は、丁年位を中にして其丁年に達する迄の間完全なる統覺の發育を遂げる樣に社會が環境を作る事が、今日の民族を代表する働き盛りの人々の責任であると思ふ。既に丁年前後頃迄の統覺の發育の間を考へる事を疎にして後年長じ壯年の人々の行爲行動の遺憾なる事あるに就ても最早時既に遅れて施すべき道のなき時であると思ふ。

世の中には、遺傳によりて凡てが定まつて居るから、よい遺傳質を受けぬが最後、どうすることも出來ぬやうに、悲觀する者もするが、之は事實に反する。遺傳質は假令受けて居つても境遇の刺戟を與へずに置けば、全く顯はれずしまひになる。一寸或る遺傳質を受けぬ樣に見えても、之は只刺戟せぬ爲めに顯はれずに潛んで居るのだから、是非受け得た遺傳質をば充分に顯はす樣の刺戟を自ら作るだけの自省の努力が要る。加之、己れ一代間に努力によりて顯はし得た遺傳質は何うしても之が次の代に遺傳するものと信ずべき理由の事實がある以上は、是非努力して一歩でも多く己れを進める事はとりも直さず子孫の幸福であり、後代の國民を向上せしむるもので、實にまた[illegible]の義務であらねばならぬ。

優種學上より観たる遺傳と環境

醫學博士 永井潜

一

連城の珠も、切瑳琢磨の功を經なければ、その光りを放つことはできない。この意義に於て琢くといふことは、非常に大切である。さり乍ら琢くといふことだけて、光りが出るものと思つたならば、それは大なる過てある。何んとなれば瓦は如何に磨けばとて、到底瓦たるを免かれぬ。磨くべきものが玉てあつてこそ、初めて琢くだけの甲斐があるのてある。これを辨へずして、徒に磨くのは畢竟徒勞に屬するのみてある。遺傳と環境との關係も亦この簡單なる例に盡されて居る。環境を善くすることによつて、人類を幸福ならしむることができるのは、勿論のことて恰も琢くことによつて、玉に光が顯れると同じことてある。然りながら、唯だ環境を善くするのみて、人間社會の幸福を企圖することができると思ふのは、恰も磨くことによつてのみ、光が現はれると信ずるのと同樣てある。環境の改善を計る前に、宜しく遺傳の理法を考へ、これに基きて、人間その物の種性を改善するにあらざれば、環境も改良も亦畢竟徒勞に了るのてある。

生物の種性がいかに大切てあるかは、古より人々が經驗によつて心付いたことて、又この事を實際生活の上に應用して、或は家畜の改良を計り、或は農產物の收穫を好くしたり利用厚生の道に於て少からず其の成績をあげ來つたのてあるが、而も人は動植物に於て得たる知識及びその應用によつて得たる成績を、自分自らの上に當て嵌めることを忘れて、唯徒に環境の改良にのみ力を致して、人間の裡に具はれる種性そのものを改善すべき大なる仕事を閑却してゐたことは寧ろ不思議に感ぜらる次第である。勿論古來より門地とか血統とかいふものを重んじたことは疑なき事實であるが、然しその事が人間生活の上に如何に重要なる意義を有つてゐるかを、眞に自覺したのは、極最近のことてある。而してこの自覺を吾人に促したのは、輓近生物學就中實驗遺傳學の進步に胚胎せる人種改善學てあつた。

二

實驗遺傳學の示すところに據れば、生物の現はす凡ゆる形質は、種々なる遺傳單位の離合集散によりて決定せらるゝものて、少くとも動植物に於ては其際行はるゝ法則を數學的の精密なる程度に於て證明し、これに因て或る性質に關し、彼と

是との相異ある兩親の間には、如何なる子孫が、如何なる數の割合に於て出來るかを正確に豫言し得るに至つた。人間に於ては、種々なる研究の困難があつて、その遺傳に關する研究は、未だ足らざるところが多いが、然しながら動植物と同一の法則に從ふものと見て誤りのないことである。而して遺傳物質なるものは、環境の影響によつて、一程度までその現はれ方に相異を起すが、然しその本性に至りては、決して變化しないものである。例へば或る種類の櫻草はこれを常溫に置けば、赤い花を開くが、高溫に置けば白い花を開く。然るに他の種類の櫻草は如何なる溫度の下にも、常に白い花をつける。今この兩者を比較してみると、共に白い花をつけてゐるときは、何等相異ないのである。然らば高溫といふ環境の影響によつて、赤い花を開くべき種類が、白い花を開く種類に變つたのかといふと決して然うでない。何となれば高溫の下に白い花をつけたものを、常溫に戻すと再び赤い花を開くからである。卽ち前者の遺傳物質は、高溫の下では赤い花を開き、常溫の下では白い花を開くといふ本性を具へたるものであるに反して、後者の遺傳物質は何れの場合にも白い花を開くべき本性を具へて居るのである。決してその本性に相異が起つた譯ではない。

斯く遺傳物質は假令環境の影響によりて、その顯はれ方を異にするとはいへ、その本性に至りては、何等變化を蒙らないのであるから、生物が一代の間に環境の影響によりて受けた變化は、その生物の一代に限られて、後代には傳はらないものである。此に於てか環境の改善が、人間生活に及ぼす影響は一時的のものであつて、根本的に人間の種性を改善してゆく上に於ける價値が頗る少くなつて來た。換言すれば教育によつて、智能を啓發し、宗教道德によつて、人格を高尙にし、醫術衞生によりて、身體を強健ならしむることができるには相違ないが、然し乍らそれは其人一代に限らるゝものであつて、後代に及ぼす力は極めて弱いものである。恰も砂の上に書かれたる文字が、一波來り一波去る每に消えて失せると同じやうに、果無いものであるといはねばならぬ。

三

遺傳物質は硬くるしい石のやうなものでなくして、軟かなること蠟の如きものである。隨てその本性に於て變化しないが、然し環境の如何によりてその現はれ方には少からず相違が起る。同じ種子を播いても肥料の如何、日當りの如何、地味の如何、水分の如何などによりて、その收穫には少からず相違が現はれて來る。蠟の蠟たる本性は變らないが、その溫度の如何によりて、或は硬くもなり、或は軟くもなる。こゝが環境の附目である。生物にこの性質あればこそ、この世の中が死せる島の如く冷く硬くなくして、生き〳〵した變化に富み、生の面白みを味ふことができる所以である。然しながら此の變化も畢竟するに變化せざる遺傳物質の變化より生れ來る變化である。大なる宗教家が變遷流轉の世相を感じて、その後に、不變不滅の眞如を體得すると同じやうに、生物學者は千差萬別極りなき生物界の後に、終始變化せざる遺傳物質の存在を認める。故に環境の

改善によつて、到底生物の種性を根本的に改善することは出來ない。恰も琢くことによつて瓦を變じて玉となすことが出來ないと同じことである。然らば則ちその根本的改良を成就するの道如何といふに、遺傳の法則に基きて、惡種を殲滅し善種を保護するより外に方法はない。而して之れ實に人種改善學の二大原則である。

四

斯る關係から、晩近の生物學者は勿論、苟も諸般の關係に留意せる有志者は、一齊に種性の改善に多大の注意を向くるに至つたことは、頗る悅ぶべき現象であるが、然し極端より極端に走ること、恰の振子の如き人間の思潮は、遺傳と環境の問題につきても、亦其轍を脫することが出來ないで、從來の努力が專ら環境の改善にのみ汲々とせる反動として、極端に環境を無視し、獨り種性の改善によりてのみ、最後の目的を達することができるといふが如き、新しき思想を生み出したことは、大に考量を費さねばならぬ問題である。

之等の新思潮の示すところに據れば、人の心も身體も總て遺傳物質の配合如何によつて、先天的に決定せられて居るものである。これ迄は人は人を見るに、一切平等を以てした。生れたまゝの人間は、凡て善でもなく、惡でもなく、賢でもなく、愚でもなく、一樣に白紙の如きものである。而して環境の如何により、將た自由の意思により、其の白紙に種々なる日記を書き込むこと、これ即ち人の一生であり、また其人の價値を極める所以であると考へて居た。隨て賢となり愚となり、善となり惡となる、何れも後天的感化と自分の意思とに本づくのである。これを以て人は自分の行爲に對して、自ら責任を帶ばねばならぬ。法律も宗教も教育も、凡て斯る立場から人間を觀、之を罪し、之を導き、之を教へて居た。去りながら新しき思潮の主張する處によれば、人は初めより一切平等でない。遺傳物質の配合如何によつて、或は善となり惡となり、或は智となり、或は愚となるべく運命つげられて居る。而してこの運命は後天的環境の如何によりて、影響さるゝこと極めて微々たるものである。法律も宗教も教育も斯る立場からいふと、其の價値は實に微々たるものでなければならぬと主張する。

然らば則ち吾人は此の二つの大なる極端に對して、如何なる批判を下すことが正當であらうか、これ則ち遺傳と環境との交渉に關する根本問題である。眞理は中央に位する。動いて止まざる振子も、その運動の中心は、兩極端の中央にある。晩近生物學就中實驗遺傳學の示すところは、現在直に接觸せる人は誰しも之を否定することはできぬ。吾人は從來の思想家や經世家の考へて居たやうに、單に環境の改善、即ち宗教や教育や法律や、社會政策や、經濟問題や、凡て之等百般の外的感化と施設とによりて、人生をして永遠に安樂幸福ならしめ得るものとは信じない。實際もしさうであつたならば、釋迦出て、基督出て、リツクルプス出てゝより茲を閱すること、既に二千年、人間は今少し善良に、今少し幸福でなければならぬ筈である。

然りながら極端に種性の重んずべきを主張し、而して環

境が如何に其種性の開展に向つて、重要なる意義を有するかを忘れたる最近の新思潮に對しても、亦大に與みせざるものである。殊に又この思潮は流れては極端なる懷疑となり、延いてまた凡ゆる古き秩序を打破せんとする破壞主義とならんとするが如きは、最も寒心に堪へざる次第である。

遺傳物質は變化せざるものである。而して其遺傳物質の配列によりて、人間の心と體の本性も亦決定せらるゝものである。然りながら既に述べたやうに、遺傳物質は硬き石の如きものでない。假令その本性は變化せずとも、その開展は環境の如何によつて、著しく影響せらるゝものである。これが卽ち生物の發育（デベロップメント）である。而してこの發育こそ眞に生物界に生々潑溂の元氣を與ふる所以である。然り而してこの發育は凡ゆる生物の中、人間に於て最も長く最も著しく最も意義あるものである。

試みに生れたまゝの赤坊と卵殼を破つて出た雛鳥とを比較してみると、如何に後者に比して、前者の便りなきことよ。然りながら人は恰も最も低き地を踏む告天子が、やがては翼を振つて最も高き蒼穹に凱歌を囀づるやうに、この最も便りなき狀態より、幾多の時と、幾多の努力とによりて、最も高き狀態に發育するものである。彼は極大たり得る素質を具へつゝ、極小の有樣に於て、この世の光を見る。而して春の日に惠まれて一つ〳〵の蕾が開く樣に、後天的に受くる環境の影響によりて、この極小なるものゝ中から、極大なるものが現はれる。之が人生の感興多き所以であり、人生の豐富なる所以である、人生の貴き所以である。

バアクレー僧正は、『吾は過去の經驗の總てである』といつた。實に、人の體、特に人の心は、この永き發育の過程に於て、動物と特に相異がある。動物の生活は個體的である、一時的である。然りながら人の生活は社會的であり、永遠的である。蓋し人はその頭腦の發育に伴ひ、言語文字の中樞を生じ、これに因て自由にその思想を交換し、彼の仕事を不朽にし、長く之を後代に傳へることが出來る。人はその祖先より得たる貴重なる智識といふ遺物を承認するを得、而して又自分の努力によりて、この遺物を豐富潤澤ならしめて、之を子孫に傳ふることができる。人間が一代の努力と環境の影響によりて得たるところのものは、生殖遺傳によりて、之を子孫に傳へることのできぬのは凡ての生物と共通であるが、然し彼は社會的生活によりて之を永遠に遺傳することができる。人間が人間として萬物の上に立つことのできる所以、自然界を征服して、己の有となす所以は實に此にあるのである。今の小學兒童さへも、昔の智者の中の智者と稱へられたるアリストテレースよりも賢いのは、畢竟後天的感化によりて、世々代々富有にされたるはこの遺產を受け入れるからである。かく考へ來ると種性の重んずべきは勿論であるが、特に人間に於て環境の影響の最も重大なる所以を覺ることが出來る。故に吾人は宜しく玉を撰擇すると同時に、これが切瑳琢磨を怠らず、依りて以て其の靈光を放たしむべく、凡ゆる努力を怠りてはならぬ。これ卽ち遺傳と環境とを論ずるに當りて到達すべき最も正しき結論である。

社會上より觀たる遺傳と環境

早稲田大學教授
廓清會副會長　安部磯雄

□遺傳の原則

社會の進歩といふ事は、つまり遺傳と境遇と此二つのものに俟たねばならぬのは當然である。私は此の遺傳と境遇といふものは非常に似て居る點があると思ふ。遺傳といふものは生物學的に一つの原則が定まつて居り、其原則が働いて行くもので、人間が人爲的に指導する事はいくらか出來るけれども、生物學的の作用は如何ともする事が出來ないものである。

然らば其原則とは如何なるものかといふに、遺傳といふものは、子はそつくり親の通りになる、親に肖るどころではない、親の通りになるといふのが原則で、其親といふのは二人あるから、双方から受けるといふことは、今日の生物學の證明する處である。我國には昔から女の腹は借物といふ思想があつて、父の方からだけ遺傳すると考へられてゐたが、それは大なる間違であつた。いま生物學の方から大體の原則を云へば、四人の子があるならば其内一人は父に肖、一人は母に肖、あとの二人は父と母から半分づゝ、丁度等分にその遺傳を受けるといふことを、動植物の試驗によつて證明するのである。

□境遇改善の必要

之に依つて我等は何を學ぶかといふと、父母の遺傳は平等に行くもので、何方が多いかといふ事は云へない。生物學から云へば、無意識に働いてゐる分子とか原子とかいふ力は、親の通りになるといふのであるから、摸倣してゐるといふ事が出來やう。摸倣といふと意識的になるが、事實無意識の間に摸倣しつゝあるのである。それを以て見ると境遇といふものもさうではないかと思ふ。人間といふものは、境遇といふものに段々化せられて行く、化せられるといふことは無意識的だが、意識的に云へば摸倣である。いゝ社會に居れば好い事を摸倣して行くから教育が出來る。教育も畢竟摸倣である。私共が公娼制度などの全廢を唱へてゐるのも、分娼制度よりは私娼制度の方が、同じ惡いにしてもまだ其方が増しだといふのも畢竟それて、人の眼に觸れないやうに不道徳が行はれるならば摸倣はしない。我等が賣淫が社會の表面より暗黑に葬らんとするのは蓋し其爲めてある。

境遇と遺傳とは何れが力あるかといふ問題がまた屢〻起る。言ひ換へれば生れつきと教育の効果とは何れが力のあるもの

かといふと、却々境遇の力も或意味から非常な力のあるものてある。若し文明の國に生れた嬰兒を野蠻人の間に育てしめたならば何うであらうか。想像するに難くはない。同樣に野蠻人の子と雖も之を文明人の子として養育したならば、これが野蠻人の子かと思ふ程になるてあらう。境遇さへよければ遺傳の如きは微々たるものてあるとも云へぬ事はない。臺灣總督府には醫學校が設けられてあるが、其生徒の中に生蕃の子が大分ある。――醫學校は元來支那人生蕃人の子弟を教育する處――親しく之れが教育をした人の話を聞くと、生蕃の子だつて却々よく出來る、道德思想などもよく發達してゐる、殊に義俠心などは支那人よりはよく發達してゐるといふ。そして卒業後は蕃地に歸りて開業してゐるものもあるといふ事である。さういふことを考へて見ると、生蕃人が數十代數百代も續いてゐるものが、一朝文明の教育によつて大變化を起すこれ等の事實に見れば、境遇の力の偉大なるに今更驚かざるを得ぬ。

□境遇よりも寧ろ遺傳

故に我々は境遇の改善に大に力を盡さねばならぬのは申す迄もないが、併しそれは一面であつて、如何にも境遇の力が強さうてあるが、生蕃と云つても文明の空氣に觸れてゐないといふだけて、素質といふものは惡くない。或意味から云へば好い遺傳を有つてゐると云はねばならないと思ふ。私共は時々ほんとうに土百姓の子から立派な人の顯はれて來るといふことは、素質があるからて、云はば汚れてゐる玉の如く、磨きさへすれば立派な素質が表はれて來るのだと思ふ。故に私は教育は磨をかけるところの力である、境遇もまた左樣であると信じてゐる。

併し乍ら如何に磨をかけても銅は銅で、金にはなれない。教育の力で或點迄光を出すことは出來ても、銅を金とする事は出來ぬ。人は境遇の如何に非常の力を認めるが、私は寧ろ遺傳に力を認める者である。從つて私はより多くの努力を遺傳の改善に盡さねばならぬと考へる、殊に今日の日本の如きは境遇をかへる事は一朝一夕には出來ないが、併し遺傳をよくするのは自分と妻との合意によつて直に出來るのである。其點を考へて見れば實際的の方面には遺傳により多くの價を與へて行かねばならないだらうと思ふ。且つ遺傳がどの位偉いかといふと、遺傳が境遇によつて一時他の方向に向いてゐても、又機會があると元の境遇に歸つて來る。植物の如きも一寸注意を怠ると元の種に歸るのである。故に善い遺傳を傳へて行くならば、少々惡い境遇に在つても、元の善い方に進んて行くだけの力があるのである。

□怖るべき二大事實

それに就て丁度九月號の『社會と救濟』に適切なる記事があるから、引用して見やう。

紐育州に或る一家族があつて、其家族に就て研究した人がある。其研究によると、十八世紀の始めに生れた一人の漁夫があつた。此男は極めて怠惰な放縱な人間であつたが、彼は五人の娘があり、それから系統が傳はつた。そして五代傳は

る內に其子孫が千廿四人になつた。內夭死したものが三百人あり、殘りの九百人に就て精査して見ると、內三百人は常習的の乞食であつて、慈善院に收容せられてゐる。四百四十人は自ら招いだ病氣の爲めに死んだ、次に九百人中の約半數たる女だけに就て調べて見ると、其半以上は醜業婦であり、百三十人は犯罪者て、六十五人は常習的の窃盜、七人は殺人犯者てあつた。國家社會が之等一族の爲めに費した金額が、ざつと七百五十萬圓て、これが社會の經濟的損害高てある。

これと正反對の例は、宗教家として非常に名高い人て、四十年前頃から神學を修めた者も必ず知る、私共も屢々聞かされたジョナサン・エドワードといふ人がある。此人は非常な頭のよい人て、澤山の子孫があつて、千九百年の調査によると子孫が千三百九十四人あつたといふから可なり古い人てあるが、此人の子孫の內、二百九十四人は大學を卒業し、殊に十三名は米國ても著名な大學の總長てある。六十五人は大學の教授てあり、六十人は醫師となり其內の多くは名高き國手だといふ。百人は牧師となり又神學の教授となつて居り、法律家が百人以上、裁判官が三十人、役人が八十人、其內一人は米國の副大統領となつた。其他知事となり國會議員となり市長となり外國の公使となつた人もあるし、鐵道銀行會社等の經營者も少くないといふ事てある。

□遺傳境遇の循環と廓清會

斯樣なる實例を見ると、如何に遺傳が境遇に打勝つて行くかを知る事が出來る。無論境遇は其人の選び方によつてそれぞれ違つて來るが、同じ亞米利加に住つて一方は悉く惡い者が生れ、一方は悉く善い者が出るといふのは、遺傳の方が有力でないかと思はざるを得ない。況んや前に述ぶるが如く遺傳の改善は自覺と共に實行を伴ふのである。我等は物質上に子孫の爲めに財產を積むが如く、精神上にも財產を蓄積せなければならぬ。精神上に財產を積むといふのは、人物を積むより外はない。人物を積むといふのは遺傳の方則を守る事より外はないのである。

乍併遺傳と境遇といふものは、社會の兩足となるものてある。一方だけて步む事は出來ない。なぜなら境遇のよい處に住む者は人物が良くなる。人物がよくなれば子孫に良き遺傳をする。子孫が良くなれば又それが反射して來て境遇を良くするから、境遇と遺傳とは相持ちてある。境遇がよくて遺傳が惡い、或は其反對に遺傳がよくて境遇が惡いといふ樣な事は全然ない事だから、我々は此二つの點から見ても、どうしても男女の關係などに就ては、餘程嚴密な考を有つてゐねばならぬと思ふ。

遺傳を善くするには、先づ酒と黴毒と此二つに打勝たねばならぬ。教育も境遇も詮ずる所摸倣てあるので、今日の青年に摸倣される老年壯年が、これを感じてゐないから、我々の境遇は悲しむべき狀態にある。男女問題の思想の如きは、此二つの方から觀る時は、根本的に改まつて來なければならぬ必要を痛感するのであつて、我が廓清運動の如きは正に、遺傳と境遇を改善するの人類優化の大運動てある。

倫理學上より觀たる遺傳と環境

早稲田大學敎授
廓清會理事　内ヶ崎作三郎

■米のウイルソン氏と英のロイドジヨジ氏■
＝は如何なる遺傳と環境を有せしか＝

善良なる親からは、善良なる子孫が生れて、極惡な親からは、善良なる子孫ができ難いといふことは、普通一般の狀態であるといつてよい。親祖先の遺傳の力は、子孫の體質上のみならず、その精神上にも著しい影響を及ぼすことは、學理上からも疑ふべからざることならんも、われら平生見聞する事實の範圍にあつても、幾んど疑ふ餘地がないと感ぜらる。

唯だ此に注意すべきは、遺傳の心身に關係あることを思うて、遺傳上優良なる影響を子孫に及ぼすことの、人生社會を改善するに大に力あることとなるを認むると共に、更にそれにも優りて境遇の力、敎育の力といふものゝ、人物の心身に大關係あることを遺却してはならぬ。

米國ウヰルソン氏の如き大人物にしても、一は遺傳、一は環境の力によりて出でたるものなるべく、又英國のロイドジヨジ氏の如きは、その血統からみれば別にさう偉人を生み出す家柄とも見れないやうだが、然し決して不良なる家柄ではない。その父方なり母方なりを遠く遡りて調べて見れば、偉人の出る遺傳上の理由が見出れると思はれる。その父親は學校の敎師をした人であつたが、彼は幼にして父を喪ひ、叔父に引取られて養育をうけたのである。その叔父なる人は、靴屋をして生計を營んだ人である。一見別に世に立優りたる感化を與ふるに足る人とは思へぬやうなれども、然し極めて正直な信仰の厚い、理想に富んだ人であつたことは確かであつて、日々靴職に從事しながら、熱心に自給傳道した人である。自活の計を他の方法を以て立て、傳道によりて物質的の報酬をうけず、價なしに受けたれば、また價なしに施すといふとはいかに高尚にして、いかに人生にあつて意義の多い生活か知れぬ。人々幾んどみな世をあげてパンの爲めでなくては働かぬやうな社會にあつて、無給で自活傳道するといふやうなことは、全く例のないことではないとはいへども、尋常の人には卓越したところがなくてはできぬことである。ロイドジヨジ氏はかういふ眞摯にして且つ高尚なる品性を有する叔父の家庭を環境として成長してゐる。彼は單に英國に於ける中心的大政治家として渴仰さるゝのみならず、その自由主義者よりは救世主のやうに崇拜され、その信仰と修養とに於て、中流階級の代表者として尊敬され、その下層階級のために苦戰するに於て、第二十世紀のリンカーンであるとまで推服さるゝ

に至れるもの、固より彼が遺傳上その體質に於てもその精神に於ても、人生の奮鬪力戰に全捷を贏ち得べき、優良なる系統を有したるにも因るけれども、彼の幼時の生活に最も緊密なる接觸を有した老叔父の感化指導が、冥々の裡に彼の天分を發達せしむるに、大に與つて力あつたことは毫も疑なき事實である。それから彼は又曾て斯ういふことをいつた。予が受けたる教養訓練の中て、最大最良のものは、日曜學校のそれてあつた。予が商務院總裁として自己の職責を盡しえたのも、畢竟その時の賜物てあつた」と。吾等は偉人のかうした述懷追憶をば、最も深き注意を以て味へて見ねばならぬ。

米國のウヰルソン氏にしても、また然りである。彼は元來正義と自由とを生むべき南方の酸素に滿てる空氣を吸ふた人の血統に屬するさうてある。彼の家系は革命戰と、其の復興時代とにあつて、凡ゆる貧苦艱難との間に戰つた人々に聯絡を有してゐる。故に彼も決して遺傳上尋常凡庸の系統に屬するものてはない。然しながら彼をして啻に學者として該博なる學殖をもつばかりてなく、一代に群を拔く理想を抱持して、而も確乎として動かすべからざる主義方針の下に、その理想を實現することに、不斷の努力を續けることを得る政治家たらしめたものは、彼の家系の他に優りたるに由るよりも、寧ろ彼を養育し、彼を指導し、彼にとりて最良の保護者てあつた、彼の父母の力に負ふところが多いといはねばならぬ。彼は幼にして學校に入ることができなかつたけれども、彼の父は、最も信仰に富み、且つ學識の卓越せる神學者にして、彼が深き敬虔の念、書物を嗜讀する性僻、理想を追求する眞情、正義を愛する念、人に對して同情の心厚きなど、みなこれ熱心なる信仰を抱いて、且つ文學趣味に富める彼の父母の賚であるといつて可いのである。それ故に人の一代は幼少年時代の、いかにも外界の刺戟と影響とを感受し易い時代に於て、少くともその運命の半以上は支配されるといひ得るだらうと思ふ。

■日本に於ける伊藤仁齋、賴山陽、伊藤圭介＝
＝箕作秋坪一家の遺傳と境遇■

植物栽培上の實驗に本づく說を聞いてみると、優良なる種類を作り出さうとして、種子の撰擇に注意を加へてゆくとだん〳〵立派なるものに改良できるさうであるが、然しその改良がゆくところまてゆくと、謂ゆる行き詰りとなりて、その反動といふものか、最初の劣等粗惡なるものに還元しやうとするさうてある。かういふ生物學の實驗は、人間の場合に當て嵌めて差支ないか何うかは、姑く別問題として、人物ても餘り立派な偉人の後、その子孫に甚しい愚純のものが生れることあるは事實てあつて、何人も時々見聞することてある。然しかういふ例があるからといつて、吾等は遺傳の法則を無視することはてきない。それには必らず的確なる學理的理由の存ずるものて、さういふ方面の學問の進歩と共に、優良なる種族を甚しく低下させぬやうに、これを保存してゆく方法が考へらるゝに相異ない。それから家庭や學校に於て餘りに謹嚴に究屈に、子供を養育するために、その子供は一種の反動を起して、却て放縱我儘になるといふことも、世に無い例てはないと思はれるけれど、普通一般には善良なる父母から

善良なる子孫が生れて、極惡なるものは生れるものでないと見ねばならぬ。それ故に吾等が一代に於て修養し獲得する智力、能力、德性、信念といふものは、何程かの程度に於て、子孫に影響を與ふるもので、之と同じく無智、無能、惡德、不敬虔といふものも、亦幾何かその子孫の精神の上に惡影響を及ぼすものと見ねばならぬ。日本にありても、昔は伊藤仁齋先生の一門から學者が幾人も起つてゐる。近くば名古屋の植も學者の出る系統であつたといつて可い。賴山陽先生の家物學者伊藤圭介先生の孫に伊藤篤太郎博士の出られたる如き、津山の箕作秋坪先生の子孫に男菊地大麓、箕作健吉、箕作元八などの諸大家の出られたる如き、かういふ類をあげてみると、なか〳〵少からぬが、而してこれらの人々の生ひ立ち經歴を調べてみると、其處に何うしても遺傳の力と環境の感化力といふものと、互に交渉し合つて、何處までか遺傳の力か、何處までか境遇の感化力か、確に限界を劃することは、恐らく困難であるけれども、双方の力ともこれを閑却できぬことは、疑ふ餘地あるまい。習性となるとか、居は性を移すとかいふことは、みな環境より受くる影響を言ひ現はした言葉であるか、氏より育ちといふも、さうであるけれども、此の言葉のうちには氏族、血統によりて、人の優劣が定まるといふことを認めながら、然しそれよりも教育であるといふことを主張して居るのである。

■日本と海外諸國と風土食物の相異は＝いかに個人に影響を及ぼすか■

境遇とか環境とかいふことを、父兄や教師の感化、その他交友の關係などの、狹い範圍のみで考へないで、更にその觀察の範圍を擴大して、一國の歷史、傳統、又は一國の地理、風土などから享ける感化影響を考察するとも亦必要である。

私の見るところでは、日本人といふものは、風土や食物の關係上大した惡事をしない國民であると思ふ。何れかといへば、比較的善良溫和なる生活を營むやうにできてゐる。或る外人は日本人といふものは、醜惡なる風習さへも、之を趣味化し藝術化する天性を有すといつた。實際西園寺侯などの折花攀柳の遊興に至つては、外人に見ることのできぬのみならず、普通一般に酒色に耽溺するものと同一視し難いところがある。さりとて生じか西園寺侯を眞似することは勿論不可いが、日本人の極端に下劣なる惡事を爲し得ない一の例證として見ることができる。東京の諸學校に學ぶ學生に就いて見ても、やはり然うである。舊幕時代の感化に浸つた老人の目から見れば、今日の書生に多くの缺點弱點が數へられるかも知れねども、今日の書生は昔の書生に比して決して墮落して居ない。昔の書生よりも生活の困難といふこともよく辨へ、酒色の害の心身に及ぼす結果なども、昔の書生より能く理解して來た。同じ腐敗墮落するといつても、そこに哲學上や文學上の感化より來るもの多く、昔の如く唯だ放縱不埒に流るゝのと、その意義に淺深の差がある。固より意義が淺いにもせよ深いにもせよ、惡事は惡事に相違ないけれども、一概に今日の書生の生活を昔日より劣つたものゝ如く考ふるは適當でない。それは社會的環境が昔より遙かに善良になつてゐるからである。

今少しく社會が發達して來れば、東京の書生の如きは、全く抛つて置いても、さう惡い方へ傾かないと思はるゝ一の理由は、全く風土の關係である。日本のやうな寒暖乾濕の調和のとれるところは、世界に珍らしい。食物などでも、風土の關係から、餘り強烈なる香味をとらないで、淡泊なものを取るやうにてきてゐる。かういふ環境が、いかに人の性格と氣風に大なる影響を與へるか知れぬ。

大陸になると、然うはゆかぬ。支那などでも、南北により て思想上にも氣質の上にも、大變な相異がある。露西亞などは殊に然うて、何うしても極端から極端に移らなければ滿足てきない。露西亞の風土からして然うてあるからである。印度人なども然うてある。一方には非常に肉慾的衝動に驅られるものがあるかと思ふと、一方には虛無恬淡、全く人世を超脱した生活をなすものがある。歐米人でもやはり然うてあつて、惡事を爲すとなると、なか〳〵日本人などのやうにない。極めて辛辣酷烈である。古來の戰爭の歷史など見ても、日本人の戰爭は趣味化され、風流化されるが、西洋人の戰爭は何處までも器械的であり功利的である。以上の如く個人といふものは、歷史や現時の社會狀態から受くるところの影響甚だ大なるが故に、社會の廓清者を以て任ずるものにあつては、この點をも注意して研究せねばならぬ。

茶ばなし

物質萬能主義だの、ヤレ黃金崇拜主義だのといふ言葉は、隨分古い頃からあつたのだが、近頃のやうに斯う極端になつたのは未だ新しい事て、實は歐洲戰亂以後の風潮だと云つても過言てはない▲といふのは、戰亂の餘波を受けた我國の輸入出が、延いて一般經濟界に好影響を與へ、それが爲め或者は一擧數十萬金、或はまた幾百千萬金を得た、所謂成金輩が簇出したからである▲何しろ渠等の金費の暴い事と云つたら、誰一人顰蹙しない者が無いといふ程だが、それも只世人が顰蹙する丈の事なら左程でも無いが、困つたことには日頃物質に窮乏を訴へてゐる其の日暮しの下層社會の人達が、口に指といふ體態だから始末に負へない▲處へ持つて來て一回の宴會費が五百圓だの六百圓だのといふし、中には雪駄の裏へ白金を着けて料理屋の者共を驚かした抔と云ふ噂が新聞に載るので、一層成金熱に浮されて了ひ、果ては名譽も地位も投棄てゝ、成金崇拜者に變るのだから全く以つて溜らぬといふものだ▲遂先達のことだが、之れも同じく成金熱に浮された某名望家、年頃の娘を嫁付けやうとして居る處へ、日頃物色してゐた成金の獨身者が目に止つたから、それと許りに一も二もなく家族擧つての賛成に、目出度結婚すると、成金抔とは眞赤な僞りて實は前科三犯といふ無賴漢だといふ事が判つたので大騷ぎになつたが、最う何うする事も出來ず、結局離婚を申込むと『歸るなれ歸つて見ろ、お前の家族全部を鏖しにするから』と脅迫されて、止むなく同棲して居るといふ事だが、これ抔も本人や家族の罪も淺くは無いが、實は成金熱の流行に眼が眩むだが爲めて氣の毒と云へば氣の毒だが、餘りに物質のみを主とする結果が、這麼悲慘事を惹起すに至つたのではなからうか。世の識者たるものは彼等の過を矯さなければならない。

婦人問題より觀たる遺傳と環境

女子大學々監 麻生正藏

□婦人の特長は先天的のものか

婦人問題と遺傳といふものは、第一婦人の心身の特長と遺傳とは如何なる關係あるか、卽ち言ひ換へれば婦人の精神、たとへば感情に長じてゐるとか、直覺に勝れてゐるとか、記憶に長けてゐるとか、感情が細やかであるとか、其他抽象思想に貧弱であるとか、いふ樣な精神の特長は、果して女性としての遺傳であつて、變更の出來ないものであらうか、肉體の上から云へば、頭が割合に大きい、四肢が割合に短い、乳房骨盤が大きく、肉體が脂肪に富み、纖骨、纖肢、纖脚、無毛で、又聲が一種特別であり、其結果として力強い筋肉の働きが出來ぬといふ機能上の特長も起るが、之は女性の特長として永遠變ゆべからざるものであらうか、斯ういふ身體は天才的であるから男子よりも優れたものであらうか、それとも又反對に男子より劣惡であつて、精神の方面には、智力は優秀なものとなれない稟賦のものであらうか、從つて高等教育には適せないてあらうか、體力の方からは、全く其の纖弱な身體は勤勞に適せぬてあらうか、若し果して婦人が、一定不動なる遺傳性を心身の上に有つて居るといふ事であれば、如何なる教育を與へても如何なる職業を與へても、婦人は進歩發展を來すことは出來ぬといふ結論をも生ずるのであるが、斯ういふ樣なことが婦人と遺傳との第一の問題である。

□人類優秀化と婦人の使命

第二の婦人と遺傳との問題は、優種學に聯關した婦人問題であつて、之は人類の進歩發展に偉大な影響を有するもので殊に婦人は此方面の學理を研究して人類の優秀化といふ樣なものに天職を盡さねばならぬ。

之を一言にして云へば、婦人が結婚を謹み、改善する事てある。婦人は結婚を成立せしむる最後の裁決權を有つてゐると云つていゝ、婦人は結婚を左右する位置にある。婦人が結婚を左右するといふのは、卽ち人類の優秀化の選擇權を有つてゐる譯てある。平たく云へば婦人が精神身體を劣惡ならしむる樣な結婚を拒絶する、其代りに優秀なる配偶の申込みを受諾する事によつて優秀化するのである。婦人は優秀な配偶と共に優秀な身體を子孫に傳へ、依て以て人類を優秀化するのである。之は婦人が有する最も尊き使命て婦人問題としても重要なる位置を占むるものである。

此點より云へば婦人が先づ第一に、アルコホルを飮用する男子、梅毒に罹かれる男子を排斥しなければならぬ。次に結核病であるとか、其他色々な人類を劣惡化する病氣に向つて、婦人が確乎たる信念を以て、斯かる病源を有する男子と婚を結ばぬ樣にせねばならぬ。けれどもまだ婚姻を避けるだけて優秀化を遂げる事は出來ない、婦人は更に一般に此のアルコホル、梅毒、結核の社會的三大害惡と大に戰はねばならぬ又精神病の防禦といふ樣なことどの爲めに盡さねばならない。これ等は人類を壞滅する公敵であるから、之と戰ふのは婦人の天職である。卽ち第一は婦人自身の向上發展の爲めの問題にあり、第二は人類全體の優秀化に關係する處の問題であるといふ事が出來る。

□境遇と婦人の心身

飜つて第一の問題と境遇といふものを考へて見ると、婦人は果してどういふ固有の特長を有つてゐるかといふ事は、心身共に不明なものてある。何故なれば生物といふものは其境遇に適應し、少からざる範圍に於て變化する。アルプスの山に成長する植物と溫帶の平地にある植物と全く別種の如く思はれてゐたものが、一度アルプス山上から移植して見ると同一のものである事が知られた如く、境遇は同種類のものをして形態を一變し全く別種の如き觀ならしむるの力があるからである。人間も亦斯くの如く、婦人の容貌が纖麗で、手足も筋骨も纖弱であるにしても、境遇を變じて勞働を營ましめたならば、筋骨逞しき者とならぬとは限らぬ。現に貴族社會の婦人が纖弱で、下層社會の婦人が强健なる體格を有するのは、我等の日常目擊する處である。また智識階級に交はる婦人は、たとへ高等な敎育を受けぬても、其境遇によつて聰明にせらるゝのは、歐羅巴に於ける交際場裡の婦人に屢々見出される、日本の藝妓の如きも蓋し其一例て、智識階級に交る處より無學に比して割合に聰明てある。

人生も亦境遇によつて心身共に變ずる事斯くの如くてあるならば、現在婦人の特長とする處も亦、果してどこ迄が本性かは分らないと云はねばならぬ。故に本性を窮めんとするには境遇を研究するより外はない。境遇を代へて見て、如何に境遇を變へても之れ之れは變らぬといふ處に行つて、始めて眞の特長を知るべきてある。今後婦人が如何に社會の文明に寄與する事が出來るかといふことは、境遇を與へて見るより外はない。されば今日高等敎育を與へたといふのは、婦人に境遇を與へたものてある。職業を與へたといふのは亦能力の試驗に外ならぬ。而も晩近婦人の境遇を開拓した結果、婦人が進步發展したことは否む可からざる事實てある。殊に今度の戰爭は婦人の心身に對する大仕掛の大試驗となつた。婦人は如何なる體力を有ち智力を有つかといふことを色々の方面から試驗された。而して婦人は體力に於ても智力に於ても、今迄思ひ設けない仕事も爲し得る事が證明された。之によつて今後婦人が如何なる發展をなすか分らないのてある。

□婦人の能力試驗の時代

故に我等は婦人の爲めに、先づ優秀なる境遇、卽ち優境を

與へる事が今日の急務と信じてゐる。婦人に優境を與へて子孫を優秀化するは人類の祉福である。と云つて我等は男女を同一にしやうといふのではない。異つた特長を有する男女が集合して家庭を作るべく社會も作らねばならぬ。其の特長の發揮によつて愈々複雑なる社會を作り出すことが、人類を幸福にし進化せしむるに違ひない。さらば婦人がどういふ特長を有ち、どういふ能力を發揮せしむべきかは、大仕掛の試驗が必要で、婦人が如何なる社會的奉仕をなすかは今後、即ち解放せられたる、優境を與へられたる後に於ける事實に待つ可きであつて、今日はまだそれを與へ始めただけの時期に過ぎないが故に、其能力を定めんとするが如きは早きに過ぐるのである。我等は思ひ切つて様々の境遇を婦人に與へ、これこれ　長所これ〳〵は短所といふ事を明にし、それから長所を發揮せしめなければならぬ。今日は未だ人間が素人である。よろしく黒人にならねばならぬ。之を要するに均等なる境遇を與ふるといふ事は今日の急務である。

□婦人と環境の優化運動

第二の遺傳問題と境遇は、婦人は優秀なる人類を創造すると共に、優境を作らねばならぬ。それは酒呑みの表はれぬ様であるとか、梅毒の表はれぬ様であるといふ事に力を盡さねばならぬ。近頃若い婦人の間に禁酒運動が起つてゐるが、斯ういふものを發展せしめて行かねばならぬ。尚一歩進んでは公娼廢止であるとか、私娼撲滅であるとかいふ様な、不道德を廢する即ち社會的梅毒を排する事に婦人が努めねばならぬ。之れが境遇の優秀化であつて、日本に於ける婦人達の、社會の母として國家の母として努力すべき大切なる方面である。

尚其外に貧民といふ様な境遇から救つて行かねばならる。貧と戰ふには貧に陷らぬ様に人間を救ふて行かねばならぬ。それには下等社會の子供に職業を授けるといふ事が最も大切て、婦人が社會の母として爲すべき重要なことである。惡少年が表はれて之を救治するには、多大の金錢と勞力を要し、而も勞して效少きものであるから、やはり未然に職業を與へて之を豫防するに努めねばならぬ。

次に婦人は病と戰はねばならぬ。既に病となつたものをよくするのは、不良少年を良くすると同樣、金錢と勞力を要するから、始めから病弱な身體を以て生れない様に、貧民の母に育兒及妊娠の心得を授け、健全に育てゝ艱難に堪え得らるゝ子供を作る様にせねばならぬ。それには母の會といふ様な母を保護する會を作つてやる事が必要である。次には公衆衛生に注意せねばならぬ。婦人衛生視察員といふ様なものを設けて、貧民の衛生狀態を改善して行くのである。

なほ婦人は積極的に道德上優秀なる境遇を作つてやる事である。倶樂部であるとか、色々な會などを盛んに開いて一種の社會的教育機關を開くのである。

斯ういふ様なことが、婦人の境遇に關聯してゐる。日本には婦人の働くべき天地は廣大無邊である。あそこにもこゝにも婦人を待つてゐるのである。遺傳と境遇、共に婦人の手によつて愈々優秀化し、文化を進めて人類の祉福を増進せねばならぬ。

兒童心理學上より觀たる遺傳と環境

東洋大學教授　高島平三郎

□個人の生存と祖先及兒孫の關係

人間の精神作用の總ては、遺傳と境遇とにより成立つものてあるといつて可い。善き方面も惡しき方面も皆此二つによることである。エレンカイが「小兒は親を選ぶ權利がある」といつたのは、畢竟遺傳がその小兒の利害に大關係があるためてある。十九世紀の後年以來生物學の一分科として遺傳學が非常に發達し、就中墺國のメンデルが出づるに及んで、其の法則さへ次第に明確になつて來た。我國抔でも又昔から血筋といふことがある。血が續くといつて、親子孫と次第に關係のあることを言ひ現はしてゐるが、血を細胞に代へればそれはその儘眞理である。生殖細胞の中には祖先以來傳つて來た遺傳物質が、盡く這入つてゐて、それが所謂メンデルの法則に從つて次第に子孫に傳つてゆくことは、單に理論として成立つのみならず、科學的に於ても之を證明することがてきるのである。

而して一個の人が生れるためには、二人の親が存することとは云ふまでもないが、それを漸次に遡つてみれば、五代前には三千人の祖先を有し、十代前には一千〇二十二人、二十代前には百〇四萬八千五百七十四人、三十代前には十億七千三百七十四萬千八百二十二人の先祖を有してゐるのである。斯の如くして、進んで四十代五十代百代の遠きに遡るときは、殆んど計算すべからざるほどの無數の祖先が、一個の人の生存する爲に關係してゐることが解る。かういふことを考へてみると、人の一人生れるといふことが、いかに崇高のものであるかゞ解る。

□惡遺傳の子供を生ずる原因

斯く多數の祖先から各種の遺傳物質をうけて兒童の精神がその基礎を作るのである。若しも此くして多くの祖先の恩惠を享けて人となつた個人が、自己の關係に恥づべき病毒を感染したり、或は男女の不正の交りによつて、惡しき遺傳的物質を受け容れるやうなことあらば、啻に自己一人の不幸てあり苦痛であるのみならず、前にあげたる如き、多數の祖先を辱しめることゝなり、又斯の如くして生じたる子孫の存する場合には、之に惡質を遺傳して、永久に之を害することになる。此の點から考へても、人は男女の間に純潔を保ち、又結婚は神聖なるものとして、互に血統を充分穿鑿して愼重に定

めねばならぬことが明かである。

現代文明社會に於て人類を脅威する種々の恐るべきものがある。卽ち花柳病とアルコールと結核と精神病とである。これらに對しては文明各國は競うて撲滅に力めてゐる。この外にも怖るべき病氣は數多くあるが、何故に以上四種の病毒を恐るゝかといふに、これらのものは何れも生殖作用に影響して、子孫に害を及ぼすからである。今兒童心理學の立場から兒童を調査研究してみると、先天的に白痴であつたり、又神經精神に異狀を有つてゐる。犯罪的傾向を現はす如きもの少くない。これらのものを親に遡つて研究すれば、幾んど必然に親若くば祖父母或はそれ以上の祖先に、前述の病毒に冒されて、神經若くは精神に異狀を有したるものを發見するのである。故に今日現在してゐる、白痴兒、犯罪兒、その他凡ての異常兒童を感化し教育することに力むるのも必要であるが、更にその根源に遡つて、かゝる惡遺傳を有つ兒童の生れぬやうに努むることが、一層必要である。

□人種改善の初めに先づ優境を作れ

これには社會政策上或は酒を作ることを禁じたり、又賣ることを禁じたり、犯罪者や精神病者の結婚を制限したり、甚しきは去精法その他の產兒能力を失はしむる如き方法も存するが、その根本問題としては、各人が「性」の科學に通じ、遺傳の恐るべきを諒解し、よく性的道德の純潔を保つことに注意することに如くはない。自己が一時の慾情を制し得ずして、上は祖先を辱しめ、下は子孫に害を及ぼすことは、その事情が明になればなるだけ、人として最も忍び難きことである。遺傳に基いて起るところの、精神異狀、並に反道德犯罪行爲等の常習を有するものは、その矯正感化に於て最も困難を感ずるのである、各種專門の學校が、凡ゆる科學の光明によつて、その改善に努めてゐるけれども、容易にその效果を見るに至らない。今日では只僅に消極的に、その現はれを甚しからしめぬに過ぎぬのである。

我國の諺に馬鹿につける藥ないといつたのは、絕對の眞理ではないけれども、先天の異常者を教育することは、今日に於てはその效果が尙甚だ微々たるものである。然し幸にも低能者、犯罪者、その他異常兒童の多數は、遺傳に基くよりは、境遇に本づいて居るのである。諺に『氏より育ち』といふとあるが、この諺は多くの場合に於て眞理である。ガアルトンの優種學によりて、遺傳的に人類を改善してゆくことも極めて必要であるが、こればかりでは足らぬ。必らずこれと共に、境遇より改善してゆく方法卽ち謂ゆる優境學の立場から人を向上せしめることに力めねばならぬ。たとひ善良なる遺傳を有して生れて來た兒童が、その周圍の境遇が甚だ不良なる場合は、墮落して惡化し、正當に指導すれば、立派なる働を爲すべきものも、これを惡事に應用するに至つて、善き遺傳は却て害を爲すことさへある。最下級の貧民の間から、不良の者が出るのも、全く境遇の然らしむることが多い。

□貧民窟に於ける不良兒研究

予は此頃東京府の囑托によりて、府下に放浪して居たり、

或は惡事をなして警察官に捕へられた兒童を鑑別して、適當の處置を執る方針につきて、意見を提供することを爲して居るが、その調査の場合に於ても、不良兒童の十中八九は、殆んど境遇の然らしめるところであると斷言して憚らぬ。彼等は概ね母を失ひ、父に棄てられ、貧困にして無慈悲なる叔父叔母に引取られ、各種の冷遇虐待をうけて其處に居るに堪へずして、都會に漂浪して來り、轉々して雇主の家を渡りあるき、終に淺草公園にゆきて、不良の徒にそゝのかなされて、惡事を爲すに至つたといふ經路が、定型的になつて居る。殊に彼等の大多數は、活動寫眞を好み、その挑發によりて、惡事を敎へられることは、極めて多い。それ故に今日社會敎育として圖書館、運動場、その他各種の娛樂を改良することは、極めて必要であるが、就中淺草公園の如き、凡ゆる誘惑の集注して居る場所に改善注意し一層努力せねばならぬ。

英國の諺に「働くばかりで遊びがなけりや、家の太郎は馬鹿になる」といふ意味のものがあるが、これは常態健全の兒童に於て眞理なるのみならず、凡ての小供の敎育に適用すべき最も有益なる注意である。下谷の萬年町、本所の太平町、其他深川などの貧民窟に於て、兒童が惡化するのは、殆んど自然の數であるといつても不可はない。何となれば彼等のために適當なる娛樂を與へ、運動場を與へ、讀物を與へる等の設備が、殆んど措いて顧みられざるにあつて、狹き家に多人數が雜居して居り、只さへ種々の惡影響をうけるに、家を出づれば、直ぐ狹きところに、彼等の慾望を挑發するやうな品物が店に陳列されてある。兒童がこれを見て、直に手をのべて取ることは、殆んど罪するに忍びぬほどの自然の傾向といはねばならぬ。

□善良なる境遇に應順せしめよ

曾て紐育のある警察署長は同市の貧民の子弟のために、一定時間或る市街の往來に自働車や馬車の運轉を停止して、隨意にこゝにて遊ばせる方法を取つたといふことなるが、その注意は實に敬服に堪へぬことである。境遇を改良すれば、人間の不良に趨く傾向を救うて、正當の道に趨かしめるとが、積極の學校敎育以上に效果が存するであらう。

元來生物は境遇に順應するを以て、無生物と區別されて居る。人類も亦幼時に於ては、一般生物と同樣に、只だ境遇に順應して生存する外ないのである。漸く進んでは境遇を自己に順應せしむることが必要となつて來る。又この點が人類の價値の存するところである。一定の理想を以て、社會の改良を謀る人の如きは、全くこの種類に屬する高尚なる企をなす人といはねばならぬ。然し斯る狀態に進む前に善良なる境遇に順應せしむることが兒童精神の啓發と極めて必要なることである。曾てゲーラがいつたやうに「叡智は靜なる自然に於て表はれ、性格は社會雜沓の中に於て養はれる」といつたが、靜なる自然界も、雜沓せる社會も、共に境遇である。兒童の精神を健全に發達せしめんと欲したならば、自然に於ても社會に於ても、最も適當なる境遇の撰擇に努むる必要がある。

男女道徳上より觀たる遺傳と環境

一條忠衛

一　遺傳及び環境の意義

先づ遺傳と云ふことに就いて過去の學者は何う考へて居たかと云ふに、一個體を單位として父に似て居るとか母に似て居るとか云ふやうに、身體全部を單位として考へて居た。然るに今日の遺傳學者に依れば、遺傳の形質は身體全部を單位とするのでは無くて、親の有つて居る澤山にある形質の中から、何れかを承繼するのであると考へられて居る。唯だ人間の子には人間が生れ、馬の子には馬が生れるのは、親の有つて居る澤山にある形質の身體全部を普遍的單位として承繼する結果であつて、特殊的には異つた點も澤山にあるのであるから、一個體の有つて居る澤山の形質がそれぞれ遺傳の單位を爲して居ると言はなければならぬと信ぜられて居る。これに關して多くの材料を蒐めて、形質を單位として諸種の形質の親から子に傳はる事實を研究した人は英吉利のガルトンである。そして此のガルトンの意見を實驗して、その眞理を證明した人はメンデルである。然るにこゝに生物には進化と云ふ現象がある。生物の環境に從つて變化するの謂である。ダーウインの自然淘汰の意見に依れば、或る性質を有つて居る生物が次第に變化して其の性質の程度が或る分量を越えると、全く異つた種類になると云ふのである。さうして、彼はこの變化の分量は少しづゝ堆積されて、徐々に行はれると見たのである。然るに之れに反對して、ドフリースは一足飛に突然と全く違つたものに變化すると云ふ意見を出したのである。

惟ふに遺傳と進化との間には密接の關係があつて、子は遺傳によつて規定され、又た環境によつて徐々の進化より規定されるが、又た突然の變化によりて規定されると見るべきである。殊に人間の場合に於てこれが眞理である。さうして、其れは獨り肉體上の場合のみに限らず、精神上の場合に於て殊にさうである。論語の季氏第十六には、『孔子曰、生而知レ之者、上也。學而知レ之者、次也。困而學レ之、又其次也。困而不レ學、民斯爲レ下矣。』とあり、中庸の作者は哀公問政に於て之れを改作して、『或生而知レ之、或學而知レ之、或困而知レ之、及二其知一之一也。或安而行レ之、或利而行レ之、或勉强而行レ之、及二其成功一一也。』と云つて居る。これは父母から受けた先天的の禀賦によつて、賢愚聖凡の人格が岐れるけれども、又た後天的の修養によつて愚人が賢人となり凡人が聖人となり得ることを道

破した言である。次に論語の陽貨第十七には、『子曰、性近也、習相遠也。子曰、唯上知與下愚不移。』とあるが、之れも至言である。父母より遺傳として承けた賢愚聖凡の差別があつても、人格淘冶の可能性に於て萬人は相近い者であるが、愚人の或る者には此の人格淘冶の可能性を有つて居ながら、困んで之れを學んで上達することを爲さないために、習相遠しと云ふことになり、上知に比して下愚なる地位に陷り、ドフリースの突然の變化によつては改造の出來ない人間となり、延いてロンブロゾーの說いた犯罪人ともなり、遂にダーウインの自然淘汰によつて軈て滅亡に歸するのである。これに由つて觀ても、宋儒の氣質變化說は下愚以外の場合に正しく、物徂徠の氣質不變化說は下愚の場合に於てのみ眞理であると見て善からう。尤も希臘の哲學者が掲げた、多血質、膽汁質、黑膽汁質、粘液質の四形式を彼れより此れに根本的に移して變化を企てることは不可能であつても、人格淘冶の可能性からして氣質の短所を改めて長所を發揮することを教育上の理想とせねばならぬことは、適者生存の進化論上より見ても正當なことである。又た『里以仁爲美。』とあるやうに、その環境に留目して人格陶冶の可能性を擁護することが肝腎である。遺傳と環境とは斯くして互に相扶けて、人格の可能性を發揮する搖籃となり、男女兩性の社會的生活に道德的意義を生ずる根底となるのである。さうして、此の親の人格的修養の結果として、子はその善良なる遺傳を承け、善良なる環境に育つて、初めて人類の文化を向上し得るのである。故に男女道德上に於ては、成るべく此の善良なる遺傳を子孫に與へ、善良なる環境を作つて人種の進化を圖ることが大切である。

二　男女關係より生ずる子の種類

男女關係は之れを精神的關係と肉體的關係とに分けて見ることが出來るが、更に之れを合一して社會的關係として見ることが出來る。男女はこの社會的關係に於て、或は精神的に或は肉體的に生活して居るのであるが、其の結果として此處に子と云ふものを生み、その子に父母の精神又は肉體上の遺傳を與へ環境を作るのである。そこで子に屬する遺傳及び環境には千差萬別の樣式があつて、その一々に就いて今之れを男女道德上より論究することは容易で無いが、幸に吾々は子と云ふものを若干の種類に分類して居るので、その子の種類によつて其の遺傳と環境とに對して、良否を決し、是非の論策を樹てることが出來るのである。然らば先づ子の種類とは如何なるものであるか。

父母の間に生れた實子を吾々は一概に子と云つて居るが、この子が社會的に取扱はれる場合には、色々な名稱に分けられるのである。西洋では之れを嫡出子と私生子とに分けて居る。日本では嫡出子、私生子、庶子の三種に分けて居る。この分け方は主として法律上の分け方であるが、その根本的原因に於ては道德に由來するので、道德上當然の結果として分れて種類を生じ、その種類に應じて社會的境遇を異にし、法律上より別々な待遇を受けることに成つたのである。即ち子の種類と云ふものは、子を生むべき父母の男女關係に於け

る性的行爲に原因して居るのである。この性的行爲の善惡が子の種類を決するのである。然らば如何なる目的からして、父母の性的行爲が子の種類を決して、社會的待遇を異にするに至るかと云ふに、それは道德上の概念に基き、優良種の遺傳及びその善良なる環境を望む一般人の良心に由るのである。遺傳に於て私生子又は庶子よりも嫡出子を理想とし、私生子又は庶子を生める環境よりも嫡出子を生める環境を理想とする男女道德上の要求に基因するのである。然らばこの嫡出子、私生子、庶子の間には、その遺傳及び環境に於て、男女道德上抑も如何なる意義を有して居るか、左に之れを詳述して、併せて道德政策上よりその改善の綱領を附言して見いのである。

三　嫡出子の遺傳及び環境

嫡出子と云ふのは夫婦の間に生れた實子である。道德又は法律上より人道的に許された、夫婦間の性慾に基いて生れた合法的の子である。それから私生子又は庶子であつたのを、父母が人道的に合法的に婚姻した爲めに、嫡出子に換質された子である。それて嫡出子とは男女の人倫に於て理想化されたる性慾の結果として、最上形式の典型を有して居る子であつて、人は何人と雖もその男女關係に於ては合法的な一夫一婦の規則に準據して、子を生むべき場合には必ずこの嫡出子を生むべき倫理的使命を有して居る。而して一夫一婦の道德的規範たるものは一男一女の相愛に基く和合であつて、同時にこの和合を擁護する貞操を具備したものであるから、人は萬人を通じて圓滿なる家庭の父母となつて、その愛の成果である子を撫育すべき道德的義務を有して居る。故に嫡出子と言へば、直ちに夫婦の愛の塊として生じた寶子であつて、圓滿なる家庭に育つた子であることが、彼れの本有する資格である。嫡出子はこの意味に於て父母の正善なる性的行爲の結果で、男女道德上の善良なる人格を遺傳せるものであり、且つその圓滿なる家庭に於て善良なる環境に人と爲れる者であり、人類に於ける優良種の最高模範として、人種衞生上の理想である。

先づその子の精神的方面に就いて考察するに、一夫一婦の人格的戀愛によつて孕まれた爲めに、一切の道德を修養するに最も都合のよい萌芽としての人格を遺傳的に與へられて居る。さうして、父母が善く配偶者の選擇に留意して、充分の理解を以て結婚した爲めに、その子の性格、趣味、才能はその可能性をのび〳〵と發揮させる便益を與へられて居る。相愛の仲に生れた嫡出子に天才の多いのは、古來歷史上の證明する所である。殊に父母の圓滿なる家庭に於て敎育を受け、善良なる環境に人と爲るのであるから、假令物質的には赤貧洗ふが如き家に育つても、精神的には天下を支配する偉人を出すのも是れが爲めである。次に子の肉體的方面に於いて考察するに、一夫一婦の人格的戀愛の結果であるが爲めに、その精神的融合の滿悅からして、子の容貌又は體格も圓滿であり、父母よりも美てある。さうして、配偶者の選擇に留意して人格的戀愛を以て結婚したのであるから、血統上に於ても遺傳性の疾病がない。殊に父母が一夫一婦の人格者であるが爲

めに、子に花柳病などと云ふ性的不道德病が遺傳されて居ない。又た家庭の善良なる環境に育つて居るために、さう云ふ恐ろしい病毒が子の身邊に近づく機會が無いのである。隨つて子の身體は健康であり、實に國民の理想的典型である。是れ眞正なる嫡出子の有する特權である。

然るに世間には、夫婦間に生れた嫡出子として取扱はれて居る子の中に、この嫡出子の眞正なる資格を有して居ない虛僞の嫡出子がある。これは戸籍簿には立派な法律上の一夫一婦であつて、人格的戀愛に基いて生んだ子では無く、その間に何等の愛情も無く、理解も無く、單に野合的な性交の結果として生んだ子である。即ち一男一女の間に人格的な和合が無く、單に親や他人の強制によつて婚姻して、無自覺的な獸行の結果として生んだ子が虛僞の嫡出子である。而かも相愛なき父母の家庭に人と爲り、父は花柳の巷に出入し、母は情夫と淫佚を極めて居ると云ふやうな、修羅場に育つて居る子が虛僞の嫡出子である。この虛僞の嫡出子はそれ自身に於ては何等の罪も無く、洵に憐れな身の上である。この世に生れなかつた方が幸であつたのに、親や第三者の爲めに過つて生み落されたのである。父母の協同的な慈愛を受けることが出來ず、またその慈愛に對して孝道を以て兩親に報ゆるにすら不都合な境遇に陷れられた者である。隨つて人種衛生の上には不良種に屬し、不完全なる結婚制度の犧牲者となつた者である。故にその子の精神的方面に於ては不良の遺傳を受けて居る點が多く、肉的方面に於ては容貌體格の圓滿なる者が少なく、惡疾の遺傳殊に花柳病の遺傳を受けて居る不健康者が夥しい。

以上の意味に於てガルトン又はメンデルの法則は男女道德上に於ても眞理であり、子は單に父母の肉體的形質のみを遺傳するのでは無く、大に精神的形質をも遺傳すると謂はなければならない。殊に男女道德上の人格はその子に大なる影響を與へ、子の生涯を支配するものである。けれども論語や中庸の作者が言つた如く、又はドフリースの法則の如く、この道德上の遺傳も先天的には素質として賢愚凡に分れる萌芽であるけれども、又た後天的にはその環境に於て修養改造を加ふるの如何により、愚人が賢人となり、賢人が愚人となるのである。故に嫡出子が父母の善良なる人格を遺傳によつて承繼して居ても、その環境に於て宜しからぬ時には、人格は次第に墮落して人種の退歩となるのである。一夫一婦の間に生れた理想的の嫡出子が、父母の膝下を離れて人手に渡つた場合に、不善なる環境に誘惑されて墮落滅亡に歸する者の多いのはその爲めである。この意味に於て、男女道德より觀たる圓滿なる家庭とそれに伴ふ善良なる敎育とは、嫡出子の人格を後天的に決定する環境の要諦である。それで道德政策上より觀る時は、眞正なる嫡出子を保護して國家の優良種を增殖するために、先づ結婚制度を改良して、人格的戀愛によつて行ふの制度にせねばならぬ。次に孤兒の救濟に留意して、彼等の淪落に陷る環境を改善せねばならぬ。次に公娼を廢止し、私娼を撲滅し、蓄妾を嚴罰して、嫡出子の社會的に墮落する性的不道德の原因を一掃しなければならない。

四　私生子の遺傳及び環境

私生子と云ふのは、父母の知れない子又は母が認知した子を云ふのである。父母の知れない子と云ふのは、例へば棄子のやうなものである。母が認知した子と云ふのは、謂はゆる父無子である。私生子の生れる原因を余は男女道德上より從來五種に分けて考へて居る。(甲)は內緣の夫婦間に生れた子を母が認知した場合。(乙)は妻のある男子と獨身の女子との間に生れた子を母が認知した場合。(丙)は獨身の男女間に生れた子を母が認知した場合、(丁)は强姦によつて生れた子を母が認知した場合、(戊)は棄子又は其れに類する場合である。

(甲)　この場合は內緣の夫婦がその子を生む以前に、法律上の婚姻をして置かなかつたことに原因するのである。たゞ內緣の夫婦は法律上の正式な夫婦では無いが、一夫一婦の道德に準由して社會的生活を爲して居ると云ふ點に於て、公序良俗と合致して居るが爲めに、法律に於ても婚姻上の夫婦に準じてこれを取扱ふ場合もある。けれども、內緣の夫婦がその子を生む以前に婚姻屆を出して正式の夫婦に登記して置かなければ、當然の結果として其の子の私生子となるは免れない。そして登記して置かなかつたことには、二種の原因がある。前者は自己の怠慢から來た場合で、後者は登記するのは困難な事情の存する場合である。前者の場合は說明を俟たずして明であるが、後者の場合は聊か趣を異にして居る。例へば男女が孰れも家督相續人であつて戶籍の變更が甚しく面倒である場合とか、或は親權者が子の婚姻に同意しない場合である。一男一女が人格的に戀愛して子を擧げるまでに結合したものを、家族制度の思想から相續人に關する煩雜なる規定や親權者の同意權の濫用によつて、法律上より婚姻し得ない場合には詮方が無いのである。斯かる場合に母が單獨に認知すれば、その子は私生兒となるのである。けれども、此の場合の私生子は父母の性慾を理想化したる人格的戀愛の結果として生れたのであるから、父母の行爲には何等の罪惡が無く、全く法律の不完全なことに原因したのである。それでこの種の私生子は優良種の理想には反して居る點が無いのである。唯だ道德政策上に於ては、私生兒の汚名を冠らすことを未萠に救濟する爲めに、法律の改正を必要とするのみである。隨つてこの種の私生子は嫡出子と同樣に、男女道德上に於ては善良なる人格を遺傳して居る。精神的にはその性格趣味、才能をのび〳〵と發揮するの便益を與へられて居る。肉體的には惡疾特に花柳病の遺傳を受けて居ないから、身體は健康である。容貌體格も圓滿である。その家庭は內緣の夫婦であつても、圓滿にして敎育も善良であるから、環境も亦た正しいのである。

(乙)　この場合は獨身の女子が妻のある男子と通じて生んだ子を認知した場合である。これを男子側の方から考へて見れば、妻子のある男子が妾を蓄へるとか或は女中と通ずるとかして生んだ子を、女に意を含めて女の里方の戶籍に屆けた場合である。この場合に於ける私生子は全く父母の獸慾の結果として生まれたので、實に氣の毒千萬な身の上である。私生子其人には何等の罪も無いのであるが、親の不見識な淫行

によつて懷胎した子であるから、縱令父母から物質的に保護され相當以上の學校教育などを授けられても、遺傳上には非常なる不利益の境遇を有し、その環境には父母の不倫なる淫佚の空氣が漂うて居る。殊に妾宅或は母が醜業によつて生活する家庭に於て最も甚だしい。随つて此の種の私生子は人種衛生の上に於ては不良種である。自己又はその子孫が親に似て淫奔に陷り易く、惡人格を承繼する傾向を有して居る。随つて精神的方面に於ては、性格、趣味、才能の賤劣なる者が多く、肉體的方面に於ては圓滿なる容貌體格を有する者が少なく、花柳病其他の惡疾に惱んで居る者が多い。それで斯かる不良の遺傳を受け、不善の環境に育ちながら、その誘惑を免れるには、人一倍の修德に心懸けて、遺傳を變化せしめ、環境に打ち克たねばならない。殊に男女道德に留意して、自分は決して母のやうに人の妾になどは死んでもならぬ道心、又は自分は決して父のやうに妾などは絶對に蓄へぬ大道心を養ひ、必ず人格的戀愛によつて家庭を作り、その淫風駘蕩の中に優良なる子を生み、以て親の罪を贖つて遣るの決心が無ければならぬ。道德政策上に於ては、先づ刑法を以て蓄妾を禁止することが大切である。それから此の種の私生子をその母が他家に養子に遣る場合又は年期奉公に出す場合を嚴重に監督し、又たその孤兒は國家でこれを救濟して、教育を施さなければならない。さうして公娼を廢止し、私娼を撲滅して、此の種の私生子の淪落に陷る環境を廓清しなければならない。

（丙）この場合は獨身の男女が通じて生んだ子を母が單獨に認知しなければならぬ事情に立ち至る場合である。この場合には自ら三個の場合が豫想される。第一は獨身の男子が人格的戀愛を口實として欺いて獨身の女子と通じ、その女子がそれを眞實と心得て男子に愛を注いだに拘はらず、妊娠するか若くは分娩するに及んで、男子はその子に對する義務の負擔を恐れて身を晦ました場合で、母子は父に遺棄された結果となり、その生んだ子が自ら母方の戸籍に入つたのである。此の種の私生子は父の淫亂と母の不明とによつて孕まれたので、頗る不幸な子である。而かも詐稱を以て母の貞操を飛弄して生んで、剩へこれを遺棄した惡德無道人の子であるから實に社會的に非常に不利益なる惡性を享けた子であると謂はなければならない。遺傳の上に於ては最も不良種である。母子の身投は多く斯かる環境に有る者に行はれる現象である。第二は獨身の男女が淫逸獸行を目的として和姦によつて通じて、その女子が妊娠するか若くは分娩するに及んで、男子がその子に對する義務を免れんが爲めに身を晦ました場合で、その子は母方の戸籍に入つて私生子となつたのである。此の種の私生子は全く男女獸行の結果であつて、禽獸の生れたと大差がない。遺傳の上に於ては劣等なる不良種である。母がその子を墮胎するとか、絞殺するとか云ふ犯罪は、多くかゝる環境に住む母子間に行はれる出來事である。第三には獨身の一女子と數人の男子とが淫逸獸行を目的として和姦によつて通じて生んだ子を父の何人であるかを決し難い場合に、母方の戸籍に入つた私生子である。この種の私生子に至つては全く犬猫の生れたと同然であつて、實に不幸なる宿命を與へ

られた者である。この種の私生子は娼妓又は家庭の淫奔なる娘又は未亡人に多いので、遺傳の上には劣等極まる不良種であり、種族の優良性を害すること甚だしいものである。墮胎又は絞殺の犯罪も斯かる環境に住む母子間に行はれる現象である。而して以上三種の私生兒を通じて、その精神的方面に於ては不良少年少女、低能兒、瘋癲白痴の類が多く、酒癖、盜癖、淫奔の性を有して居る。その肉體的方面に於ては、凹滿なる容貌體格を具へた者がなく、陰險にして賤劣である。花柳病其他の惡疾を遺傳された者が最も多い。道德政策上に於ては、先づ國家は此等の私生子を母の手から移して適當なる後見人の手に委ねるか、又は國家の經營する感化院に入れて、特殊教育を施して人格を養成せしめ、一は私生兒自身の向上を圖り、一は社會に惡影響を與へぬ方策を講ぜねばならない。

(丁) この場合は強姦によつて生まれた私生子であるから、說明を要せずして明かである。此種の私生子の惡質であることは論ずる迄もない。國家はこの種の私生子を保護する必要は無い。現在の刑法ではこの種の私生子を母が墮胎しても矢張り刑に罹れるのであるが、是れは現在の刑法が不完全な爲めである。裁判所は必ずこの種の姙娠に對して墮胎の宣告を與へ、相當の處置を取つて遣る制度に改めねばならない。強盜又は敵軍に強姦されて姙娠した場合の如きは、その私生子を自分の子として認知せねばならぬことは非常なる屈辱であり、女子の貞操を破壞することである。社會の風敎を亂し、種族の優良性を害し、國家の存立を危くするものである。

(戊) 棄子としての私生子には、その親が道德又は法律上、立派な一夫一婦の間から生れた場合もあらうし、又は以上の甲、乙、丙、丁の男女關係から生れた場合もあらうが、現在に於ては父母が知れて居ないのであるから、父母の婚姻關係を確定することが出來ない。私生子それ自身が成長した後も自身の父母が知れないのであるから、父母の如何なる男女關係によりて自分が生み出されたかを知る手段が無いので、實に此の世に於て最も憐れむべき私生子である。私生子自身には何等の罪も無いが、父母の罪業によつて斯かる不幸なる社會的境遇に陷り、私生子として特別に待遇されることに成つたのである。故に遺傳の上よりは如何とも定め難いのであるが、その環境に於ては頗る危險なる狀態を有して有る。何となれば、棄子は事實上の孤兒であるから、他人の手に渡る場合には動もすれば誘拐され易く、淪落に陷る環境を有して居る。故に道德政策上に於ては、棄子は國家の信用し得る特志家にその保護を依託するか、若くば國家自ら保護の任に當つて教育を施さなければならない。孤兒院を國家で經營しなければならぬのも、此の意味からである。

五　庶子の遺傳及び環境

庶子と云ふのは、私生子を父が認知した場合の子である、それで母が認知した私生子を更に父が認知した場合と、父の知れない私生子を父だけが認知した場合とあるが、共に庶子である。この庶子の生ずる原因は全く私生子の生ずる原因に、

更に父がこれを認知したと云ふ事柄を加へたまでゝある。實體に於ては依然として私生子である。そこで私生子の場合と同じく、道德上又は法律上適法なる一夫一婦の間に生れた正統の子で無いのである。私生子の(甲)の場合に於ける內緣の夫婦間に生れた子を夫が認知した場合を除くの外は、悉く亂倫汚行の結果として生んだ子であつて、父がこれを子として認知し、親權者となつて公然と保護するだけが異つて居る點である。それで庶子は一夫多妻の社會に多いので、全く家族制度の產物であると云つて適いのである。家族制度の社會は系統を重んずるが爲めに、妻の外に一人若くば數人の妾を置いて副妻と爲し、さうして子を生ませるのであるが、それが後世に至つては女色の機關となり、淫逸の目的からして妾を蓄へるの習慣を生じた。そして妾の腹に生れた子を庶子として公に男子の戶籍に載せて來たので、實に男子の不貞操を社會的に國家的に證據立てゝ居るものである。男子の破廉恥もこゝに至つて極まれりと謂ふべきである。そこで母子より私生子認知の訴があれば、何時でもこれを認知して父とならねばならぬ事情があるから、寧ろ我より進んでこの破廉恥を犯して社會に對して父子の名乘をするか、又はこの名乘をせずに其の子を母方の私生子として葬つて自己の一生を道德人に修飾して世を去るかは、淫蕩なる父と雖も苦悶の存する所であり、老の涙のせきやらぬ所である。終に子の愛にひかれて名譽も恥も捨てゝ自らを一夫多妻の不道德人として、我こそ此の子の父で御座ると言つて、親子地藏の態で國家の戶籍帳簿に登錄して貰ふことになる。さうして其の翌年も登錄して貰ひ、その翌年は一度に二人も三人も登錄して貰はねばならぬ結果になる。斯くして、庶子の制度は父母の性的行爲に關して、一夫多妻的關係を公に立證することになる。一夫一婦の人倫に基いて嫡出子を擧げずに、一夫多妻の亂倫に由つて子を擧げたのであるから、この庶子を私生子と同樣に嫡出子から分離して取扱ふ必要の起きて來るのも、こゝに理由を存するのである。さうして、庶子その人は如何に父に認知されたからと云つても、其の本體は依然として私生子であるから、私生子の場合と同樣に遺傳の上に於ては不良種に屬し、環境に於ては不善性を帶びて居るから、自身は人一倍の修德に志して、父母よりも優秀な人間に進化することを心懸けねばならない。我が國の貴族の子女を敎育する特別機關と稱せられて居る學習院と云ふ學校の生徒間には、この庶子が最も多いと云はれて居るのである。これは遺傳と環境の上から觀れば、種族の極めて劣等にして鄙賤なることを證明したものであり、人種衞生上の大問題である。斯かる一夫多妻と私生子とによつて組織されて居る劣惡極まる社會を奉じて華族と稱し、之れを仰いで閣下を云ひ、之れに跪いて令夫人と云ひ、その子を奉じて公達とかお姬樣とか云つて居る一般國民の無自覺を訝らざるを得ない。

六　結尾

之れを要するに、遺傳と環境と云ふことは、人生に於ける重大なる事柄である。男女道德より之れを考察する時は、父母の男女關係に於ける性的行爲に濫觴するのである。其の結

果として子の種類となり、嫡出子、私生子、庶子の差別を生ずるのであるが、一夫一婦の人格的戀愛に基いて生れた嫡出子が唯一の優良種であり、一夫多妻、一妻多夫の禽獸的性交によつて生れた私生子又は庶子は不良種である。隨つて一夫一婦の人格的戀愛の行はれる家庭は、嫡出子の住む唯一最良の環境であつて、一夫多妻、一妻多夫の禽獸的性交の行はれる巷は、私生子又は庶子の住む不善なる環境である。故に人生に於ては、優良種となり善良なる環境に人と爲ることを理想とするので、不良種となり不善なる環境に人と爲ることは之れを避けんと努めるのである。けれども、遺傳と環境とは親より與へられたる子の世界であるから、自分の功績でも無く、また罪行でも無い、全く道德的責任を負ふて居ないのである。故に生れて之れを知る者もあり、學んで之れを知る者もあり、困んで之れを學ぶ者もある所以で、その之れを知るに及んでは同一な譯である。唯だ困んで之れを學ぶことを怠るのが自己の唯一の罪惡である。何となれば、人生に於ける吾人の人格はその品性陶冶の可能性に於て相近いので、人間の當に行ふべき本務を學ぶことは誰にでも出來るのであるから、この意味に於ては賢愚を通じて差別は無いが、唯だ環境に於ける修養勉强の習慣が却つて賢愚の分る〻源となるからである。故に善良なる環境に住む優良種と雖も、永く不善なる環境に住めば軈て不良種と同價値のものに低落するのである。これに反して不善なる環境に住む不良種と雖も、永く善良なる環境に住めば軈て優良種と同價値の者に向上し得るのである。故に道德政策上に於ては、此等の原理を應用して、優良種をして不善なる環境に陷るの原因を防ぎ、不良種をして不善なる環境より驅つて善良なる環境に往かしむることが肝腎である。斯くして遺傳と環境とは人格者と里仁との形に於て、人類に於ける文明を作爲する搖籃となるのである。吾人は人格の可能性を實現して理想的人格者たるべく努め、夫が爲には常に里仁を選んで生活のユピトアとせねばならぬ。

三行八面鋒

隆之助生

◉白米△△間に二升迄では迚も遣り切れぬと騷動迄も惹起し乍ら一方演藝界の如きは孰れも滿員客止の盛況といふ勝手な熱を吹く社會眞理の極めて諒り難し

◉某日△△某商店の小僧自轉車に跨り怪を露はして科に處せらるといふ借問す藝妓取締規則は健在なり哉若し健在ならば何故に左褄の大道濶歩を見逃す乎

◉近來△△流行の成金熱に浮されてか名譽も地位も一向顧ずに財産結婚を渇望する婦人多しといふ而も其大半が後の祭りに嘆くとは賣淫結婚の末路寧ろ當然

◉運動△△熱益々旺盛となり府下某小學校では新に男女無差別の野球部を設け兩生徒の試合を爲す可しといふ女野球選手の出現は蓋し之が世界の嚆矢ならん

◉折角△△撲滅した淺草の私娼又候頭を擡出して所轄署撲滅に汗ミドロと聞く國家が賣淫を公許する以上は迚も撲滅し得ぬといふ法則を知らぬ處憫笑に價す

犯罪學上より觀たる遺傳と環境

法學博士　大場茂馬

□犯罪原因の類別

境遇は犯罪の橫斷面であり遺傳は犯罪の縱斷面であるかも知れぬが、今日の犯罪學上に於ては、犯罪の原因を遺傳と境遇の二方面より觀察するよりは、個人的原因と社會的原因に二大別する方が、妥當であり便宜である。個人的原因といふのは遺傳性もあるであらうし、境遇から來た習癖もある。社會的原因といふは全く境遇といふ可きものである。今余は茲に犯罪の個人的原因社會的原因を研究して、刑事政策の一端を暗示して見たいと思ふ。

犯罪の原因は之を廣義に解する時は、犯罪の緣由若くば遠因をも包含する。犯罪の原因は之を大別して第一被告人一身即ち個人に存するもの、第二社會若くば其他に存するもの、第三個人及び社會若くば其他の双方に存するものとなる。犯罪の緣由若くば遠因は大別して之を二種とする事が出來る。第一種は道德上認容すべからざるもので、假へば(一)不正の慾(利慾情慾を充たさんと欲し(二)人を害せんと欲し(三)怨恨を報いんと欲し(四)窮乏を充たし窮迫若くば羞恥を免れんと欲するが如きものである。第二種は道德上から寧ろ嘉すべきもので、假へば(一)恩惠を報いんと欲し(二)公益を計らんと欲し(三)友誼又は慈愛を完うせんと欲するが如きものがある。

被告人一身に存する犯罪の原因即ち個人的原因は、個人の性質を習癖と相合して初めて獨立なる犯罪を成するものである。獨り性質の善良でないといふの一事を以て獨立して犯罪の原因となるものではない。假へば性狡猾であるとするも、狡猾であるといふだけで獨立して竊盜詐欺等の原因を成すものではない。狡猾であつて僞を好む者であつて始めて文書僞造、詐欺等の犯罪の原因を爲すものである。此種の原因の主要なるは、(イ)性狡猾にして僞を好む。(ロ)性無賴又は懶怠にして正業を好まぬ。(ハ)性強慾にして不當の利を圖るの癖がある。(ニ)竊盜の習癖がある。(ホ)性虚榮を喜び射倖的の事柄に熱中する癖がある。(ヘ)性殘忍にして人の不幸又は傷害を喜ぶ。(ト)性酒を好み酩酊の上情慾又は誘惑を制し得ない。(チ)性陰險であつて他人の不幸を喜び又は他人の幸福を嫉む癖がある。(リ)性愚にして他人に誘惑せれら易い。(ヌ)性疎放であつて過失を招き易い。(ル)性功名心に富み之が爲め犯罪行爲を爲すを意とせぬ癖がある。(ヲ)意思薄弱で誘惑

を制する事が出來ぬ。(ワ)身神未だ充分に發達せぬ(カ)心身の耗弱等である。

社會又は他人に存する犯罪の原因は大別して三つとする。第一は生計資料の窮乏であつて、(イ)家族多く又は係累があつて正業を以て生計を支ふるに足らぬ。(ロ)正業を得ず又は之を失ひ又は勞働力不充分であつて正業を以て生計の資料を得るに足らぬ。(ハ)水火震災其他の災害に因り生計の資料に窮乏する。(ニ)刑餘の不信用の爲め正業を得ない等である。第二は他人の挑發誘惑に因り又は恩愛を全うする爲め犯罪を誘致するのであつて、(イ)他人の爲めに非常に憤怒せしめらる。(ロ)他人の詭計に依り誘惑せらる。(ハ)恩義愛情等に因り強制せらるゝ等である。第三は社會關係の不適當であつて、(イ)浮浪無職の徒の間に生長して交友悉く不良。(ロ)刑餘の不信用に基き前に存するもの三百六十八人卽ち五一・〇七%であつた。今之を細かく表にして示せば次の如くである。

罪名	個人的原因	社會的其他	個人的社會的他の双方に存するもの	合計
竊盜	九五	二五	二五一	三七一
強盜	四〇	一二	五七	一〇九
放火	三三	三三	二	六八
詐欺取財等	二六	一	三〇	五七
殺人	二三	一二	二	三七
賭博	二五	—	一〇	三五
文書僞造等	二四	二	四	三〇
傷害	六	一	六	一三
贓物に關する	四	一	四	九
公務執行妨害	二	—	二	四
猥褻	二	—	—	二
計	二八〇	八七	三六八	七三五
百分比例	三八・一〇	一一・八三	五一・〇七	一〇〇・〇〇

此の統計の結果は犯罪の大多數の發生に就いては、獨り犯科者の外交際する者がない等である。

個人的犯罪原因と社會若くば他人に存する犯罪原因と相俟つて成る處の原因に至つては、其分類の數百二十一に達する。

□犯罪原因の内容研究

余の調査したる囚人七百三十五人は、犯罪の原因個人に存するもの二百八十人卽三八・一〇%で、社會又は其他に存するもの八十七人卽ち一一・八三%で、個人社會其他の双方罪者のみに責を歸すべきものでなくて、社會も亦其責を分なければならぬ。從つて犯罪を鎭滅若くば防壓するの策は、獨り犯罪者に刑罰を科するを以て充分なりとせず、別に相當の方策を講ぜなくてはならぬ所以の一端を示すものである。更に歩を進めて犯罪原因の内容に就て觀察して見やう、

犯罪原因	竊盜	強盜	放火	詐欺取財等	賭博	文書僞造	殺人	猥褻等	傷害	贓物ニ關スル	公務妨害	計
無頼又ハ懶惰ニテ正業ヲ好マズ	六〇	二四	五	一五	二五	四	—	—	—	—	—	一三二
意志薄弱ニシテ誘惑ヲ制シ得ズ	一七	三	七	—	—	—	五	二	二	—	—	三六

剛慾ニシテ不當ノ利ヲ圖ル癖アリ	狡猾ニシテ僞ヲ好ム	酒ヲ好ミ酩酊シテハ情慾又ハ誘惑ヲ制シ得ズ	粗暴ニシテ怒リ易シ	身心未ダ充分發達セズ	功名心ニ富ミ犯罪ヲ意トセザル癖	盜癖アリ	愚ニシテ誘惑サレ易シ	虛榮ヲ貪ビ射倖的ノニ熱中ス	陰險ニシテ人ノ不幸傷害ヲ好ム	疎放ニシテ過失シ易シ	陰險ニシテ人ノ不幸ヲ好ミ幸福ヲ嫉ム	身神耗弱	其他	計
二	一	三	—	—	—	八	三	一	—	—	—	—	—	九五
四	三	二	—	一	—	—	—	一	一	一	—	—	—	四〇
一	—	二	一	八	—	—	二	—	一	一	—	二	三	三三
六	—	—	—	—	七	—	—	—	—	—	—	—	—	二六
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二五
五	一〇	—	—	—	—	—	—	二	—	—	三	—	—	二四
—	—	三	四	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	一三
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二
—	—	三	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	六
—	二	—	—	—	二	—	—	—	—	—	—	—	—	四
—	—	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二
一八	一六	一五	一五	九	九	八	五	四	三	三	三	二	三	二八〇

個人的犯罪原因二百八十中最も多數を占むるは「性無賴」又は「懶怠にして正業を好まぬ」者で四六、七九%に當る。之に次ぐは「意志薄弱にして誘惑を制し得ぬ」者で一二、八二%になる。

□社會的犯罪原因の内容

社會若くば他人に存する犯罪の原因は、囚人七百三十五人中に於て八十七人を算するに止まるのであるから、格別多數であるといふ譯でもない樣であるが、此數たるや犯罪の原因は犯罪者自身に存せずして、專ら社會若くば他人に存するといふ事を觀察し來るならば、寧ろ其數の大なるに驚かざるを得ぬであらう。何となれば此犯罪の發生に就ては犯罪者に責あるではなくて、專ら社會の責に歸すべきものだからである。

社會若くば其他に存ずる犯罪原因中、最も多數なるは第一生計資料の窮乏である。此原因は全數八十七に對して合計四十を算してゐる。之に次ぐものは「他人の挑發誘惑に因り又は恩愛を全うする爲め犯罪を誘致」したもので、合計三十四である。第三は「社會關係の不適當」であつて十三を數ふ。之が統計を掲ぐれば次の如くである。

	生活資料ノ缺乏			
	家族係累多ク家計ヲ支ヘ得ズ	無職失業又ハ勞働力不充分	水火災害其他ニ因ル窮乏	刑餘不信用ノ爲正業ヲ得ズ
竊盜	一六	二	—	五
放火	三	—	—	—
強盜	八	—	—	二
殺人	—	—	—	—
文書僞造	二	—	—	—
詐欺取財	一	—	—	—
贓物關係	一	—	—	—
傷害	—	—	—	—
賭博	—	—	—	—
猥褻	—	—	—	—
執行妨害	—	—	—	—
計	三一	二	—	七

計	他人ノ挑發若クハ誘惑ニ因リ又ハ恩義愛情ヲ全ウスル爲ニ			社會關係不適當			合計
	他人ノ爲激怒セシメラル	詭計ニ誘惑セラル又恩愛ニ强制サル	計	浮浪無職ノ徒ノ間ニ成長シ交友不良	刑餘不信前科者ノ外交際スル者ナシ	計	
二三	―	一	一	一〇	一	一一	三五
三	二九	―	二九	―	―	―	三二
一〇	―	―	―	二	―	二	一二
―	三	―	三	―	―	―	三
二	―	―	―	―	―	―	二
一	―	―	―	―	―	―	一
一	―	―	―	―	―	―	一
―	一	―	一	―	―	―	一
―	―	―	―	―	―	―	―
―	―	―	―	―	―	―	―
―	―	―	―	―	―	―	―
四〇	三三	一	三四	一二	一	一三	八七

右の内第二の三十四は頗る多い様であるが、其内二十は放火であり十二は殺人である。放火殺人等の犯罪は通常刑期は長期に亘るものであるから、他の囚人が十數回入り替る長年月間依然として監獄に留まる爲め、統計には多數を現はすのであるが、實數は至つて僅少である。而して此他人の誘發に因り又は恩愛に基く犯罪原因は、一時的のもので永續的のものでないから累犯の原因となる事稀であるが、生計資料の窮乏に基く原因は、其數に於て大なるのみならず、永續的であつて常に循環して犯罪の原因となるものであるから、刑事政策上及び社會政策上最も注意すべきものである。社會關係の不適當も決して前者に讓らざる重要なる犯罪原因である。

□個人社會相關の犯罪內容

被告人一身及び社會若くば其他の双方に存する原因に基く犯罪の數が、全數七百三十五に對し三百六十八卽ち過半に當る事は見逃すべからざる重要なる問題である。

現今の犯罪數中累犯者就中竊盜の累犯者甚だ多きことは顯著なる事實であるか、之に對する說明區々にして、或者は刑罰の效力を疑つた。或者は監獄の效力を疑つた。甚しきに至つては監獄は犯罪者養成の高等學校であるとした。又ゾチオロギッシエ學派の如きは、累犯の原因を以て犯罪者の非社會的性格犯罪的性質にありとし、從つて刑罰は之に依つて定むべきものであると、盛んに保護刑若くば目的刑を皷吹した。然るに累犯の原因に對し明確なる解答を與へ且つ救濟策を敎ゆるは次の統計であると思ふ。

社會的原因 ＼ 個人的原因	狡猾ニシテ僞ヲ好ム	無頼又ハ懶怠ニシテ正業ヲ好マズ	竊盜ノ習癖アル者
家族累多ク家計支ヘ得ズ	六	七	八
無職失業又ハ勞働力不充分	一	五	六
火水震其他災害ニヨル窮乏	一	―	四
刑餘不信用ニテ正業ヲ得ズ	二三	八三	五八
他人ノ爲激怒セシメラル	―	一	―
詭計ニ因リテ誘惑セラル	一	―	―
浮浪ノ徒間ニ育チ交友不良	五	一〇	二五
刑餘不信ニテ前科者ノ交際	八	六	三七
合計	四五	一一二	一三八

虛榮ヲ貴ビ射倖事ニ熱中スル癖	粗暴ニシテ怒リ易シ	慘酷ニシテ人ノ不幸傷害ヲ好ム	酒ヲ好ミ情慾又ハ誘惑ヲ制シ得ズ	陰險ニシテ人ノ不幸ヲ喜ビ幸福ヲ嫉ム	愚ニシテ他人ニ誘惑サレ易シ	疎放ニシテ過失ヲ招キ易シ	功名心ニ富ミ犯罪ヲ意トセズ	意志薄弱ニシテ誘惑ヲ制スル能ハズ	心身未ダ充分ニ發達セズ	心身耗弱	計
一	—	一	二	一	一	—	一〇	—	—	一	三八
二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一四
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	五
—	—	一	八	—	一	—	七	三	—	—	一八四
—	一	—	—	一	二	—	一	二	一	一	一〇
—	—	一	—	—	—	一	—	—	—	—	三
一	—	三	一	—	—	三	—	三	—	—	五二
一	—	一	二	—	一	六	—	—	—	—	六三
五	一	七	一三	二	五	一〇	一八	八	一	二	三六八

茲に注意すべきは本表記載の合計の三百六十八は、犯罪者に存する原因（個人的原因）と社會其他に存する原因（社會的原因）と兩々相俟つて犯罪を爲すに至つた數であつて、獨り個人的原因のみにては犯罪を發現するに至らざると同時に又獨り社會的原因のみにても犯罪をなすに至らぬ事である。

社會的原因中最も勢力を逞うするは刑餘の不信用の爲め生業を得ざるに因る生活資料の窮乏である。此原因に基く犯罪數は全數三百六十八中に於て百八十四即ち正半數に當つて居る程である。其他の原因に基く生活資料の窮乏に因る犯罪數は、第一段の三十九第二段の十四第三段の五を合算するときは二百四十二となる。即ち生計資料の窮乏に基く犯罪原因は全數の約三分の二に當るのである。渴しても盜泉の水を飮まずとは、之を聖人に望むべく之を常人に望む事は出來ない。生活資料の窮乏に原因する犯罪は之を憎む可からずして寧ろ憐むべきものである。

刑餘の不信用の結果正業を得ざるに基く生計資料の窮乏に原因する犯罪數百八十四と、刑餘の不信用に基き前科者の外交際するものなきに原因する犯罪數六十二とを合計するときは二百四十六となる。即ち全數三百六十八に對し優に三分の二を超えてゐる。此の二百四十六の犯罪數は刑餘の不信用なる社會的原因の加はるので、始めて犯罪を爲すに至つたものである。換言すれば犯罪の個人的原因のみに存するに止まる時は、犯罪を發現するに至らないが、刑餘の不信用なる社會的原因が加はつて始めて犯罪を爲すに至るものである。此犯罪に就ては個人的原因の點は犯罪者に責ある事勿論であるが、國家も亦此社會的原因を除去せなかつた點に於て其責を分たなければならぬ。即ち現今に於ける累犯者の多き理由は刑の惡いのでも監獄制度の惡いのでもなく、國家が刑餘の不信用なる原因を鎭滅若くば減少する事の不充分なりしに基くのであつて、國家はよろしく個人の慈善事業なる出獄人保護に滿足する事なく、國家自ら保護院を設置しなくてはならないと思ふ。

黴毒の遺傳と其病兒の運命

醫學博士　岡村龍彦

□黴毒を亡國病と稱する所以

凡そ花柳病と稱せらるゝものは黴毒、下疳、淋病等の三種であつて、何れも怖るべく忌む可き傳染病であるが、其中最も甚しきものは黴毒である。其他の花柳病卽ち軟性下疳は全く局部の疾患であつて、之れを黴毒に比すれば其危害は極めて輕いものである。又淋疾も局部的に發し其附近の部分には害毒を波及するけれども、黴毒のそれの如く全身を冒すやうな事は寧ろ稀有であつて、固より家庭に及ぼす害毒は怖る可きてはあるが、之れが子孫に遺傳するやうなことは決して無いのである。然るに獨り黴毒にあつては其傳染した初から、黴菌が淋巴腺を通じて血液中に入つて頭から足の爪の先に至る迄、全身に渉つて限なく病毒が蔓延して其害毒を逞うするのは謂ふまでもないが、更に其子供に迄も病毒を傳へて累を無辜の子孫に貽す處の最も怖る可き傳染病なのである。今此の黴毒の怖る可き病毒危險の要點を擧げて見れば左の如くである。

一、一個人に及ぼす害毒であつて、卽ち患者自身の受くる危害である。

二、夫婦間に傳染して家庭を蹂躙するに至ること

三、遺傳の結果其の間に生るゝ子供は驚くべき死亡率を出す事であつて、卽ち延いて子孫に其病毒を胎すに至ること

四、黴毒に罹つた患者は其の體質が著しく破壞せられて遂に之が爲め其の民族の頽廢を來たさしむるに至ることであつて、是れ今日黴毒を指して亡國病と呼ぶ所以である。

茲には此の怖る可き黴毒の危害中、特に最も悲慘なる而して殘酷なる遺傳黴毒に就て、其の小兒に及ぼす危險の如何なるものであるかを述べ樣と思ふ。

□病毒と病兒の[illegible]

黴毒の遺傳とは卽ち親の病毒が其の小供に傳はるといふ事を稱するのであるが、今日我々が學問上より觀れば遺傳といふ事に就ては、却々六ケ敷い議論の存する處である。其れは別問題として畢竟此の遺傳黴毒といふのは、病氣に罹つて居る母の胎內に十ケ月間宿つて居る胎兒が、其の間の血液の循環に依つて何時か母の血液中にある病毒、卽ち黴菌を傳染するに至るのである。だから實際に云ふと眞正の遺傳では無くと、所詮は胎內傳染なのである。故に我々は所謂遺傳黴毒のことを今日では先天黴毒卽ち生れる前より持つて居る黴毒と稱へて居るやうな譯である。

普通の場合にあつて黴毒の感染には必ず侵入門と稱する黴菌の傳染した場所がある。即ち黴菌が外部から皮膚の傷のある處に侵入して、其の局部に病狀（硬物）を起すのであつて、之れを第一期黴毒と稱して居る。それから漸次淋巴管や血管中に傳布して全身に播まるのであつて之れを第二期といふ。然るに遺傳黴毒の場合には病毒を有して居る母の血液中の黴菌が、直接に胎兒の血液全體に蔓延するのであるから、全身忽ちに其の病毒に付さるのであるから、從つて其の危害の甚だ猛烈なるのは當然なことであらねばならぬ。殊に普通の黴毒感染にあつては、先づ健康なる人が一局部から其の病毒を傳へて徐々に擴まるのであるが、之れに反して胎兒にあつては未だ充分に總ての器官が發はぬ間に病毒を受けるのであつて、而かも其の病毒を有する母の體内に長らく（尤も傳染の時期に多少の長短はあるが）留まる間、常に母より受ける滋養物中には病毒が含まれて居るのであるから、畢竟毒を以つて養はれて居るやうなものであつて、如斯胎兒が如何して完全に發育し得らるゝ事が出來やうか。蓋し發育し得ぬことは當然と謂はねばならぬ。又大人の黴毒では内臟とか骨とか神經などを冐すのは、第三期の症候と云つて長い年月其の治療を放棄して居たが爲めに遂に重症に陷るのであるけれども、小兒の場合にあつては前述の如く病毒が血液に依つて直ちに全身に蔓延するのであるから、其の最初からして既に内臟や肉や神經等の極めて大切なる器官を冐され極めて重症に陷つて居るものと謂はねばならぬ。斯樣に母の血液に病毒を有するが爲めに、之れに依つて養はるゝ胎兒は固より完全にして且つ圓滿なる發育を遂げる事は出來やう筈はないから、二三ヶ月目に流產さるか、又は五六ヶ月目に死產か、八九ヶ月目に早產を觀るか、何れにしても病毒に冐されて完全なる發育が行はれぬのである。たとひ規定の月滿ちて生れた小兒であつても誕生後直に死亡することが多く、よく死亡せざる者ありと雖も其の體質は痲弱であつて種々の黴毒症狀が發し永い間の治療を要するのであつて、生命は助かるにせよ容易な事ではない。

□生後一年内の死亡は殆ど遺傳黴毒

元より斯くの如き小兒の死亡率や病狀の輕重は、其母の疾病の輕重に依るのは勿論であるけれども、孰れにしても黴毒を有する母の姙娠は其の大多數は、不幸なる結果を來す事は是れを統計上に就て見るも實に明白なる事實なのである今玆に一二の統計を掲げんに

フルニエー氏	五〇〇、	一、一二七、	二三〇、	二四五、
コント氏	二〇〇、	一、一五六、	三七六、	三九六、

といふ割合を示して居る。又スプリンツ氏の調査に就て觀るも、千二百卌四人の黴毒性婦人が四千百七十五回の姙娠に於ける結果を觀ると、流產、死產、分娩後直に死亡した數を合算して二千百七十一回といふ、丁度五二％の死亡率に當つて居るやうな割合である。又黴毒に依る流產のみの場合に就いて觀るも、多數學者の統計は相一致はして居ないけれども、大抵一般の流產中の八三、五乃至二〇％は黴毒を有するといふやうな割合を示して居るから、先づ平均四五％位に達して居ると見る事が出來る。次に早產であるが、之は六七ヶ月目頃に生れるのであるが、其内六ヶ月以前の胎兒は悉く死して居るか、或は分娩と同時に死亡する。又七八ヶ月以後に生れた小兒でも生活力が非常に弱つて居て、生存するのは極めて稀である。カソウヰッツ氏の統計に依ると、百廿七回の早產兒中、百二回即ち五分の四は死んで居るといふ位である。更に是より月が進むで成熟した黴毒性哺乳兒に於ても、其の死亡率は頗る多いのであつて、優に他の疾病の死亡率に三倍すると云ふ位である。殊に生後一ヶ年以内に於ける死亡率は著しいものがある。即ち約七二％は其間に死亡する割合であつて、固より此原因には保養狀態に依つて著しき差別がないではないが、大部分は矢張黴毒の致す處であると見られる

のである。而して其一ケ年間中に於て生後幾月目位が多いかといふに、最初の一ケ月内が殊に多く、黴毒哺乳兒の三四%は生後一ケ月内に死亡すると云つてゐる。之れは勿論月日を經つに從つて死亡率の減少を觀るのは當然である。といふのは其間に相應の治療を施す事が出來るからであつて、一ケ年後に至れば次第に死亡數を減ずることになり、更に年齡を重ねる程、小兒の生育は一般に良好となることは疑なき事實である。

□黴毒を輕視する理由と其事實

是より一家族間にあつて黴毒の其小兒に及ぼす危害が如何に永い年月の間、繼續す可きものであるかに就て述べて見たいと思ふ。元來黴毒といふ疾患は慢性であつて、且つ非常に永く潜伏する處の始末に了へぬ疾患なのである。されば其の患者に太く之れを怖れ早速相當の治療を施さればならぬのであるが、其慢性にして且つ極めて頑固なると、病毒の潜伏期中にあつては身體に何等の異狀を呈さない所から、遂々之れを等閑に附して了ふ者が多いのである。當初感染した後二三ケ月間辛棒して十分治療すると全治するのであるが、此の時期を逸して了ふと却々治療し難くなつて、一年以上も又は三年もかゝる事となるので、尚更ら患者は辛棒が出來なくなる。而して再發でもすると一寸治療するが直にそれが治ると亦之れを放棄する樣な有樣であるから、一見恰も全治したかの如く心得て居る。けれどもそれは大なる誤りであつて病毒は體內に潜伏し、十年廿年乃至卅年も何等身體に異常を現はす事なしに健康の狀を呈して居るのであるが、遂には卒然或る時期に至つて內臟や腦や神經等を冒して非常なる危險狀態に陷つて了ふ場合がある。若し然うなつたら最早殆んど治療の見込はないのである。殊に婦人に有ては男子と違つて黴毒の病狀が外部に露はれぬ事が多いから、病毒が潜伏して居る場合が往々ある。それは其者の血液を調べて見ると、毒のある事を直に判定することが出來るのである。而して此樣な婦人は自分が感染したのを少しも知らずに居る事があるから、治療などは無論施さない。從つて流産をする。又黴毒を遺傳した小供を生み、其兒は死亡し或は治療に依つて漸く救かるのもあるが、之等の例は吾々が日常見る所であつて、小兒の病氣を見て始て其母が黴毒に罹つて居るといふことを見出す事が多いのである。

□親の罪過が子に報ゆる悲哀

黴毒性婦人つ病毒は前記の如く、十年或は廿年間も永く潜伏して存在してゐる。因より多くの場合此の遺傳力は年月と共に減弱して行くものではあるが、而かも全治するのではないから、其遺傳力も又全く消失するといふ譯には行かない。故に其間に生れた小兒は何れも病毒を受くる事を免れないのである。即ちリベモント、デッセイネ氏の報告を觀ると、或一夫婦があつた。其夫が或時病毒を感染して治療せずに其儘放棄して了つた。すると之に感染した其婦は十九回の妊娠中初めから五人目迄は死兒を産み、後の十四回は生後六ケ月以內に死んだ病兒を産むだといふことである。實に之れに依つて觀るも遺傳が廿年の永きに渉つて居る事が明かに知れる。其他にも多くの例がある。タビス氏の例の如きは十九回の分娩に於て、其の內の十五回は死兒であつたといふ。又ジュリヤン氏の例に就て見るも廿回の分娩に於て十七回は死んでゐる。其他八人も十人も生れた小兒が皆死んでゐる例も却々多いのである。是に依て如何に黴毒が小兒に對する致死的資料たるかゞ判らうと思ふ。親の爲した罪の爲めに其小兒が皆暗から暗へ葬られるといふ事は何たる悲慘な事であらうか。

然らば幸にして分娩後生存し得られたとしても、其黴毒性小兒の運命は果して如何と謂ふに亦多くは一二ケ月中に種々の病的症狀を發生するものである。即ち月滿ちて生れた小兒の一般狀態を見ると、發育極めて惡く而かも貧血であ

つて見るから如何にも衰弱の狀を現はし、體量は少く筋肉羸瘦して皮膚は光澤を失せ、其色は黄土色、又は蒼白で加も軟く薄くて、皺襞が多く爪などは脆く彎曲して頭髮、眉毛、睫毛等も稀粗であつて處々落脱して居る。顏面は皮膚弛みて脂肪に乏しいから皺襞が多いので一見老人の如く、又猿の如き容貌のものもある。要するにそれ等は一般に強度の萎縮狀態を現はして居るので縱ひ正規の姙娠期を經過した者と雖も早產兒の如くに見えるのである。而して呼吸は嗄れて底力がなく、哺乳の場合にあつても永く續ける事が出來ないから、屢々口を開いたまゝ休止しては又始めるといふ狀態であつて、鼻を見ると結痂で詰つて居るから呼吸が充分出來ない。從つてヅウ〳〵音がするのであるが、之れは黴毒性鼻加答兒があるからであつて、それが進むと遂に粘膜より漸次鼻骨が冒されて鼻頭が恰も潰れたやうに滅込むで畸形を呈し所謂鞍鼻となるのである。此鞍鼻は先天黴毒の小兒に甚だ多い。諸君が若し大人に於て此の畸形の鼻を觀たならば、其人自身が犯した罪ではなく、其親から遺傳されたが爲めてある事を察して、其畸形を嗤ふことなく却つて同情す可きことだらうと思ふ。

□晩發性遺傳黴毒の症狀

其他種々の發疹が小兒の皮膚に現はれる。即ち紅き斑點もあれば水疱もあり又膿を有する處の小疹もある。殊に手掌や足蹠等の色が全く赤紫色に變じて裂罅を呈するのもある。それから又内臟も冒されて居ることが多くあるので、脾臟や肝臟等が著しく大きくなつて居る。又腕や脛の骨等が部分的に腫れて太くなつて居る事もあり、或は其の關節を犯さるゝが爲め片腕や片脚が痳痺してブラ〳〵になつてゐる事もあるし頭の骨の形が變つて頭の鉢が非常に開いて居たり、或は其の處々に骨瘤が現はれて突起してゐる者もあり、或は前額の骨が著しく突出して恰も俗にいふ福助のやうな格好になるものもある。

其他全身の器官に種々様々の症狀を起すのであるが、兎に角之れを治療すれば大抵は治るけれども治療が不十分なれば全治はせない。尚全治せないで尚病毒が潜伏して居ると、之が四五歳迄に再發して又復種々なる症狀を現はすのである。殊に十五六才乃至廿才位の極めて發育の旺盛なる春期發動期の時代にあつては、其身體の生理的の變り目であるから其時代に病症が發現して來ることが頗る多い。中には哺乳兒の頃には何等の異常がなく、頗る順調に發育し乍ら、十五六才の頃に至つて俄然異つた病的症狀を發する事もある。我々は之れを稱して晩發性遺傳黴毒といふ。今其の重なる症狀を列記すると

(イ)多くは眼が惡くなる、之れは初め眼球に白い極めて微細な星が出來て、それが時を經るに從つて除々に眼球を掩ひ、遂には全く白く曇つて了ふといふ視力障碍が起るのであるが、捨てゝ置けば遂に兩眼に及び間質性角膜炎といつて失明に陷る事がある。然し此症狀は大人の普通の黴毒には極めて少なく、大抵は晩發性遺傳黴毒に特有のものである云つても良い。統計に徵して見るも遺傳は黴毒患者二百十二中八十二回も此眼疾のものがある。

(ロ)齒の障碍も亦頗る多い。之れは前齒の上方二枚の者が、其の邊緣がギザ〳〵に缺蝕して形體が宛然半月狀となり、其の他の齒にも種々變つた格好があつて、一般に齒が小さく細く加之に短くて薄いものがあつたりするのも病毒の爲めの發育不充分が原因なのである。

(ニ)耳の聽覺の障碍の方面が起る、之れは他のそれより障碍が稀れてある。其れ先づ耳の中がガン〳〵と鳴つて二三ヶ月の間に俄に聾になつて了ひ、其れに引續いて物が言へなくなつて啞となるのであるが、之れは神經中樞が冒さるゝが爲めであつて、從來殆ど治つた事はないといふ怖ろしい症狀である。

（ホ）其他青年期に多いのは骨に種々な障碍が來すことである。第一骨の腐る事もあるし、又は骨が肥大し骨に瘤が出來たり、太くなつて曲つたりするのであるが、之は頭蓋骨や顔面の骨に現はれる。就中腕や脛の骨に最も此症狀が多く發する。脛骨に現はれると丁度洋刀の如き格好に曲つて一部分は非常に肥太し棍棒の狀になつて了ふ。

殊に前述の如く額骨に瘤が出來たり、それが非常に肥厚すると畸怪の形を成して怪物の樣な有樣になるものもある。元來骨の腐るゝのは上顎などに多いのであつて、腐蝕し穿孔して鼻との境界が脱れるから、食物が鼻孔から出るといふやうな事になる。又或は鼻骨が腐蝕して脱落し所謂鼻が落ると云ふのであつて、たとひ治つても鞍鼻となつて俗にいふ狗鼻の如な畸形になつたりする。又顔面の骨の發育が不完全の爲め顔が偏頗に發育して歪んでゐるのもあるし、三ッ唇などゝいふ不具に陷つたりするものもある。其他永い間に皮膚や筋肉の處々へ腫物が生じて、それが膿潰することも多くある。

遺傳黴毒兒に於ける腦や神經の障碍は、又非常に怖るべきものがあつて、之れが結果は其精神の發育に大なる影響を及ぼし、從つて智識能力等に異常を起すに至つて遂に癈人たる悲慘な人生を得て終るものが多い。先づ低能或は之れが強度となつた白痴に就て觀るに、統計上に現はれた處に據れば、白痴九百二十四人中其の百七十二人、即ち一八、六%は遺傳黴毒の爲めである。癲癇も亦四乃至七%は矢張遺傳黴毒に原因がある。其他小兒麻痺は百人中七〇%に當つて居るし、腦水腫は二〇%といふ割合に當るが皆其の原因は黴毒である。而已ならず遺傳黴毒兒は其一般發育か不完全のため、青年に至るも小兒のそれの如き體質を有して居る者がある。之を小兒態（ファンチクスムス）と稱するのであつて、啻に其精神能力が小兒の狀態にあるのみならず、其名の如く體格が亦極めて矮小で筋肉の發育が不完全なる上へに身長も甚だ低く、頭が非常に小さかつたり年頃になつても生殖器の發育が又不充分で、頭髮や眉等は疎薄で腋下や其他の生ゆ可き場所に發毛しなかつたりする。此樣な小兒態の者は廿才でも殆ど十二三才位の小兒の如き者がある。ホヽチンゲル氏の統計に依ると黴毒を有する父母から生れた遺傳黴毒兒の五十三人中に廿八人は小兒態であつたといふ事である。

□黴毒を怖れざる民族は遂に滅亡す

以上述べた處に依つて其害毒の主なる點は概ね列擧したのであるが、其他に又種々態々なる症狀があつて全身各種の器官に及ぼす障害等も到底短時間に述べる事の出來ないほど多多あり且つ復雜を極めて居るのであつて、如何に其の害毒の怖る可きものかゞ、之れに依つて略ぼ察し得らるゝ事と思ふ。乃ち胎兒を殺す事の非常に多き事、又假に助かるとしても其多くは病弱であつて發育不完全に陷り、遂に體質上又は精神上の内外が共に不能力者となり、癈人となるに至るといふ實に寒心す可き殘酷なる疾病である。此故に黴毒なる疾病は啻に風敎上將た又人道上極めて嫌む可きのみならず、更に其の民族を頽癈せしむる處の極めて危惧すべき國民病であるから、此の人性の弱點を衝いて發生する所の疾病を撲滅し又は其の蔓延の豫防に努むるといふ事は、國民として相互の利益許りでなく、國家としても又極めて重要なる問題である。

酒毒上より觀たる遺傳と環境

醫學博士　片山國嘉

■晩年を禁酒事業のために獻げたいのは一は自己の實際經驗から來てゐる■

人は何事を成したならば、最多くこの世を益することができるかを、充分に考へて一身の方向を定むべきものであらうか、私は大學教授の暇を乞ふた上は、日本に於ける禁酒運動のために、この一身を投じて全國を巡廻したいと志してゐる。法律規則の上から禁酒事業の成功を期するは、言ふまでもなく肝要であるが、今一つ學校教育の上から酒毒の甚しいことを吹込んで、よく理解させる必要があると思ふ。そして能ることならば全國各地に禁酒の申合團體を組織して、小學校の先生をはじめ之れに加入してもらことにいたし、兒童訓育の必要上、斷然禁酒するといふほどに心掛の優つた教師には、その禁酒團體をして、例へば、一代の間保險金を掛けて、其の志に酬ゆるとか、何んとかいふやうな方法も、必らず有効であらうかと思ふ。

私が酒毒の甚しいことを、幼時から理解せしめる必要ありと深く感ずる理由は、種々あれども、既に惡習慣の附つた後に矯正することは困難であるゆゑに、比較的敏感で且つ白紙のやうな頭腦をもつて居る小兒の時に於て、酒毒の恐るべき印象を深く刻みつけて置けば最も有効であると考へるからであるが、此の一事は單に學問上の理窟から見ただけの話ではない。實は自分自身の實驗から來てゐるのである。

私が恰度八歳の時であると思ふ。或時に酒といふものは何んといふ厭なものであらうと、實に痛切に感じたことがある。それは私の故郷で相當の名望あり、平時は人に優りて謹嚴な性質で、大抵の人はその人の前では遠慮するほど、立派な品格の人であるが、それが酒を飲んで醉ひがまわると、すつかり人柄が一變してたわいもない下劣なことを言つたりして、三文の値打もないやうになる。さうすると近所の小兒までが寄つてたかつて、馬鹿にして巫山戯け揶揄から、それでも平氣で面白がつてゐるといふ始末、實にお話にならぬことである。私はこの狀態を見て、幼な心ながらも痛く心を動かされて、酒といふものは飲んで不可いものだと切に感じた。この時の一念が私の一生涯を支配する力があつたと思つてゐる。

次に東京に出て、苦學生といふやうな生活を續けたからして、酒を飲む惡風に誘はれることがあつても、之に抵抗する力も、自然と生じ易い譯であつた。それで幼時の一念を繼續することができた。これなどは一に善い境遇の然らしむる

所とも言ひ得る。さるに此に誤れる學說から餘儀なく、暫らく酒を飮むやうになつたことがある。境遇の力といつてよからうが、恐ろしいものである。每日少しづゝ飮んだのが、僅に一ヶ月半の間に、一升ぐらゐ飮んでも平氣なものであるやうになつた。之は明治十年西南戰爭役後、軍隊の引上げる時に、非常に虎列剌病が流行して、醫師の足りない爲に、私どもも大學在學中であつたけれど、一時選拔されて出張したことがあつたが、其時の說ではアルコールは虎列剌菌を殺す力があるといふので、患者を取扱ふ者は、每日三度の食膳に際して酒を飮んだ。それで私も飮みはじめたのが、さういふ樣に忽ち一升平氣で傾けるやうになつた。然し用務すんで出張先から歸校した時には飮酒を續ける必要はないと思つて、の善き習慣を回復することが容易にできた。最近の經驗を振返ると、私が飮酒しなかつたことが何のくらゐ、わが心身の上に益を與へてゐるか測り知られぬ。

■酒害がいかに遺傳上より將來のわが國民を甚しく惡化するであらうか■

　飮酒の害は、自分一身のみに止まらず、子孫に及ぶことが實に恐るべきてある。子孫の精神上にも身體上にも取返しのつかぬ影響を與へる。何んなやうに酒の害が及ぶかといふと、元來父の細胞と母の細胞とが喰付つて、子といふものができるのであるが、親が酒を飮むと、子は細胞の時に於て、既に傷害をうけて、その爲に細胞が死んだり、又不具になつたりする。その傷けられた不具なる細胞が、胎種となつて子供が產れるのであるから、精神上からいつても健全なもの丶生れる理由がない。又不健全なる親によりてできる胎種が、遺傳上不健全なる小供となつて現はるのは、必然さうなければならぬ道理である。瓜の蔓には瓜が成り、茄子に茄子が成り、瓜の蔓に茄子がならぬといふことは、通俗に常識を以ても判斷できるところで、學問上からいつても、この說は動かないと謂はねばならぬ。酒害によりて、身體の虛弱な小兒ができ、いろ／＼の病にも冒され易いとなると、その次代にできる小兒もまた不健全な虛弱な體質を遺傳される。かくて代々子孫に及べば、いつの間にか不知不識のうちに國民全部の體質を惡化して、病人や虛弱なものを以て充たさるゝ樣になる。體質上のみならず、精神上にも大に影響して、國民の能率を低減し、軍隊の能率などにも大關係あつて、延いては一國の盛衰消長にかゝはるのである。かういふやうに遺傳的の影響するその結果が何人にも計算されるには、時の上に多少の隔たりがあるから、うつかり氣附かずに居ることが多いのである。されど愈々この遺傳上の關係をよく理解してみると、實に誰ても悚然して寒心せざるを得ぬことである。

■酒害の遺傳は連續的大酒家に限らぬ一時的飮酒家でも危險甚しい■

　酒毒の小兒に及ぶことは、必ずしも日夜大酒する人のみに限らぬ。偶々大酒する人、習慣的でない。一時機會的の飮酒ても、その害が子供に及ぶ。連續的に飮む人に限りて害が甚しいやうに考へられるけれども、時々の宴會、正月とかお祭とかいふ時だけ、大酒する場合ても不知不識の間に害が及ぶものである。これを思ふと、さういふ特に大酒するやうな

際には、よく情慾を抑制して、子を出かさぬやう、充分注意すべき筈で、うつかり油斷すると、子孫まで不幸を及ぼし、冥々の間に甚しい惡結果を持ち來たすのである。ところが實際はさういふ、正月とか、御祭とかいふ時には、飲酒の爲に愼みの心が弛んで、情慾にそゝのかされ易い。それ故に特別自らよく注意警戒する必要がある。一時の享樂のために、次代の國民の品質まで惡化することを顧慮しないといふことは、この上もない不德義だと謂はねばならぬ。

かういふ實例は、西洋にては大に注意して、なか〳〵詳細に調査してゐるから、最も明白で殆んど疑ふ餘地がない。その一二を擧げていへば、クリスマスの後には舞踏をやる。そして其の前後には盛んに飲酒することが多い。それ故にクリスマス時分に姙娠して出來た子供には、低能や、白痴や、犯罪人や、いろ〳〵非社會的の人が、統計上多く現はれる。秋の葡萄酒を醸造する時期もやはり然うである。この時期には最も多く酒を飲むから、前にいつたやうな低能、白痴、犯罪人など、非社會的の小兒ができる。それが統計上に表はれるところ微妙なるもので、葡萄の作の好い年と惡い年でも大層相違がある。豐熟の年には必らず非社會的者が多く生れる。

酒害の子孫に及ぶ遺傳上の結果の恐るべきこと、前に陳べたる如くであれば、苟も國家社會のことを眞面目に考へる者にとりては、禁酒問題は決して輕々に看過できることでない。かうした問題につきて相當の理解を有たぬことは、心ある者の大に恥づべきところでなくてはならぬ。

米國の如きは、近年禁酒の精神、益々普く發達して、最早數年を出でずして、全部禁酒國となるに相違ない。いろ〳〵研究調査の結果、之が惡いと決すると、夫が間もなく全國の輿論となつて、競つて實行するやうになる、その旺なる精神には敬服せずに居られぬ。かういふ勢であると、その國民が益々健全に發達して、優良なるものとなるは當然である。各國の民族人種の競爭だん〳〵激烈に赴く時代にありて、その國を組織する個人〳〵の心身の健全如何に萬事勝敗が決するとせば酒害の關係の及ぶところ實に大なりと謂はねばならぬ

それで今日の急務は、若い時分から飲酒の習慣に染まりて、四十五十になつてゐる人は、惡いと知りつゝいろ〳〵勝手な理窟をいふから姑く措いて、先づ小供と婦人とに充分酒害の大なることを理解せしめて、飲酒を豫防するが、最も有効であると思はれる。そして人間三十歳ころまで、立身出世の爲めになりと飲酒の習慣をつけぬとなれば、非常に結構である。その上は分別盛りになるから、大抵繼續することは難くない。

小供の時に酒害の甚しいことを充分徹底的に理解させることの有効なるは、獨り本人の一身に止らず、家庭の風儀までも一變して了ふ例は、決して珍しくない。つい此間もある理髮屋の子供が、酒害の話を聞いて、その父親に對して眞面目に說いた結果、父親が斷然禁酒してしまつたさうである。神戸のある幼稚園でもその先生が、私の談話を聞いたまゝ、幼兒に聽かせたるに、その幼兒は家に歸りて、毎日父に勸めたるに、その結果父親がわが子の誠意に感じて禁酒を斷行するやうになつた。かういふ効果を續々耳にする今日、國民の將來のために、是非奮發して貰へたい。（文責在記者）

精神病學上より觀たる遺傳と環境

醫學士 樫田五郎

一

遺傳と環境との關係に就き、余は醫學殊に精神病學上の見地から之を論じようと思ふ。勿論人類に就いてゞある。遺傳とは親の身體の構造及び、其性質が子孫に傳へられることを云ひ、環境とは個人の周圍の狀態のことであるが、余は玆に便宜上環境の內に敎育をも含まして述べる。

精神病學とは人類の精神障礙と其治療法とを科學的に攻究する學問で、內科學に屬するものである。精神病學で研究すべき對象の人間は、誰れが一見しても精神病者と判る樣な喚叫したり、亂暴したり、變な身振りをする樣なものは勿論、其他、所謂腦病と稱せられて、沈欝したものや、外觀極めて靜かな病者中にも精神病者が甚多い。又神經衰弱、ヒステリー、癲癇、酒精中毒等に罹つて居る人も精神病學で論ずべき人物である。猶此他、世人の多くがまだ氣附かない樣であるが、彼の賣笑婦、犯罪人、不良少年、浮浪者、乞丐等の中にも精神異常者が可なり多い。是亦精神病學で講究する對象の人間である。精神病學は又一面或學者から「精神病學は遺傳を研究する學問である」と迄云はれて居る程で、精神病と遺傳とは極めて密接な關係がある。

二

『氏より育ち』といふことが昔から云はれるが、是は言葉を換へて言へば、人間が發育し向上して行くことに對しては、遺傳の影響よりも寧ろ境遇や敎育の影響の方が大であるといふことを意味して居ると思ふ。果して然ふであらうか。今之を今日迄の學說に照し合して觀るに、遺傳と境遇とに關する學說には丁度正反對の二說がある。卽ち境遇を以て至上なりと論ずる者と、遺傳を以て至上なりと主張するものとである。生物學上より第一說を首唱した學者は佛蘭西のラマルクであつた。今から約百十年前(一八〇八)に、氏は器官の用不用說といふことを唱へ始めて『凡そ生物は外界の變化に伴れて、其身體に異つた作用を起し、それが爲に器官に用不用の別を生じ、其中屢々使用せらるゝものは發達し、使用せられざるものは退化する。斯くて此發達と退化とは遺傳によりて後代へ傳へられ、代を累ぬるに從つて益々其傾向が顯著となる。是が卽ち生物進化の原則である』と云つた。然しこれだけではまだ十分に進化の理由を說明することが出來ぬから、其後五十年(一八五九)を經て英吉利のダーウィンが所謂生存競爭自然陶汰主義と云ふことを唱へ出した。卽ち動植物は日々夜

々時々刻々と生存の爲めに、互に意識的にも無意識的にも競爭して居る。此の生存競爭の結果は（スペンサーが能く言ひ現はした如く）其境遇に適應したものが能く生存して、其境遇に適應せぬものは生存することが出來ず遂に死滅して仕舞ふと、此二説とも生物卽動植物は一代に獲得した形狀と形質との變化を、後代に遺傳するものであると斷定したのは同一である。

然るに之と全く正反對なる學説が現はれた。其説の主張する所は、境遇は生物に對して何等影響を及ぼすものでない、唯生殖物質中の遺傳單位と云ふもの丶みが子孫に傳はるのであるといふ説で、獨逸のワイズマンが實驗及び理論の上から始めて此説を唱へ『親が新に得た所の性質（獲得性）は決して其子供に傳はるものでない』といつた。近年に至つて更に此説を有力ならしめたのは、彼のメンデル式雜種研究の結果である。此派に屬すべき人の中でゴルトンの如きは『天才は不可抗力的に鑿出するもので、惡環境に依りて、之を厭迫することは出來ない』と云つて居るし、又ハックスレーは『遺傳の一唡は敎育の一磅に價する』と謂ひ、ピーヤソンは遺傳を鋼鐵に比し『純粹の鋼鐵でなければ如何に磨くとも眞の光を發揮することが出來ない』などと稱して居る。此等の學説に就ては本誌にも他の專門の方々が述べられることであらうから、茲には略して置くが、要するに此互に正反對なる二説は學理上今日でも尚討論されつゝあつて、まだ全く解決された問題でなく、又其應用方面に關しても遺傳學者、優生學者、人種改良學者等は人類の發達進化に就て遺傳を主とするに反し、社會學者及び社會改良論者等は境遇に重きを置くやうてある。然し之を側面から觀察すれば、進化の事實は今日と雖も誰も異議を挾む者は無いのであるから、只其說明の形式に於て正否の二論に岐れるに過ぎないのである。故に余は理論上のことは且く措き、社會の實際問題に觸たる方面に就て論じようと思ふ。

三

凡そ身體は其構造の外に智能も遺傳されるものである。今一個の人間が形成する順序を觀ると、其初は卵子と精子があつて、此二者が融合して胎原細胞となり、是れが變化し分化して、組織ともなり器官ともなり、胎兒となつて、出產されて嬰兒、小兒、成人となるのであるが、此胎原細胞中に既に個人の後年の種々な素因の源が含まれて居るものである。個人は精子や、卵子や、胎原細胞の時代から成人になるまで、其發育の過程中に種々外界の影響を享けるのは實際生活に徵して明のことで、今假に或親が飮酒家であるとして稽ふるに、其酒精の惡影響が子孫に遺傳するや否やといふに、實驗遺傳學者はそれは遺傳性とはならぬと考へてゐる樣であるが、其結果から謂へば飮酒は親自身の發育に影響を及ぼし、勢ひ生殖力にも波及するから、完全なる子が生れないのを見ると、事實上に於ては遺傳されたのと違ひがない。

又智能の遺傳に就ても「珠磨かざれば光無し」といふ諺の通り、假令ひ優秀なる智能が親から遺傳されたとしても、唯それ丈では更に其效はない。夫れが發育されたり善良なる境遇に哺まれてこそ初めて光輝を發揮するのである。是れは一

個人に就て云つた場合であるが、之を二人の場合に就て論ずれば、甲の遺傳された智能の量と乙の量とは異るもので、人人によつて夫れ〴〵違ふものである。天賦の素因が善良であつても、教育や境遇が惡ければ、遺傳された丈けの十分なる能力を發揮することは出來ない。今天才は別として、普通の天賦を享けた者に就て稽ふるに、天賦を假に上中下の三段に分ちて見るに、上の者でも境遇（教育自己の努力を含む）が惡ければ中ともなり或は下ともなるし、又同樣に中の者が下にもなる。斯の如く境遇は天賦の發揮に對して重要な關係を占めて居る。故に小兒を教育する場合には之を成可く惡い境遇に置いてはならぬ。天賦が優秀なる小兒は、父兄たる者は十分之を善良なる境遇に置いて、全才能を發揮さすやうに努むれば、他日必ず立派な人物となることが出來る。小兒は摸倣性に富み、物事に興味を感ずると忽ち熱中するから、教育に十分留意しなければならぬ。孟母三遷の例も此の故である。前に述べたラマルクの用不用說即ち用ふれば益〻發達するといふ法則は、此場合に於ても復應用されるのである。

啻に普通の小兒許りでなく、白癡と雖も、之れに教育を與へて境遇を改善してやれば或程度迄は智能を發達さすことが出來る。固より智育の方面はあまり效能はないが、勞働、手藝等の如きものを授けて、之に幾分の智育を加味した教養を施せば、十二歳位に相當する智力までは發達して、少しは役立つ人間になる。紐育の小兒救護會では貧民窟、乞丐、浮浪人等の小兒を收容して、之に適當の教育を施して觀た結果は、全體の八割七分が立派な人間となつて、中には知事や總督等の高位に陞つた者もあるといふ位好成績を擧げて居る。元來乞丐や浮浪者等の多くは後に述べる變質者と稱する精神病者であるが環境を善良ならしめて教育を施した結果は其小供に斯くの如き良好なる事實を生じたのである。

四

我々には父母があり、又父母の前には祖父母、あり、又曾祖父母等があつて、人間は皆遠き祖先より享け繼ぎ傳へ行き來つたもので、祖先が有してゐた形質は皆我々に遺傳されてゐる。只其祖先の時代が遠ければ遠い丈けそれ丈、遺傳さる可き形質が稀薄であるといふ丈である。此の普通の生理的なる遺傳とは別物で病的なる加かも其外形は遺傳に似た型を取るものがある。それは變質と稱する現象で、これは祖先の形質が幾世代も傳はり來た間に、其子孫をして其生存を危殆ならしめ或は滅亡に陷らしむる如き現象で、其變質されたる人間を變質者と呼び、彼の犯罪人、賣笑婦、不良少年、乞丐、浮浪者等の如き社會の惡分子は、其大部分が是に屬する者である。併し如何なる人間と雖も全然變質されてないものは無い。だから變質上から觀ると世上の人間には清淨無垢の正常なる健康者は絕無と謂つても差支はないが、唯普通人と稱する者は變質の程度が極めて薄弱で人の目に觸る樣な大なる變化が現はれないのである。變質者中に算へらるゝ者は其程度が甚しいといふ差がある許である。或學者が『多少の差こそあれ世に精神上の病氣を有たないものは無い』と稱したのは首肯されるのである。

啻に精神病許りでなく其他の疾病に就ても全く健康で有と

云ふ人は殆どない。然らば如何なるものが變質を生じ、延いては精神病を起すかと云ふに、其初は矢張り胚種障礙である。兩親の全身狀態を變化さす樣な病氣は、胚種に對しても亦間接或は直接に害を及ぼす、就中酒精及び黴毒は其最も甚しいものである。其結果としては流產、乳兒死亡又は發育制止、白癡等の如きことが生ずる。癲癇も受胎時の酩酊が原因となることが偶々ある。結核、糖尿病、モルヒネ中毒其他凡て身體を虛弱に導く疾病は何れも惡影響を子孫に貽すけれども、酒精や黴毒に比すれば其程度は弱い。次に兩親の虛弱、高齡並に餘りに弱年、年齡の甚敷き相違、累產、受胎時の兩親の過度なる精神激動等の如きも、子に對して精神異常の素因を與へる。以上は胚種に及ぼす影響であるが、胎兒に及ぼす障礙としては母親の感情の變動、境遇の不如意、酒精濫用、其他傳染病、中毒等であつて、出產に屬するもの早產、難產、假死等は皆胎兒や初生兒の腦に或程度の損傷を與へ、後來白癡を生ずる原因となる。

獨逸のモノレルは變質は世代を追ふて益々強くなるもので、其四代までの型は次の如く增惡して行くと云ふて居る。

第一代、神經質、倫理觀念の缺乏、放蕩、
第二代、卒中、重症の神經病、酒精中毒の三者に罹り易き性質、
第三代、精神障礙、自殺、精神作業の不能、
第四代、先天性白癡、畸形、發育制止、

勿論此の型通りに凡てが當て嵌る譯ではないが、大體之と一致して變質の程度は段々強くなるものである。

次に變質者の人格に就て述べんに、變質者は人格を構成すべき各要素が病的である許りでなく、其配合が既に調和を失つてゐるから、外界の刺戟に對する調和も又不齊である。智情意の中で殊に感情が生れ乍らにして病的で、正常でない。

凡そ人間の行爲は意志の發現に外ならないが、實際に於ける日常生活を觀察するに、睿智に依りて是非曲直を十分に辨別して然る後意志を以て行爲に移る場合は勿論多いが、時として感情に支配されて睿智へ訴へず、又睿智の方では十分惡いとか不利益とか知りながら感情に左右されて行爲に移る場合もなか／＼多い。感情は元來調和的作用を營むべきものであるのに、之が病的になつてゐる變質者にあつては、些細な動機が非常に凶異なる行爲を突發さすことが屢々ある。普通人では何でもない刺戟、例へば點燈、室溫、氣候の變動、五官に對する極めて微弱なる刺戟等の刺戟でさへ、變質者に取つては甚しく氣分を害することがある。故なくして家出したり、自殺したり、或は良家の子女であり乍ら自ら好んで賣笑婦の群に投ずるが如き、新聞の三面記事中によく原因不明としてあるもので、其實、變質が原因で不祥なる出來事を起して居る例は頗る多いと思ふ。又變質者中には一面に博愛主義であつて、他の一面は甚しく偏狹利己主義の人間もある。鼠小僧などがそれである。又發明の才能に富んで居ながら日常生活に頗る疎いといふ樣な變質者も居る。此他此の如き性格の矛盾した例を擧げればいくらでもある。併し乍ら變質者と雖も世代を經る間には惡影響を受けるのみではなく、善良なる影響も復輸入して來るのであるから、是に由りて平衡を維

持し社會も繼續して行かれるのである。若し善良なる影響が混入しないのならば、此全世界の人類は夙うの昔に滅亡し了つて居るであらう。何故ならば多少とも變質して居ない人はないからである。

變質者は氣質が異常である許りでなく、身體上にも種々變質徴候と云ふものを表はし、耳が畸形を呈したり、齒が錯雜したり、頭顱が歪んだりして居る。變質の一歩進んだのが精神病（狹義の）で此精神病の種類にも遺傳の關係に依り、色々特殊の型を呈するのであるが專門に亘るから之は略するが、要するに精神病の發生する爲には内因たる遺傳と、外因たる境遇とか相呼應して成熟して發現せらるゝものである。

啐啄同時といふことが云はれるが、即ち雛が生れるには卵殼内の雛は外界に出やうと其中から啐き、牝鷄は生れ出させようと思ふて外から卵殼を啄き、之が同時に行はれて雛が近世に出て來るのだといふが、精神病の遺傳と境遇とに對する關係も丁度之に比すべきものである。内因たる素因と外因たる誘因とが相俟つて發生するのである。

五

精神病者や變質者を減少せしめるには是非とも之を全治せしめなければならぬ。而も精神病は治る病氣である。今日でも精神病は不治と思つて居る人が世上滔々として多い樣に見受けるは、吾々精神病學を專攻するものは常に長嘆息する所で、それと同時に又吾々が社會に對して斯病に關する智識の普及をまだ〳〵怠つて居ると自覺して恒に忸怩として居るのであるが、それは兎も角、今精神病者の運命を看るに、東京府巣鴨病院の明治三十八年から大正四年までの十一箇年統計の平均に徴しても、全治一二・〇パーセント、輕快二三・三パーセント、不治三七・五パーセント、死亡二八・八パーセントとなつて居る。即ち三人の中一人は治癒し、其中でも全治するものは八人に一人の割合となる。獨逸否世界の精神病學の泰斗クレペリンは百人中三十人乃至四十人は全治すると云ふて居り、又獨逸の治癒率の多い精神病院では百人中二十人乃至六十人の治癒者の數を擧げて居る。

凡て精神病者や變質者を全治するなり改良するなりするには、是非とも其境遇を善良ならしむる樣に努力せなければならぬ。だから精神病者は其最善の境遇たる精神病院に入院させなければならない、如何となれば自宅療養の如きは、假令ひ其家が富み且つ出來得る限りの力を盡すとしても、專門の病院に於けるが如き、萬般の設備や、十分なる治療や看護が行き屆かないからである。然るに往々世人は昔日の精神病院時代の不完全な設備や或は梏桎を施したことなどを聞き傳へて、今尚ほさうであらうと想像して甚しく入院を嫌ふ傾向があるのは誠に殘念な次第である。今日の精神病院は決してそんなものではない。最新の醫學によりて唯治療より外のことは爲ないのである。若し梏桎を施したり、不都合のことをすれば直ちに法律の制裁を受けるので、東京では警視廳から地方では行政廳から監督官吏や檢診醫が必要に應じて病院に臨檢するのである。實に今日の施設と其治療法とは非常なる進歩を示し、院内には持續浴、談話室、玉突場、ローンテニス、庭園の散歩等の娛樂機關が設けられて、患者は自由に樂むで

とが出來るが、是等娛樂機關の他、作業療法といふて農作や室內作業を奬勵して、唯呆んやり坐て居ては精神作用が鈍くなるから、それを防ぎ又貧困なる患者には小遣錢の足しになる樣にして居るのである。外國の精神病院の構造の如きは、他の一般病院よりもよりよく構造せられて居て中には宮殿玉樓の美觀を呈するものもある。其敷地も十萬・二十萬・三十萬坪といふ程廣大である。我邦の精神病院は數に於ても僅少であるが、又其規模も甚だ貧弱であつて、官立病院はまだ一つもなく、公立病院の比較的大規模のものは全國に唯一つの東京府巢鴨病院があるだけである。今我邦の狀態を觀るに私立病院の數は三十七院、收容患者數は約五千人で、公立の方は東京府巢鴨病院の四百四十六人の定員の外に小規模なる各地の精神病室の收容定員を合して約千人である。然るに我邦に現在する精神病者の數は十四五萬以上にも達して居るから、十三四萬の多數の患者は收容されない譯である。これは甚だ遺憾千萬なことで、之れが收容の施設を整ふるとは、國家社會の利益から考へて、精神病者の社會的危險性を豫防する點から觀て、社會政策上最も肝要なことである。況して精神病者を保護し、之を治療するのは美はしき人道の上に立つた事業であるに於ては尙更のことである。

不良少年は境遇によりて遷善もすれば惡化もするもので、外國の統計によると、其中の一五パーセントは精神病者で、二五パーセントは精神薄弱者である。卽ち十人の不良少年中四人は精神に異常あるものである。又歐米では人口一千につき〇・二乃至〇・九パーセントの不良少年が居るから、我邦も之と同樣の率とし日本の人口を六千萬とすれば、五萬二千餘人乃至一萬三千人の不良少年が居る譯である。現に警察側で調査した所でも東京市中丈けに一千人の不良少年が居る。不良少年が既に病人である以上は之に治療を加へなければならない。唯之れに强制的の敎育や懲治的の處置を採るだけでは效果は擧らない。精神病學を基礎として其環境を變化さす必要がある。幸ひ目下國立感化院（武藏野病院）の設立中で近く開院の運びに至るさうて、又精神病學も應用するといふことであるが、眞に賀すべきことである。

賣笑婦中にも變質者が多い。殊に親が酒客であつたものに多い。ボーンヘッフェルはブレスラウの賣笑婦百九十人に就いて調査した結果四四・七プロセントの兩親の酒精中毒を證し、又タルノウスカの調査では百五十人の賣淫婦及百人の女盜の中で六十九人は兩親の酒精中毒を證明し、又他の賣淫婦二十九人中其六八プロセントに於て兩親の酒客を證した。又ヂュクダールは一八七四年紐育監獄に於ける六の親族犯罪者の祖先を十八世紀の初期に達する代迄溯りて調査した所、彼等は獵夫或は漁夫であつて酒客であつたことを發見した。其子孫を七代に亘り七百九人を調査し、內百七十四人は賣淫婦で、十八人は妓樓の主婦となり、七十七人は犯罪者となり、內十二人は殺人犯、六十四人は貧民院に收容され、百四十二人は公費扶養を受けた。殊に女性子孫に於ては五〇パーセントの多數は賣淫婦となり（同階級に於ける賣淫婦の數は僅かに一・八パーセント）、五代に於ては殆んど凡ての婦女は賣淫婦となり、男子は犯罪者となつた。卽ち前記總計七百九人の子孫の

三分の一は犯罪者、浮浪者及賣笑婦となるを見たのである。

又賣笑婦自身について調べても、酒客又は其の中毒者が多い。例へば千八百六十三年の紐育の調査報告によると、二千人の賣淫者中、九百九十五人卽ち約半數は高度の飲酒家、六百四十七人は中等度の飲酒家であつた。五百八十一人は確かに飲酒の爲に淫賣婦に墮落したと告白したとのことである。

我國には約卅萬に近き賣笑婦が居て、其社會の風敎を蠹毒し、又多數の青年男子も斯る婦女の爲に身を誤るものが多く識者の甚だ痛嘆する所で、其救濟策に腐心して廓清會の如き、救世軍の如き皆熱心に活動して居るし、片山博士も熱心て既に其救濟意見を發表して、婦女救濟會の如き名稱のものを設けたいと論じて居る。唯此賣笑婦救濟の實行に當つても不良少年の場合と同じく、賣笑婦中には精神異常者が多くあるといふことを念頭に置いて、精神病學的智識を基礎として救濟方法を講じなければ、勞して効少き結果に了りは仕舞いか、私は此點に關して、此美はしき人道的事業に從ふ方々に敢て老婆心を獻げて置きたい。

浮浪者、乞丐の中にも精神病者や變質者が多い。就中矢張り兩親の酒精中毒が多い。ボーンヘッフェルは三五乃至七八パーセントの兩親の酒精中毒を擧げて居る。我邦では浦和監獄の白井典獄が川越分監で少年受刑者二百七十九名を調査して百人中三十七人は浮浪者であつて、他の境遇にあるものと比較して其割合が最多かつた。又小田原分監の大正三年の報告によつても受刑者百人中二十九人は浮浪者である。同分監で大正四年のは百七十人の少年受罰者中六十名は浮浪者である

犯罪者中にも精神病者が多く、獨英の統計では二三乃至五六パーセントとなつて居るが、我邦では大正六年に〇・八九パーセントである。是は一に我邦の統計の不備の致す爲めで、決して我邦の犯罪者に精神異常者が少いのではない。

此の樣に社會の惡分子たるものには精神病者や變質者がなか〳〵多いのであるが、今日の發達した精神病學では、其全部とは云へないが其幾分は、治療して正常の人間に恢復せしめることも出來るし、又治療を加へて境遇を良くすれば之を遷善感化することが出來る。少くとも益々惡い方に陷ることを防ぐことは十分に出來る。此の如くにして社會を改良することが出來るのである。

要するに遺傳と境遇との關係は、之を學理上に於て論ずれば目下論爭中にある問題であつて、未だ其解決が十分着いて居らぬけれども、遺傳學者、社會改良家、爲政家精神病學者等は互に其反對とする議論に耳を傾け、又研究の歩をも進めて、實際社會に對する施設に於て遺憾なきを期し、吾人の次の代に今日よりもよりよき社會を出現さし、人類の幸福を增進さす樣努力すべきものであらうと思ふ。

□中酒性精神病者と稱する中に、嫉妬妄想病といふのがある。慢性酒中毒が其原因となつて荒飲する結果、妻も日毎夜毎に醉つぱらひの機嫌を取る內には、何時しか嫌な顏を見せる事もあるから、之れば必ず情夫の出來た爲めだと猜し、疑の眼を以つて見る。加も其意識が朦朧として居るから、妻が夫の機嫌を何うして取つたらと狼狽するのを見てさへ、裏の木戸が開いてゐるの、生れた男兒が友人に似て居るの抔と、周圍の事情が、一變したやうに思つてゐる。實は自分の頭の中が變化してゐるのであるが、それには氣が附かない。其上是れに幻視幻聽が加はるゝから、妻が仇し男と戯れて居るのが壁の隙間から見えたり、『お前の女房は姦通してゐるぞ』抔と聞えたりして、遂に嫉妬の焔が燃え上つて、眞實誠直なる妻をも殺害したり、所謂情夫と見える男に危害を加ふる樣になるのである(談)

廓清運動と法制（其三）

□□最近米國の趨勢□□

廓清會理事　油谷治郎七

□必要なる害惡より覺む

過ぎにし十年の以前を顧みるに、米國の大都市に於ける遊娼制度に關する政策上の輿論は、概ね之を以て「必要なる害惡」とし、區域を指定し娼家を集めて成るべく內密に業を營ましむるを以て適當なりとしたものである。

サンフランシスコ、シカゴ、フイラデルフイア、ワシントンなどは云ふまでもなく、淸敎徒の都と呼ばるゝボストンに於ても同樣であつた。固より其取締の寬嚴は州に依りて同じからず、又、市政を司るものに依りて異なつてゐた、が、紅燈區域の存在は「好ましからざるも止を得ざるものなり」として敢て怪むものは少かつたのである。輿論は急轉した。本年四月ジョーゼフ　マヤー氏の報告するところに據ると、今や米國に於て十萬以上の人口を有する大都市を含み殆んど二百に近き都市は其紅燈區域を全廢してゐる。乃ち遊廓全廢を實行してゐる。是實に驚くべき變化と云はねばならぬ。而して斯かる進步を來せる原因を察するに一時的感情の激せる結果でもない。又單に米國が軍人保健の目的を以て實施せる昨年五月十八日の陸海軍營所を距る五哩以內の地に娼婦の存在を禁じたる法律より來れるものでもない。精細なる實狀の調査に基ける冷靜なる判斷に出でたるものであつて、陸海軍當局の案出せる法律は寧ろ此大なる潮に乘じたものであつて決して一時的のものではない

□シカゴの十五人組

今少時其先驅たるシカゴの例を叙する千九百七年夏のことである。米國に於て大組織を以て白人娼婦を賣買する中心地のシカゴに於て、一青年檢事が奮然として娼婦賣買シンジケートを告發―彼等の惡むべき內狀を法廷を通じて天下に曝露し、且つ彼等の頭株に蒙らしむるに重き科料と入獄の刑罰を以てした。

青年檢事の擧を賛し、娼婦賣買業者を全く掃蕩し、シカゴ市の廓淸を圖らんとて、市の名望家十五人の續いて起てるあり、「十五人組」なるものを組織した。

シカゴの一大新聞も亦道德的及び財政的の援助を與ふることを約し、一年間每日紙上に於て此問題に關する記事論說を揭げた。輿論は喧しくなつた。千九百十年の初、市內基督敎會の牧師等は聯合して市長に迫り、「賣買せらるゝ性的害惡」の實情を調査する委員を設くることを請

ふたが、同年三月市の有力者のうちより性的害惡調査委員（ヴアイスコムミツシヨン）は任命せられた。調査委員が一年間精到なる調査をなしたる報告は、翌年四月五日を以て公にせられた。委員は皆異口同音、集娼制度の失敗たること、警察權を以て其衞生と風紀を取締るは詐りの保障たることを報告し、絕娼主義は唯一の可能的救治法たることを示してゐる。

□猛烈なる醜業者との戰

十五人組は此報告に基き、翌千九百十二年の夏、新市長を鞭韃して、紅燈區域廓淸の手始として娼家五軒と銘酒屋一軒に閉鎖を命じた。醜業者は狼狽して二週間內に五萬弗の運動費を醵集し、政客と警官の買收につとめ、或は「シカゴ婦人保護團」と稱し自家保護の團體を組織するなど運動瀨に怠らなかつたといふ事であるが、しかし一方には、又善良なる市民の多く起つて十五人組に勢援を與ふるあり、敎壇と文壇は殆んど學つて魔窟掃蕩を叫ぶ聲を高む。兩者の戰鬪は實に激甚を極めた。健全なる輿論を代表せる十五人組は堅壘を陷れつゝ步一步敵陣に迫る、時には醜業者に家を貸し若くば地上權を貸せる家主又は地主の住所姓名を新聞紙上に公表する政策を取つて、側面より魔窟の撲滅を計り。時にはインジヤンクシヨン●エンド●アベートメント法（前々號に示してある）によりて起訴するの手段に出で極て密かに醜業を營むものを告發す。同年十二月には市內を十四區に分ち、各區に支部を設け、探查と政治的活動と敎育的手段とを以て一齊射擊を行ふこと一年。斯くの如く數年奮鬪の後著名なるシカゴの紅燈區域を陷れたるのみでなく、散在する怪しき家の掃蕩に效を奏するに至つた。シカゴは全然廓淸せられたりと稱するに躊躇する。然かれども以前の情態に比して其面目を一新したるは疑はれぬ事實である。

□紅燈區域全廢の都市

ニューヨークに於ては、千九百十年の「十四人組」の調査も其後の奮鬪に續き千九百十二年に成れる「ヴアイス●コンミツシヨン」の調査と活動あり、終に其社會的害惡の中心たるテンダーロイン區域の廓淸を見るに至つた。

其他の大都市に於ける調査と紅燈區域全廢との年を示さう。

市名	人口	調査の年	全廢の年
アトランタ	十五萬五千	千九百十二年	千九百十二年
ボルチモア	五十五萬九千	千九百十三年	千九百十五年
ブリツジポート	十萬二千	千九百十五年	千九百十五年
シカゴ	二百十八萬五千	千九百十年	千九百十三年
クリーブランド	五十六萬	千九百十一年	千九百十五年
デンバー	二十一萬三千	千九百十三年	千九百十三年
グランドラピツヅ	十一萬三千	千九百十二年	千九百十二年
ハートフオード	九萬九千	千九百十二年	千九百十二年
キヤンサス	二十五萬	千九百十一年	千九百十三年
ルイスヴイール	二十二萬四千	千九百十五年	千九百十七年
ミネアポリス	三十萬一千	千九百十一年	千九百十三年
ニューアーク	三十萬一千	千九百十四年	千九百十七年

ニューヨーク	四百七十六萬六千	千九百十二年	千九百十六年
フイラデルフイア	百五十四萬九千	千九百十二年	千九百十三年
ピッツバーグ	五十三萬四千	千九百十二年	千九百十四年
ポートランド	二十萬七千	千九百十二年	千九百十三年
リッチモンド	十二萬七千	千九百十四年	千九百十四年
セントルイス	六十八萬七千	千九百十四年	千九百十四年
シラキユース	十三萬七千	千九百十二年	千九百十三年
スプリングフイールド	五萬一千	千九百十四年	千九百十五年
ホノルル	五萬二千	千九百十三年	千九百十七年

この他に人口五萬以下の小都市及び昨年五月以後國法を以て勵行するに至れる無數の都市は今叙述を略す。概算二百の都府と稱せられてゐる。

□全廢の齎す三大教訓

今このは遊娼制度絶滅の潮は殆んど全米に澎湃として溢れてゐる。吾人紅燈區域全廢を以て直に娼婦の全滅と輕信するものではない。されども此運動は少くも三つの最も肝要なる結果を齎したるは明かである。一は公娼にせよ私娼にせよ、商化せられたる遊娼の社會的位地を全く一變せしめた。

所謂「開放都市」に在ては娼婦を弄ぶことは或は默認せられ或は公許せられ若くば法定制度となつてゐる。社會の必用なる制度と思惟せられてゐる。道德上には甚しく非難しつゝ、法律上には全く若くば半ば營業權を與へてある。登錄せるもの、又は或種の税を納むるあのは其不道德行爲も是認せられ、然らざるものは同一の行爲たるにも拘はらず罰を受く。かゝるものに向つて徹底せる方針を定め又は矛盾せざる政策を望むことは固より困難である。自ら社會の態度は不健全に陷り、幾多の腐敗を伴ふは言ふまでもない。今紅燈區域を一掃し、乃ち遊廓を全廢するに依つて、性的商賣に對する嚴然たる社會的非難の禁令を見ることができる。是れ社會的に存在を許すべからざる不道德行爲であり又同時に不法行爲であると云ふ概念を一般に與へることができる。若し然らずして如何てか積極的政策を樹立することができやう。二には紅燈區域を全廢せしめたる社會的良心の覺醒の結果でもあらうが、又性的慾情を肆にすることを是認して人の情合を刺戟するものを全廢せる結果でもあると考へられるが、全廢の都會にては娼婦の數は減じ其程度は輕くなつた。三には此制度に必ず隨伴する警官の腐敗、嬪夫と稱する惡漢の跳梁等は自ら少くなつた。以上の三つは米國に於ける此方面の專門學者の擧示せるところであるから吾人は大に之に留意せなければならぬ。

□遂に娼婦の根絶

紅燈區域の全廢、言ひ換れば遊廓廢止は、今や全米の輿論であるのみでなく、已に約二百の都市に於て實行せるところであるが、各市の調査委員は皆悉く更に一歩を進めて遊娼の根絶を主唱してゐる即ち法制上にはアボリション主義（公娼廢止）よりレプレッション主義（娼の根絶）に進むでゐる。絶娼主義を絶叫してゐる。唯に言論に於て主張するのみでなく、絶娼主義によりて着々施設するところあるを見る。余は前に聊か之に論及せ

るが、（廓清運動と法制其一を見よ）最近十年若くば十五年間の風紀法制の進歩は實に著しいものがある。

刑法を以てデスオーダリーハウス（風紀を亂す家の意）を禁じ、之を保つものを罰するは全米各州の刑法の示すところ

インジャンクション、エンド アペートメント法により、市民は何人と雖も私かに風紀を紊す行爲を營む場所を告發して之を閉鎖せしむる權能を有するに至れるもの三十一州ある。此法の應用に依りて密娼を蓄ふる銘酒屋又はホテルを告發し銘酒屋の背後に設けたる曖昧なる室房を禁止し、下宿屋規則の改良を促し、舞踊館及び活動寫眞館の取締を嚴にし、街上又は公衆集會場に於て風紀を紊すものを禁遏する法律を勵行せしむるなど數ふるに遑あらず。十年前には娼婦輸入を禁ずる法律の存せるは二州のみであつたが、今は四十八州に及び、中央政府には此法律の外に、破倫の人民の入國を嚴禁する法律あり。十年前には娼婦に對し即決裁判を與ふるナイト コート（夜間裁判所）は、ニューヨークにあつたのみだが、今や風紀監察官（モーラル スクアーツ）及び婦人警察官と云ふ新制度は多くの大都市に設けられ、風紀振肅の實效を擧ぐること少々てない。

□根絶と積極的救治策

絶娼主義は理想家の空想のみと嘲笑するを止めよ。己に敵の第一戰線たる紅燈區域を陷れ、而して其第二戰線たる魔窟のサルーンやカフエやキャバレーや又はホテルやアパートメントなどは、前に述べたやうに殆んど陷落に近づいてゐる更に第三戰線たる貸部屋又は自動車利用等の最も内密的の手段をも禁遏する法制を施けるところも少くない。

望むところは市民の覺醒と警官の正直にして敏活ならんことと、是等法制の勵行し活用あらんことを待つのみである。斯くの如くして飽くまで禁絶の方針を以て迫擊してゐるのである。

然も誤解するなかれ、法律制度の力を以て之を禁遏するは、絶娼主義の一手段のみ、更に救治的及び積極的の手段を運らさねばならぬ。即ち習慣性の娼婦の救治遷善の方法を講じ、低能の婦人を隔離する制度を設け、幼年男女の保護に努め健全なる娯樂機關を整備し、住宅及び勞働狀態の改善を講じ、更に性的教育に注意を怠つてはならぬ。娼婦及び娼婦たらんとしたる婦女の救治を目的として建設せられたるもの國立の救濟院のほか洲立のもの三十三ある。私立のもの亦數多し更に最近に於て國民保健の見地より、總括的にして且根絶的なる花柳病豫防及び救治の政策を執るに至れることは前回に報じたる如し。廓清運動の經濟的及び敎育的の方面は別に之を述べむ。今は唯、其法制上の一班を叙し最近の趨勢を明かにするのみ。（終）

街路の噂

折角撲滅した淺草の私娼か又候跋扈して來た。從來は銘酒店であつたから、彼樣な浮目を見たのだが、今度は造花小賣業といふ立派な營業だから官憲だからと云つて然う無暗に、足を踏込ませないと報聞いてゐるといふ事だが、隨分酷い屁理屈を云ふものだ▲如何に營業でも、取調べの必要があれば、ドシ〳〵探査する事が出來るやうに法律が制定されてあるのだから、其樣な理屈は通さないが、困つた事には國家が賣淫を公許する位だから、從つて密賣淫の罪も輕いので、彼等が科料や拘留杯を平氣で居る以上は、其の撲滅も覺束ないではなからうか。

日本婦人の無力と覺醒（二）

法學博士　山脇玄

五　ルツソーの奴隸說

併し乍ら歐米諸國に於ける女子教育が、今日てこそ我國のそれより頗る進歩して居るけれども、十九世紀後半以後からの事であつて其の以前は現代に於ける我國の如き弊害に陷つて居たのてある。西歷千七百六十二年、彼の佛國のルッソーは女子教育に就て、這麼所說を吐いて居る。

女子の德は服從にある。溫和は女子の美質である。女子は不完全にして不行跡に且つ常に過失多き男子にも又從順なるが本質である。女子は幼少より不正の事にも克く堪へ、配偶者の過誤をも忍ぶことの修養を積む可きで、如何なる場合でも配偶者のことを他人に訴へてはならぬ。女子が奴隸の境遇より男子の侶伴たる境遇に進行するやう自然が與へた手段は只一つ詐術の道あるのみ。女子は其の存在も幸福も自ら生み出すに非ざれば德義の標準に依つて自己の措置を決す可き者に非ずして、先づ周圍の判斷を俟つやう修養されなければならぬ。女子は德義上服從すべきが如く精神上にも獨立すべきに非ず。女子の宗教は權威に從はねばならぬのであるから少壯女子は母親の夫れを、妻は夫のそれを奉ぜねばならぬ。假令それが僞宗教であるにもせよ、女子が精神上の働きを爲すは必ず男子の精神上の作爲物の應用でなければならぬ云々。

ルッソーの所說は女子を奴隸の地位に滿足せしめんとすることは明らかである。ルッソーは當時の佛國が非常な贅澤奢侈に流れ國民擧つて重稅に困んだ其風潮に乘じて、『人間は原始時代に返らなければならぬ』と絕叫し、佛國の人氣に投じて革命場裡の立役者となつた丈の話で別に深い教育のあつた男ではなかつたから、斯る亂暴な論を吐いたのであらうが、又之に依つて觀るも當時の佛國に於ける女子教育の狀態が窺はれるのである。蓋し此論を讀んで我國今日の女子教育法と對照して觀れば、其間に大なる逕庭が無い事が首肯される。否な寧ろ東西處を異にし時は白五十餘年を隔つるも兩々殆ど其の主張を同ふするの感があるのである。吾人は果して克く斯る教育論を是認し、隨喜する事が出來るであらうか。賢明なる歐州女子は決して長く斯る不合理な教育論に服從する譯には行かなかつた。で彼等は早くも女子は只だ男子の爲めに教育さるべき理由は毫も無い筈である。女子も男子と等しく人間である以上、男子が男子として本能を磨くに足る丈の

教育を受けつゝあるやうに、女子も又女子としての本能を發揮する丈の教育が受けられぬといふが如き不公平なことがあらう筈はないといふ事を自覺し、此の最も至極な理由を以つて有志婦人が蹶起して、或は新聞に雜誌に或は講演に依つて廣く社會に訴へたのであつたが、弱き個個の力を以つてしては到底其の主張を貫徹する事が甚だ至難であると見て取つて、遂に千八百八十七年に至り伯林の多數婦人は一團となつて女子教育の革新運動を開始することになつた。而して其の婦人團體の中で傑出した婦人は伯林の多數婦人を代表して、プロイス國の文部省及び衆議院に女子教育革新の請願を提出したのである。此の婦人はヘレーネ、ランゲ女史と呼んで實に近世婦人發達史の卷頭を飾る人物である。ランゲ女史の請願の内容は略ぼ斯うであつた。

從來の女子教育の主要なる缺點は智識か表面にして聊かの聯絡なく、之を修得させるのでなく詰込むのである。之を以つて學力を附けるのではなく、物質的に所有させるに過ぎぬ。何故斯うであるかといふに學校丈で一人前の人間に完成させるといふ主義を採つたからである。女子に諸學科目の概略と完成の判斷を與へて十六七歳迄に普通教育と稱する凡ての物を授ける仕方であるからである。斯る主義は女子の天職に就ての過てる見解から出でたのであつて、即ち女子は男子の爲めに男子の需要に應じて教育す可しといふのであつた。此の時弊を矯めんとするには締切完成主義に代ふるに學力を附ける主義、即ち女子は男子に關係なく女子夫れ自身の爲めに精神上德義上獨力の人格を得る爲めに教育されて、文化上の職責を完うし得るやうに修養すべしといふ主義を以てせねばならぬ』云々。

六　自治獨力觀念の存否

要するに女子が主張の要點は學課目に聯絡なき事、詰込主義、締切主義の教育法たる事、女子の判斷力養成に缺る事、科目が餘りに多きに過ぎる事等であつて、科目相互に聯絡なく徒らに詰込むが故に、生徒は科目丈のものを教はつたとは云へやうが、夫を修得したとは云はれぬ。之を食物に例ふれば咀嚼し嚥下し吸收されて熱となり血となり肉となつたとは云はれない。從つてそれが學力とはなつて居らぬ。凡て女學校の教育は後日社會に出てゝ大なる社會教育を受ける迄の準備教育に過ぎぬのである。且つ又人間の修養は如何程やれば之で締切つて滿足して良いといふものでないのに、學校で締切完成主義の下に學校さへ卒業すれば、夫で修養は歇めても可いといふやうな教育を施して居るから、女子が女子として將た又國民として滿足に教育されぬのである。又之を教へるにも疑ひの無いやう立派に判斷された結果のみを教へて生徒自らをして判斷させるやうに仕向けぬから自治獨力の觀念も判斷力も乏しいのである。尚ほ科目が多過ぎて淺く廣く教育されるから着實正實と云ふ緊張つた風が無い。只輕薄な上調子一方となる。科目を減じて深く教へれば眞の力が養はれるといふのである。即ち人格と智識を備へた完全な人間を作ることが出來ると云ふのである。

吾人は以上の論を讀むで、現在我國に於ける現代の教育法と對照して觀れば一字一句を増減せず其儘直に以つて我國の

女子教育に對する皮肉な批評となす事が出來るでなからうか。

□革新思想と歐米婦人

次でランゲ女史は女學校長並に上級の教師は必ず女子でなければならぬといふ強き確信を抱き、更に教師の向上を圖る爲めに師範學校の設立をも其筋に請願したのである。又ハンナモール女史は『英國の女子教育組織』と題する著書中に女子教育の根本缺陷を明確に加も強烈に指摘して居る。曰く

當時の女子教育は外觀の爲めにするもので外面的坐作進退の熟練及び交際術の爲めにしたるに過ざれば、眞の修養より餘程遠ざかつたものになつて居る。女生徒は只だ小詩作拔萃、斷片を問答體に暗誦するのみてある。而して何人も彼等の精神を開發して明確なる智識と判斷力とを與ふるものを授くるといふことには考へ及ばなかつた」云々。

尚ほアンナ、パブリッツ女史も當時の佛國女子教育を批評して左の如く云つて居る。

上中流社會の女子の多くは尼寺に於ける偏狹な教育を受け宇宙觀人生觀の如きは大の禁物であるから、社會に出て、實生活に接する場合に、兎角因循に捉はれ易く從つて事物の革新を嫌ひ、公衆の前に現はれて活動するが如き勇氣は皆無である」云々。

當時是等の革新思想に對しては、當然論難喧しかつたにも拘らず根強く其の主義を主張し、遂に其の說の正當なることを認められて女子教育に一大革新は行はれた。即ち女子も人間として教育するに至り今日の歐米婦人の如き人格智識を生み出すやうになつたのである。而して此の革新を見るに至る迄には可成數多の歲月を要したのであつた。

□我國現時の婦人問題

現代社會上の一大問題は性の問題である。元來社會は人間の結集であるが其の人間には男女兩性がある。社會が復雜になり人間生活が多端になると男女の位地境遇等に多大の變化を生じ其間に葛藤の生ずるのは止むを得ないことてある。十九世紀は實に物質文明に大變化を生じた。而も其の中で性の問題の如き新時代の問題として大なる未來を有するものはない。而して性の問題中最も困難にして攻究するを要するものは社會的事業問題である。何となれば婦人は社會の少くとも半數に亘つてゐる處の分子であつて之が從來は家庭に居て生産者の地位にあつた者が產業革命の爲め其の地位を失ひ、男子同樣消費者の地位に變轉したからには徒らに安閑として徒食する譯に行かなくなつて、社會に出て何等かの事業に從事しやうとするのであるから社會に取つても非常なる變化であるからである。斯くも婦人を驅つて家庭より社會に追出すに至つた原因は、種々複雜なるものがあるであらうけれども、其の主とする原因は社會の進歩と共に家庭の仕事を社會が奪去つたのと、生活難の壓迫甚敷がため婦人をして單なる消費者として置く能はざることゝなつてある。例へば衣服にしても今日は分業の世の中で殆ど之を専門業者の手から仰ぎ食物にしても又次第に其專門業者の手から得るやうになつて居る。此の傾向は我國に於ては未だ左程に發達して

居ないのであるが、歐米になると衣服は殆ど之を出來合ひで求め、食物も殆んど之を他から買入れるので家庭では衣食の世話が甚だ少ない。況して都會に於ては斯る傾向が著しいのであつて、從つて都會に於ては婦人の家庭に於る製作事業が一般工業及び專門業者の分業に奪はれて居るから、婦人は社會事業に携はらんため、將た又生活の困窮を救ふため勢ひ他に出て、事業を求める事になるのである。之が即ち女子の社會事業問題を頻繁ならしめる一大原因であるのである。我國の如きは未だ女子の製作事業か幾分殘つて居るから女子の社會事業問題が歐米の夫の如くではないが、製造工業が漸く進步發展して女子の家庭に於ける仕事を次第に奪去り、加ふるに社會の進步と人慾の增長より起る生活難が迫つて來るに從つて日に月に此の問題は躍起して迫るに相違ないと思ふ。我國でも既に都會の地では婦人の社會事業といふことが自然つ必要上研究問題になつて居る。

□戰後の婦人問題

如斯社會の變轉は女子を驅つて社會事業を求めしむるに至つて、從つて腕力及び腦力に於て特に男子を要する事業の外は女子の之に耐へ得る事業には何處へでも携はるに至り、一見すると女子が男子の事業に切り入つて大に是と競爭するの狀態を呈しつゝあるのである。夫れで女子の外に出て事業を求める事が女子本來の性質、及び其の天職たる家庭の妻母としての責務を疎かにする事になるといふので女子の社會事業を難じて呪咀する人が頗る多いが、之は社會の進化を無視した見解であつて過去に捉はれた偏見である。吾人の見る處を以つてすれば女子が社會事業を求めることは、社會自然の要求で社會が進步すればする程、此の要求が著しくなるのである。而して女子の社會的活動は決して家庭に缺陷を生ぜしめるものでないといふことは歐米の實生活に徵して見ても明白な事實である。今次の歐洲大戰亂は恰もよく婦人の社會事業問題を解決しつゝある感がある。大戰勃發するや英國の如きも擧國一致婦人も共に國事に鞅掌するに至つた。左しもに熱狂的態度であつた、パンカースト女史一派の女權擴張運動さへも國家の危急に際し、一も二もなく年來の主義行動を後廻しにして國事に奔走し、後援事業に努力して居るではないか。加るに漸く男子が多數に戰地へ出征するに從つてあらゆる工業及び官公廳等に女子が多數使用せられるに至つた。之は所謂戰時の應急處置であるが、斯くて又婦人が從來男子の占有し居つた事業に可能であるか何うかを試みられる事となつた。果して女子が從來男子の執つて居つた事業に可能でありとすれば、將來の女子事業問題に確實なる檢證を得る事となるのである。又今回女子が占め得た新事業は戰亂が休止した曉に於て直に女子が退いて男子が代はるとは行くまい。矢張女子が殘るとすれば今後の社會に於ては兩性の社會事業上に由々敷變轉を來すことになるであらう。兎に角女權論者が擧國一致母國擁護の下に、自然に年來の宿望を解決しつゝあるとは大に注目す可きことであると考へられる。斯る世界の大勢に伴れて女子が如何なる社會事業にも携はらねばならぬとしても、先立つものはつまり教育に據る素養でなければならぬ。即ち平素の修養に成れる資格の具備である。然

らざれば現場に臨んで心は矢竹に焦つても何等かの素養か無ければ何の役にも立つものでない。實に教育は萬事の基礎である。

□我國のランゲ女子は

然るに我國現代の女子教育界の識者中には偏狹なる賢母良妻主義に滿足せず、女子の本能を發揮する爲め人間としての教育を授くる事の急務であることを主張しつゝある人もないではないが、尙ほ左顧右眄容易に改革の機運に到達しないのは甚だ遺憾である。去り乍ら教育者の側より起る運動のみに委して居ては前途遼遠であるから、新進婦人の團體的協力に依つて行はれるのでなければ、我々の期待の如き革新を觀ることは不可能であると思ふ。我國に於けるヘレーネ、ランゲ女史たるものは誰であらう。吾人は其の出現を期待して止まぬのである。

近來新しい女と稱へて或は奇嬌な言語を吐いて世人を驚かし、或は自由戀愛を唱へて世の指彈を招いて居るもの、其の脫線した行爲、中には從來の日本婦人の類型を破る先鋒として取る可き新說銘案がないとも限らぬ。吾人は新しい女を何も惡い意味に解するに及ばない。新進婦人として善意に解し其の主張に果して採る可きものあれば喜んで採る丈の度量がなくてはならぬ。新しい女といふ名のみに拘泥して、一言の下に之を排斥する如きは餘りに偏狹過ぎはせぬであらうか。冀くば斯る女子も徒らに世人の疑惑を敢て買ふのみの行爲に出でず其の努力を正當に用ゐて吾人と共に一日も早く教育界の革新が實行の道に就くやう、奮鬪努力を切望する次第である。（終）

米國と獨乙との比較

自國の文化は、世界にて最優秀なるもの、この文化を世界に扶殖する爲には、如何なる「力」を以てするも毫も遠慮氣兼を要せずとは獨逸の主張なり彼は國家として野獸的本能を發揮して遺憾なからんことを、臆面なく露骨に世界に向つて發表せり。彼の出發點は「自國」にあるなり。米國は然らず。支那を啓發するに永久的教育機關の施設を要すとせば、乃ち之が爲に幾千萬の鉅資を投ずるを辭せず。露國の紛亂救援せざる可らずとせば、乃ち之が爲に啻に軍隊を送るのみならず、產業、交通教育、宗教、凡ゆる平和的施設を戰時に於て着々遂行す。米國の戰時に於ける平和施設は支那や露國のみに止まらず。遂に佛國にまで及んで佛國の人口減少、民族衰耗の傾向を、根本的に救濟するに、教育衞生の二方面より、凡ゆる方法を盡すべく努力を傾注しつゝあり。彼の出發點は、世界のためなり、人道のためなり、自由平和のためなり。その旗幟何んぞ正々堂々たる。その主義主張何んぞ至善にして且つ至美なる。而して英國の既に略ぼ成した所、また獨逸の大に成さんとせし所を、この大戰爭の眞最中に於て幾んど遺憾なく成就すべく豫想せしむるは米國なり。日本は獨逸たる能はず。米國たる能はず。支那に對する策、露西亞に對する策、共に不徹底にして煮切らず。（宮地生）

新しい二重人格者の身元

文學士 中村蓊

□ぐづ〳〵した女が男性的に活動を始め＝

＝意識の分裂が人格の分裂となる□

今日こゝで材料として用ゐます二重人格者は、今年三十二歳になる婦人で、四國のある町のもの、昨年五月、ふと東京へ出て來まして、私の家へ雇ふことになり、ある機會でこれは確に二重人格者だといふことを發見しました。

■この婦人、平生甚だ謹み深く、ぐづ〳〵して一の事を賴んでも、なか〳〵容易に出來ませぬ。ところが催眠狀態に入つて二重人格が現はると、頗る活潑に働く、女らしい所が無くなつて、男性となつて現はれ、そして飮み且つ歌ひ踊り、のんだくれとなつて活動する。端唄をうたひ、淨瑠璃をかたり、或は詩吟もやる。いづれも相當に巧い。酒呑み相手の友逹との談し工合も時々頓智頓才が顯はれて面白い。些も馬鹿なところ間拔けなところがなく、氣が利いてゐる。平生の遲鈍なやうな風體とは全く異ふ。君の名は何んといふかと尋ねると「久也」だといふ。かうした間斷ない活動をやるかと思ふと、それで催眠狀態から醒める。まるきり飮んだり歌つたり踊つたりしたことを、些も記憶に留めてゐない。全然別人格である。「久也」とは何ういふ人かと糺いても知りませぬといふ。後に調べてみると「久也」とは弟の子の名である。

■この催眠狀態に現はれる人格は、何うして何處から來てゐるかを研究して見たいと思つて、種々方法を運らしたけれども、何うしても解らぬ。つまり二重人格者は意識の分裂が、人格の分裂となるのであるから、此者も確に然うであらう。幼時の記憶が現はれて出るのに異ないと、見當をつけたが、何うも確でない。そこで何うかして之を見出したいものだと思つて、いろ〳〵手蔓を求めて、身元の方を調べて見ました。そして最近に愈々その故郷まで出懸けて、この二重人格者の母親に面會して、その經歷を詳しく聞いてみたので大分解つて來て愉快に思つてゐます。

□幼より讀書は普通、今も新聞は讀む＝

＝三び嫁して發狂したことがある□

■母親の話によると、この材料の娘は、明治廿年八月六日に產れて、兄弟は九人なれど、三人は幼時に死くなり、六人殘つてゐるさうで、この娘は總領だといふ。そして發育の狀態はと糺いてみると、赤坊の時から胃腸がわるく、食中りなどすることよくあり、這ふことも起つことも步くことも、餘所の小供よりも二三ヶ月ぐらゐ遲れ、肝性が强く、よく泣き、いくら諭しても聞分がない、他人のとこへゆきて遠慮勝ちなるはよいが正直といふよりも愚直で、玩具なんかよく他の小供に取られて失くして來る。人より物を借りると、くよくよ心配してゐる。或る時も小學校で雨傘を失つて、皆歸つた跡に、ぼろ傘一本しか殘つてゐない、學校の小

父の年齡と遺傳

理學博士 山内繁雄

年齡の進むに從ひ、人の心意狀態は、色々に變化する。例へば、一少年が身體健全强壯で、普通の人々の中では、一寸賢こく、物でも分れば、年齡三十歳頃になると、自分の仲間よりは、自分の方が物事が餘程分り易いと思ひ、大に自負の心が出易い。自分は偉くて、他の人は自分ほどには偉くないと思ひ、動もすれば、自分よりも年長者が、遙かに自分よりは優れて居る事さへも忘れ易い。先づ身體の强健なのに任せて、體育の方に走り、二十五才前後になれば、一層性慾も盛に感情も高まり易い。三十才位になれば、或は文學美術等にも趣味が出來、音樂なども嗜むやうになる。三十四五才の頃は、身粧、服裝なども注意して整へるやうになり、四十才に逹して實務の事に興味多く、時には審美の方よりも實利といふ事に走り易い。或は地方又は市の政治の事にも手を染める。四十才頃で子供があれば子の考へなき事等を叱かる。凡そ五十才になれば、青年時代の熱情去り、凡ての問題を冷靜に、道德上より又は哲學的に見る。卽政治、世界的善、平和、人道の爲め、又慈善事業等の事に留意するやうになる。父の心意狀態が、子に傳はるものならば、父が若い頃に生れた子は、活潑に利己的で、我儘かもしれぬ。三十才と四十才の頃に生れた子は、或は音樂に、美術に、頗る審美的の趣味あり、四十才と五十才の頃に生れた子には、道德、慈善の事に當る傾向の人が出るかもしれぬ。之を實際の例で見るに、

父が五十一才以上になつて生れた人々の中には、道

使はこれでも持つてお往きといふのに、雨の下くゞりて、びしよ濡れになつて來るといふ始末、學課の成績は、手工がゝつたものが劣つて、墨さへ濃く磨れない最も劣つたのが數學で、唯だ讀み方だけは普通であつて、それでも小學校だけは、どうやら落第せずに卒業した。大人となつて記臆が乏しく、言ふことが冗漫で同じことを繰返しいふ。

然し母を輔けて、弟妹の世話もできるだけするし、若い時に賃機を織つたこともある。十八歳にして緣付いたが、夫は先妻を全く離緣してゐない爲に、一ヶ月間經たゝぬ中に暇をとつて來た。そして寥いて居た。それから他へ再び緣付いたが、其處も間もなく離緣になつて、寥いてゐた。廿一歳の時、三たび緣付いた。先方は僧侶で小學校の敎師であつた。そこでは御經も敎はつたり他の讃辭もしたり、睦敷暮らしてゐたが、ふと或時發狂したといふことである。その發狂の狀態は、牛生に似ず、踊つたり、變態なことをいつたりしたが、別に亂暴はしなかつたさうだ。私はそれを二重人格の現はれだと思ふ。その夫に逢つて聞いてみたかつたが能はなかつた。

ある時、夫なる僧侶の留守中に多額の金が失くなつたさうだが、その人にも先妻があつて、時々來たさうである。この女は親家が貧乏であつた爲に、自分が疑はれうかと、大層それを氣にして寥いてゐたが、一年間にて此處も離緣になつて、二十二才にして昨年實家に戻つたのである。

□父は東京で法律を學び、漢學ができ=

=如何にも始末に了へぬのんだくれ□

■次に二重人格者たる女自身の言ふところを聽いてみると、自分は一度しか緣付いたことがないといふ。幾度紅いても然ういふ。三度嫁したことがあるのに、全く事實に合はぬことをいふ。片付いた先は土方であつたといふ、これも事實と違つてゐる。父は何ういふ人であつたと聞くと、これも土方であつたといふ。時には荷車を挽き、人力車も挽いたので、自分も後押しをしたといふ。されども事實は然うでない、父は城下に生れた士族で、學生の時代から酒を好んで、上京しては法律學校で學び、司法省に勤めたこともあつたが、廿六歳の時、國元へ歸つて、妻帶させられた譯だ。さうして父は漢學の素養があつて、漢詩も作り、手跡もなかなか立派なもので、國では縣知事の官房淨書係りを勤めて居たさうである。浪花節、筑前琵琶、淨瑠璃など何んでもやつたといふことである。然し年とつても不相變のんだくれて、夜遊びはする、酒友達をつれて來て飲む。もう酒がなくなつたといふ、借りて買つて來へといふ、肴がなくなる、又借りて買つて來いといふ、母は度々金がなくて買ひにゆくことが恥かしいから、逡々してゐると刄物を以て脅威する。娘は其處まで至らせぬやうに、いつでも母に代りて酒肴を買ひに、辛らい思ひして往つたさうである。父ののんだくれが、いかに強い印象を鑄つけたか知れぬ。父が酒のために肺炎にかゝつた時分に、女は第三に嫁した家で發狂してゐる。

■かういふやうな狀態で、女自身の平生の意識に浮ぶところと、催眠狀態に入つて現はれるところと、全然別人格である。(梗概、文責在記者)

■哲學、究理、慈善等に身をいれる人が多い。例へば、
アリストートル、アルナールド、ベーコン、ボイル
佛陀、孔子、フランクリン、ライプニッツ、モゼス
セネカ、ソロモンの如き

父が四十一歳と五十歳の間に生れた人々の中には、政治家たる人が多い。例へば、
ビスマルク、カンニング、カトー、クロンウエル、
グラッドストン、マキアベリー、ペーター大帝、ウ
エブスターの如き

父が三十一歳と四十歳との間に生れた人々の中には音樂、詩、文學に嗜好のある人が多い。例へば
バッハ、ベトーヴエン、メンデルゾーン、ゲエーテ
シルレル、シエークスピア、アンジエロ、ラフエル
カーライル、ゴールドスミス、マコーレーの如き。

父が三十一歳で生れた人々の中には、進略的に敢爲の氣性に富んだ人が多い。例へば、
アレキサンダー、ナポレオン、グランド、フレデリ
ック、ハンニバル、ポンペーの如きである。

以上に擧げた處で、父が五十一歳以上の子は、道徳、哲學、審美等の事に、好んで身を入れる性格を具へて居る。父の年が、四十一歳と五十歳との間に生れた子は、政治家としての伎倆のすぐれたものが多い。父の年が三十一歳と四十歳との間に生れた子は、美術家、音樂家、文學者等が多い。父の年が三十歳以下の間に生れた子は、敢爲の氣象強く、他を己れに服さしめんとする希望に滿ちたるものが多い。

又使用して得た性質は、子に遺傳するものならば、努力する人である以上は、年の多い丈け才能も增し、之れが子に遺傳する譯ゆゑ、父の年が老けて居る丈け、立派な子が出來る筈、即ち自分の生れた時の、父の年齡の多いほど偉い譯であるから、總領の甚六といふのは尤もで、早婚は大に愼まればならぬ。

精神病者に對する醫學と法學

法學士 山崎佐

▲一種の人道問題

精神病者といふものを、醫學から觀るのと、法律學から觀るのと、往々にして吻違ふことがある。醫學と法律とが、各々自己の範圍を嚴格に守りて、相侵さぬと同時に、兩者の間に圓滿なる調和が見られるやうにならればならぬ。

精神病者に對する醫學は、近時なか〳〵著しい發達を見たければも、法律の研究は今の處とても之に追及できさうもない。以前は精神病者を取扱ふに、据風呂を倒にして、穴みたやうな場所へ押籠めて、それでも法律上何等顧慮せられなかつた時代もある。これではな精神病者を救治する目的が遂せられ無いばかりではなく、人道上から見ても、頗る刻薄なる取扱といはればならぬ。

明治三十三年になつて、精神病者の監護法といふものが規定されたけれども、これとても頗る不備缺點の多いものといはればならぬ。元來精神病者といふものは、一般に社會に危害を及ぼす虞あるものと看做されて、現今にても監護法によつて取扱はれてゐるが、監護となれば法律上の根據がなくてはならぬ。

▲犯罪の上の責任

さて其の法律上の根據といふことになると、大に議論が生じて來る。例へば民法上に禁治產、準禁治產の規定があつて、心神喪失の場合には禁治產となり、心神耗弱の場合には、準禁治產となるのであるが、夫ならば何處までが心神喪失で、何處までが心神耗弱であるかといふことに就て、醫學上と法律上との見解が、必らずしも一致吻合しない。此に於て實際上これが解決に非常に困難を感ずることになる。他の例の場合に於て考へてみれば、狂人、人を殺すも無罪であるが、その理由は、狂人には責任能力がないからである。さるにその責任能力の解釋といふものゝ學說が、又學者の面の異つてゐると同じやうに異つてゐる。かういふことを考へてみると、愈々益々法律と醫學との交涉の容易ならぬことが思ひ知らるゝ。双方互に侵犯しないやうに、其の缺を補ひ合ふ圓滿なる解決を見るには、法律の研究も更に一層の進步を見なければならぬ。

▲幼年犯罪の研究

次に幼年者の取扱ひである。不良少年、犯罪少年といふものが、近ごろ年々益々增加してゆく傾向があつて、法律上の取締や、敎育機關の設備が進步しても、不良少年、犯罪少年を減少するに足らぬ。感化院などの設備もだん〳〵發達してゆくけれども、かういふ少年を收容して、まだ全體の幾分にも達し得ない。一人の不良少年がいかに多く社會を害し、その餘害を周圍に及ぼすか知れぬが、これを適當に取扱ふ道が十分に樹つて居ないことは、法律上から見ても社會上より見ても、此上もない缺陷である。法律上では十二歲までの幼年に對しては、特別の取扱を以て、執行猶豫することになつてゐるが、その執行猶豫となつた者が、大半再犯者となるに至つては、實に驚くべきことで、法律の力は、いかに甚しく裏切られてゐるかを思はざるを得ぬ。

近年親しく實地に就きて、幼年者の裁判を試みたる結果によつて考ふるに、彼等犯罪少年、不良少年といはるゝ者共は、妙な力には非常に利口で、普通の人よりも却て發達してゐるやうに見えるのがある。さうかと思ふと、惡事を惡事と感ぜず、押詰めて糺ねると唯だキヨロ〳〵してゐる。善惡につきての感覺が極めて遲鈍にして、良心が痛く麻痺してゐるところは、全く精神病者として取扱ふべきものであると察せらるゝのが大部分である。彼等の多くは活動寫眞を好む。如何はしい活動寫眞によりて挑發される所が多いやうである。それから小說講談本などでも、何ういふ種類のものを好むかといふと、大抵低容物である。何故にそれを好むかといふと、そこになると考へが行き詰りて何んとも答へ得ぬ。唯だ茫としてゐる。善惡とか必要不必要といふことを考へて事を爲す力が缺けてゐて、唯だ心の趣くまゝに放縱に流れ、自分で自分を抑制する能力が殆んど無いのである。

かういふ少年を取扱ふに、普通の犯罪人を取扱ふと同一の方法を以てしてはなるまい。普通の監獄制度では不可い。されば何うすれば適當であるかといふと、此にも法律と醫學とか、充分に手を携へて圓滿なる交涉を遂げ、相當の取扱をなす必要がある。(談話大要)

下狀に通ぜぬ米の廉賣

水津千雲

米價暴騰に因したる全國各地の騷擾は、實に悲しむべき現象てあつた。政府當局は斯の如き事變の惹起すといふ位な事は疾くに氣が付かなくてはならぬのに、姑息極まる方法を講じて米價の調節を遲延せしめた結果てある。國民といへども決して輕擧茲に至つたのてはあるまいと思ふのは、日本國民の生活程度の上より見れば●東京の如きとて米一升は廿五錢位から卅錢位が標準のやうに思はれる。一升五十錢に至つては何條堪へ得られやうか。當路の大臣はじめ要所の御役人が下狀に通ぜぬより起つた問題てある。

今回の事變の主なるものは中產階級者の叫びであつて、其叫びは下級細民に響いて事は下級より發したのに、政府當事者は單に下級民の無謀なる暴動の如くに考へて居るらしい。其一例としては當路者の口より發せらるゝ談話や訓示或は命令等の中に、細民の文字が發見されるのみか一圖に細民窟をさして米廉賣を行うた。其貧細民或は下級民は現時の生活は世間の好景氣に連れて潤澤なのてある。事實苦痛を忍んで居るものは中產階級者てある。其後新聞紙は筆を揃へて中產階級者の叫びてあることを書き初めて來たために、當路者の人々も中產云々を口にして居るやうてあるのは結構てはあるが、其實際は未だ中產階級に米の廉賣が行き屆いて居ない。殘念至極に思ふ。中產階級者は國民として責任を解し、義務を自覺し、名譽を重じ、向上的精神に富み模範的行動に出て、虛榮に捉はれない堅實な國民てある。米の一升買ひといへども敢へて行はない處は、以上の責任より威信を保たなくてはならぬためて、一升買ひは細民の恥ぢない行爲てある。時間を限り場所を限つて、三升以下の米を買ひ出しに行くほど、無責任者は居ない。東京府の係員が下谷の或る方面ては商家のやうな人も官吏のやうな人も一升買ひに皆出て來たことは美しい事だ云々と語られたとの新聞記事を見たなれど、斯かる一部の行爲を以て國民一般の習慣を律しやうとする當路の人々は下狀に通ぜぬからの事てある。中には高いのは止むを得ない、借財してもこの難關は切拔けなくてはならぬといふ人もあるのと比較したら、この係員は何う考へる事てあらうか。殊に一般國民とも稱して差支ない、最も大多數の中堅國民たる中產者に對して細民と同視されて取扱を受ける事は中產者の好まぬ所てある。若し甘んじて之れを受けるやうになれば國家の風敎は墮落したのてある。自分は區の役人に逢つたとき眞に困れば見榮も氣の毒もないから、一升買ひにも出掛けるてせうとは何たる慘酷な考へてせう。人を救ふといふことは人のためにするので己れの利益の爲てはあるまいと思ふ。出來得丈の便宜を圖るのが當然て、御上みの命令て據所なしといふ風が見える不親切極まる人道の敵てあると思つた。只人に遣る丈ても己れの利害を考ふべきものてないのに、勞苦に得た金を以て買ふのてある事を彼等は氣が付かぬのか。これも下狀に通ぜぬ所か人道に通ぜぬ役人共の考へてある。

今回の事變も眞に中產階級の國民が、直接に暴擧に出てたときは政府は如何とも致し方がないのみか、日本國家滅亡の時機てある。幸にも吾が國民中中產階級は堅實てあるから、忍ぶ所堪へる所までは堪へるのてある。これが封建時代の遺物て武士氣質てある。武士は變じて士族となつたが、この士族的精神が顧る尊重すべき點て、下級民は暴動しても中產者は單に叫んだ丈てある。叫んでも事の輕重前後は考へる國民てある。露國の滅亡を見て憂ふる人もあるが、日本には未だ武士氣質があるから、幾分なりとも士族の遺子が居る遺傳的精神は、今の處却々滅しさうもないが、若し滅する時が來たら日本に革命が起るだらう。

政府當事者は士族を尊重せぬけれども、國民は士族的精神を修養せよ、士族精神の滅せぬ限りは、日本國民は堅實て健全てある。斯くの如き下狀に通ぜぬ政府當路の人々は、徒らに米廉賣を決行しても狡猾者流の腹を肥やす斗りてある。「受くるより與ふるは幸なり」とは徒らに受くべきもてはないといへる半面の廉恥心を敎へたものてある。「其道に在らざれば、一簞の食も人に受くべからず、若し其道に在れば堯舜の天下を受くるも以て泰しとなさず」之日本武士道の精髓てある。

この國民に向つて米を與へむと欲するなら、今少し其方法を研究して細民と呼ばず、廉賣しなくてはなるまい。少くとも府知事や市長などは、下狀に通ぜぬ方を以て米の配給を企てゝ居るから困つたものてある。

終りに臨んで中產階級國民を單に新聞紙などは月給生活者のやうにいうて居るけれども、必ずさうてはない。中產階級者を縱斷すると智識階級(智階級)物資階級(物階級)勞働階級(働階級)の三つに分れて居る。併しこれは上中下に社會を橫斷したものと縱斷すればこの三つて分れるけれども、中產階級者(自分は特に中級民といふ)は比較的堅實てある。向上的氣分に充ちて居る。責任を感ずること、義務を履行すること、權利を主張すること、之れに件つて勤勉なること等、最も國民中最優位に居るものてある。故に資本家と勞働者とに分れて來る社會は、次第に滅亡に歸するので、日本は幸に上中下に分類が出來て封建時代は、武士がこの中產階級者に在つたが、明治になつて士族に變じ、これが社會の有ゆる方面、官吏軍人政治家敎育家實業家工業家と分れて、仕事をするやうになつて、今日の中產者の武士的精神の根底をなしたのが、實に日本國に取りて喜ぶべき進化てあるといはねばならぬ。大正の御世は族稱は廢されたも同樣てはあるが、事實は士族若しは士族系に出てたる國民と純平民より出てたるものとは大いに其精神狀態が異つて居るのは、誰れも承認する所てある。尙詳細に分解したいが、玆には單に附言として參考に供する積り故多くをいふを欲せず、唯下狀に通ぜぬ人々の爲めに其大略を述べて置く。(八月廿三日)

祖國の大精神と世界の思潮

廓清會江東支部幹事 家田作吉

我國神代史を繙くに天照大神三種の神器を皇孫瓊々杵尊に授け勅して宣はく「豊葦原瑞穂國は吾が子孫の王たるべき地なり。爾往いて治めよ。寶祚の隆えまさ

んこと天壤と與に窮り莫かるべし」と。又宣はく「此鏡を見ること猶吾れを視るが如くし、殿を共にし、を同じうし、以て齋鏡とせよ」と。惟ふに我國三千年の歴史は多少の迂餘曲折を經たりと雖も要は實に此一大理想に向つて進みつゝありと云ふことを得べし。

夫れ我日本の國民性には幾多の注意すべき特長あり、其一例を擧ぐれば皇室を始めとし奉り一般國民が三種の神器の一なる鏡の如き純潔玲瓏無垢なる精神を體得し尊重するが如きこと是れなり。此精神一たび外形に顯はれて清浄潔白を欲する所謂潔癖の特性となり、彼の冠婚葬祭の際は勿論、重大なる任務を果す場合にも其の初めに於て齋戒沐浴以て身體を清むるを常とす。今日に於ても世界中最も多く沐浴を執り身體を清むる者は我が日本人に若くものなし。

而して此清浄潔白てふ思想は男女の關係に及び妄に淫猥卑劣なる行爲を許さず、其規律頗る峻嚴たるものありき。彼の應神天皇の御代百濟の博士王仁來り論語千字文を獻じて以來、我國文教の上に一大進歩を與へたりと雖も、彼の儒教には女子の人格を完全に認めさるが故に、男子が妾を蓄ふることに付何等咎らるることなかりしを以て、夫婦間の完全なる貞潔を發揮することを得ざりし缺點ありたり。又欽明天皇の十三年百濟王佛像經論を獻じたるを初めとし佛教の思想輸入以來所謂禁慾主義を主張し且つ男は高くして淸く、女は卑くして不淨なるものなりとの不平等なる觀念を與へ、女は高野山其の他の靈跡に登るを許さず、爲めに彼の悲劇的なる「石童丸」の如き可憐なる物語なども出てたるなり。故に是等儒佛の二教は男女間の貞潔なる德操を進むる上に於ては、格別なる向上進歩を與ふることなく、抑て幾分の妨害と退歩を來したるを見る。

吾人は又彼の開國五十年前より我國に輸入し來れる基督新教は、學術に社會各方面より之を觀察し、又儒佛諸教に對照し比較研究せば種々なる利害得失の議論あるべしと雖も、男女の關係に於て厳然一夫一婦主義を高唱して夫婦は一體なりとの觀念を與へ、殊に男子に對しては「古の人に告て姦淫するを勿れと言へることあるは爾曹が聞し所なり。然ど我なんぢらに告ん凡そ婦を見て色情を起す者は中心すでに姦淫したる也、もし右の眼なんぢを躓かさば抉取つて之を棄よ蓋五體の一を失ふは全身を地獄に投入らるゝよりは勝れり、もし右の手なんぢを躓さば之を斷て棄よ蓋五體の一を失ふは全身を地獄に投入らるゝよりは勝れり」との實に破毀犯すべからざる教訓を垂れ我國信仰上思想上に一大革新を與へたるの一事に至りては、一般識者の見逃すべからざる一大事實なり。蓋し我國民が古來清浄潔白を尊重する思想が一時浮雲の爲めに蔽はれたるも、一たび此燦爛なる教の爲めに啓發せられて大なる共鳴となり、一層鍛練せられて一夫一婦の下に其の淸きと完きを求むるに至りたるは實に喜ぶべき慶事なりと云はざるべからず。

然るに玆に悲むべきは、我國に於て婦女を奴隷視する、彼の不法極まる公娼制度の如きものが數百年前より認められ、今日に於ても依然其の陋態を改めずして現存するが如きは、國家の體面上より見るも倫理道德上より見るも看過すべからざる不祥事たり。最近統計の示す所に由れば全國の娼妓の數四萬八千餘人、藝妓の數四萬七千餘人、酌婦の數四萬六百人、是れに私娼其他の淫賣婦を加ふるときは實に其の數二十萬を超へ其の遊興費亦一億六七千萬圓の多數に上り、其の夥多なること世界中第一等たるの汚名を受くるに至りては實に慚愧の外なきなり。

殊に彼の花柳病の如きものが、我が愛する同胞兄弟姉妹の間に非常なる勢力を以て傳播し感染しつゝあることは實に驚く可きものあり。殊に未來の相續者たるべき青年男子が壯丁として檢査を受くるに當り、花柳病に罹るもの頗る多く五人中一人の黴毒患者ありと云ふに至つては、實に寒心の極と云ふべきなり。

又專門家の調査する所に由れば、我が東京市の如きは花柳病に罹るもの下流又は中流の社會よりも上流の社會に多く、而して上流の男子のみならず婦人にも頗る多しと聞く。是れ豈驚くべき事實にあらずけ。蓋は云ふ迄もなく其の上流の男子が、新橋、柳橋、吉原其他の遊里に自動車を走らせ彼等怪しき娼婦に接することに由りて惡病に感染し、延いて細君其の他の家族に傳染するが爲めなり。吾人は實に此罪なき家族に對し一滴同情の涙を禁ずること能はざると同時に、人格の高ざる上流社會の男子が流す所の害毒が如何に恐るべきものなるかを今更の如く感ぜざるを得ず。

吾人が皇室に對し我帝國に對し最も忠誠なる國民たらんことを欲せば、男女共己れの品性を潔め人格を高むるにあり。而して眞に純潔和樂なる堅實の家庭を作るにあり。夫れ今日の社會は百の不純潔なる家庭よりも一の純潔なる家庭を要求す。此純潔なる家庭には實に洋々として盡きざる生命の泉と力の流れとあるなり。而して國家の柱石たるべき潔くして强き子孫は此家庭より生れ出づるものなりと知らずや。

今日全世界を通じて流るゝ一大思想は平民的思想なり、民本的普及思想なり、解放的自由思想なり、此思想の動く所何なる富者も貴族も學者も智者も之れに抵抗するの力を有せず、故に我國民たる男子も女子も大に自覺して此思想の上に立たざるべからず。徒らに男子が女子を玩弄物の如く奴隷の如く蔑視するの時代は既に々過ぎ去れり、吾人は高尙なる人格と純潔なる德操を以て立ち彼の忌むべく惡むべき鄙猥淫靡墮落の徒を征服せざるべからざるなり。

我が　皇室に於かせられては古より民を見ること赤子の如く實に嚴父慈母の觀念を以て立たせ給へり。古代よりの御詔勅を拜讀するに「民の喜びは朕の喜び民の富は朕の富なり」てふ君民一致の大精神を以て一貫し給ふことは實に感佩の外なきなり。吾人は又明治先帝の御歌「曇り無き人の心を千早ふるかみはさやかに照し見るらむ」を拜讀して　皇祖天照大神の御精神が三千年の後に於て明治先帝の大御心と合一するを仰ぎ見て欽仰の情禁ずること能はざるものあり。

吾人は此稜威ある皇室を戴き世界の大潮流に棹して其の針路を誤るなく、男女自覺の下に確固たる純潔和樂の家庭を作り、社會の風紀を革新し以て其の天職を全ふし　皇祖天照大神の理想し給ひし建國の大精神を實現し、世界の最高最善最强なる天壤無窮の帝國を築き上ぐる爲めに奮勵努力せざるべからず。

編輯之後

▲金風粛殺として、天高く馬肥え、人心自ら緊張を感ずるの秋、寺内内閣は倒れて、原内閣が生れた。憲政の本義よりすれば、與黨が代つて政閣に立つ如きは責任制ではない。從つて更迭の意義を半ば沒却するものであるが、多年世人の翹望したる政黨内閣の出現＝官僚の後援によるにせよ＝に就ては歡迎せざるを得ない。殊に歴代大臣の椅子が左視右眄、各方面に氣兼し若くは其の勢力を綜合せんとして焦慮する見苦しき跡あるに對し、思ひ切り黨人を拔いて之に配置したるは、甚だ我等の意を得たるものである。

▲併し、政友會の從來の態度に就ては、吾人は最も飽厭たる一人である。恐らく今後と雖も何等の期待を此内閣に持つ事は出來まいと思ふ。けれども床次氏が内相の椅子に凭られた事は些か強い。氏は人も心知る如く現代の黨人中珍らしい人格で、藝妓の如きものも近けないといふ事である。畑違ひの中橋氏の文部大臣に至つては、文教の事を侮辱するの感があるが、大岡氏が就かなかつたのは、未だしもの幸ひであらう。

▲政界既に人心を一新するの時、本會も亦新しき活動の序幕が開かれんとしてゐる。昨春渡米したる理事益富政助氏が、理事山本邦之助、評議員日匹信亮二氏の聯合軍慰問使として歐米に派遣せらるゝ際、同氏亦共に英佛に渡られて居つたが、愈々山本益富の兩氏は來る十六日横濱へ歸着せらるゝ事となつた。從つて戰時に於ける歐米の男女問題、婦人問題等に就て新しき事實新しき意見を聞く事が出來るであらうし且つ新しき運動を大に起す事となるであらうと期待して居る。

▲益富氏と云へば、先達て私が安部副會長の處に行つた時安部先生は益富氏から自分は從來野球と云ふものを見た事がなかつたが、今度始めて有名なチームの試合を見て、端なくも米國の偉大なる所以の一つを今更知つた。それは野球といふものは團體競技であつて、自己の屬する團體の爲め自分一個は態と犧牲になつたりする場合が屢々あり、社會生活の精神をあの中に見出される、之に比較すると日本の國技と稱する相撲は個人的で、社會的ではない。之に號外を發して騷ぐ如きはいまだ日本人の社會生活が利己的たるを脱せぬ一證とも見られやう。私が歸つたら大に相撲撲滅野球奬勵論をやらうと思つた。といふ事であつたとて、安部先生大ニコ〳〵であつた。

▲秋に入つた、大なる活動を起した處に、埼玉縣岩槻町の私娼指定地問題がある。牧師にして本會員たる茂村徳太郎氏が中心となりて大活動をされてゐる。又長野縣辰野の林正善氏から、支部發會式を擧ぐるからといふので辯士派遣の申込があり、濱松市に於ては、大阪の林歌子女史を迎へて近々コーツ博士と共に廓清演説會を開く筈て、京都のニップ氏からは大津、膳所等に於て演説會を開きたいと申込まれて來た。活動の氣は既に全國に澎湃として起らうとしてゐる。（伊藤生）

▲婦人參政權の提議に對して、米大統領ウヰルソンは滿腔の誠意を傾倒して、これに贊同を表した。英國にあつても戰爭の後には、この問題が大に進展することは明白である。その理由は英國にありても、米國にありても同樣である。即ち婦人の力が加はらずしては、一國の運命を賭する戰爭もてきないからである。戰後の經營を考へるについても、婦人の力を除外して何もできさうも無いからである。日本にしても一家の經營は勿論、農工商いづれの方面から見ても、婦人の力が年々益々多く加はつてゆくのみである。されば順當に考へて見ると、此處にも婦人參政權運動の聲が、既に起らねばならぬ時期に達してゐる。然し婦人の多くは未だ自覺しない。世の識者といはるゝ人々も婦人を眼中に置いて居ない。その最も的確なる一例は最近に於ける教育會議にて決議されたる女子教育改善の件にある。その決議では相變らず婦人を舊道德の羈絆で束縛して置かうとするのである。海の彼方と此方とには、思想上打超えられぬ大い距離がある。これで以て世界に國を立てゝゆかれるのであるか。

▲「新しい村」の武者小路氏等、愈々三四十人申合せて日向へ趣いた。彼等は勞働の爲されねばならぬこと。その勞働を成るだけ簡易にして、その餘の力をできるだけ多く、「自己の天分を發揮する爲めに用ゐんことを志して、「新しい村」の建設に着手した。彼等の多くは獨身ものらしい。夫婦ものは極めて少い。彼等が村を經營するに、意外なところに困難と障碍の潜むことを發見して其處に彼等は非常な努力と奮鬪とを要するであらう。われは彼等が思想と信仰とを實生活化する新しい試みに對して多大の敬意を拂ふ（宮地生）

▲一時は何うなる事かと案じられた米騷動も、收用令や取引所立會停止やらが米價に影響を與へた結果漸次下落して來たので、需要者はホット息をついた。『雨降つて地固る』とは此の事かも知れぬが、又一方には之れと反對に、又候騷動をも仕兼れ間敷傾向が生じた。外でもない、それは供給者側であるが、何でも『物價の昂騰が米をして騰貴させた迄の事て、獨り米のみが昂騰した譯てはないのに、何故か政府は他の諸物價を顧みずして、米價を强制的且つ威壓的に下落させやうとするは實に言語同斷である』といふにあるが、若し彼等の思潮が、此儘推移されて行くものとすれば、他日必ず國家の不祥事に再會する憂へがあるから、後繼内閣に列する當局大臣の最善の施設を望むで歇まぬ次第である。（小林生）

大正七年十月一日印刷（毎月一回一日發行）
大正七年十月一日發行　一部　定價金十錢
本號に限り定價廿錢

編輯兼發行人　神田區今川小路一丁目三番地　伊藤秀吉
印刷人　小石川區大塚窪町一番地　久保民生
印刷所　本郷區眞砂町三十六番地　三光堂
發行所　神田區表猿樂町十番地　廓清會發行所
電話本局四〇三五番
振替東京二七〇七二番

藁屑となりて送る世の中を寶玉の如く送れ世の人

寶玉となるべき人は健腦丸常に用ゆる腦の良き人

健腦丸

島村醫學博士
有効證明

最良なる
腦病神經病新藥

主効

●腦病 ●腦膜炎 ●腦貧血 ●便祕 ●耳鳴 ●搐搦 ●卒中
●腦充血 ●神經痛 ●眩暈 ●中風 ●健忘 ●頭痛 ●逆上

●健腦丸を常に少量づゝ持藥とせば逆上を引下け、便通を心能くし、恐るべき腦充血を全治し、中風、卒中を未發に防ぎ記憶力を增進する特効あり。

藥價 一日分十錢、三日分廿錢、七日分四十五錢、二週分八十五錢、五週分金二圓

本舖
大阪市心齋橋貳丁目 丹平商會本店
東京市日本橋區箔屋町 丹平商會支店